

**2023年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
300番台
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覽

【発行日：2023/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【F9102】 Natural Science A [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	1
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6001】 第三外国語としての朝鮮語A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	3
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6002】 第三外国語としての朝鮮語B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	4
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6003】 第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	5
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6005】 第三外国語としての朝鮮語A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	6
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6006】 第三外国語としての朝鮮語B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	7
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6051】 日本語コミュニケーションA [副島 健作] 春学期授業/Spring	8
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6052】 日本語コミュニケーションB [副島 健作] 秋学期授業/Fall	10
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6101】 漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	12
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6102】 漢字・漢文学B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	13
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6103】 教養ゼミⅠ [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	14
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6104】 教養ゼミⅡ [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	15
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6105】 文芸創作講座 A [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	16
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6106】 文芸創作講座 B [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	17
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6107】 日本芸能論A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	18
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6108】 日本芸能論B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	19
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6109】 身体表現論A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	20
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6110】 身体表現論B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	21
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6111】 美術論A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	22
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6112】 美術論B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	24
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6113】 芸術と人間A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	26
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6114】 芸術と人間B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	27
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6115】 仏教思想論A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	28
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6116】 仏教思想論B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	30
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6119】 教養ゼミⅠ [森村 修] 春学期授業/Spring	32
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6120】 教養ゼミⅡ [森村 修] 秋学期授業/Fall	33
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6121】 中国の民族と文化A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	34
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6122】 中国の民族と文化B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	35
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6125】 古代日本・中国の法と社会A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	36

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6126】 古代日本・中国の法と社会 B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	37
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史 A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	38
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史 B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall.....	40
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】 教養ゼミ I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	42
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】 教養ゼミ II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	43
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6131】 クィア・スタディーズ A [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	44
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6132】 クィア・スタディーズ B [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	46
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6133】 キリスト教思想史 A [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	48
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6134】 キリスト教思想史 B [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	50
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6137】 異文化コミュニケーション論 A [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	52
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6138】 異文化コミュニケーション論 B [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall.....	54
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6141】 教養ゼミ I [矢澤 美佐紀] 春学期授業/Spring	56
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6142】 教養ゼミ II [矢澤 美佐紀] 秋学期授業/Fall	57
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6143】 イギリスと帝国 A [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	58
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6144】 イギリスと帝国 B [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	59
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6145】 教養ゼミ I [副島 健作] 春学期授業/Spring	60
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6146】 教養ゼミ II [副島 健作] 秋学期授業/Fall	62
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6201】 法哲学 A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	64
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6202】 法哲学 B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall ..	65
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6203】 教養ゼミ I [坂根 徹] 春学期授業/Spring	67
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6209】 人文地理学セミナー A [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	68
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6210】 人文地理学セミナー B [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	69
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6211】 文化人類学方法論 A [石森 大知] 春学期授業/Spring	70
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6212】 文化人類学方法論 B [石森 大知] 秋学期授業/Fall	71
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6213】 教養ゼミ I [犬塚 元] 春学期授業/Spring	72
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6214】 教養ゼミ II [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	73
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6215】 人間行動学 A [久木田 敦志] 春学期授業/Spring	74
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6216】 人間行動学 B [久木田 敦志] 秋学期授業/Fall	75
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6219】 沖縄を考える A [明田川 融、大里 知子] 春学期授業/Spring.....	76
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6220】 沖縄を考える B [明田川 融、大里 知子] 秋学期授業/Fall	77
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6225】 ヨーロッパ政治経済論 A [千葉 千尋] 春学期授業/Spring	78
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6226】 ヨーロッパ政治経済論 B [千葉 千尋] 秋学期授業/Fall	79
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6227】 法の人間学 A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	81
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6228】 法の人間学 B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	83

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6301】 自然環境のしくみとその変貌A [加藤 美雄] 春学期授業/Spring	85
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6302】 自然環境のしくみとその変貌B [加藤 美雄] 秋学期授業/Fall	87
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6303】 数理論理学A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	89
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6304】 数理論理学B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	90
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6305】 計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	91
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6306】 コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	92
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6307】 確率の世界A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	93
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6308】 確率の世界B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	94
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6311】 相対性理論と宇宙A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	95
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6312】 相対性理論と宇宙B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	96
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6313】 現代の錬金術A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	97
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6314】 現代の錬金術B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	98
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6315】 原子核と素粒子A [吉田 智] 春学期授業/Spring	99
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6316】 原子核と素粒子B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6317】 教養ゼミ I [島野 智之] 春学期授業/Spring	101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6318】 教養ゼミ II [島野 智之] オータムセッション/Autumn Session	103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6323】 イオンの科学A [向井 知大] 春学期授業/Spring	105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6324】 イオンの科学B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6325】 光と色の科学A [中島 弘一] 春学期授業/Spring	107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6326】 光と色の科学B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 ITリテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6341】 バイオイメージングの世界A [木原 章] 春学期授業/Spring	115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6342】 バイオイメージングの世界B [木原 章] 秋学期授業/Fall	116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6401】 教養ゼミ I [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6402】 教養ゼミ II [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語A [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	120
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語B [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	121

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6423】ドイツ語コミュニケーション中級A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6424】ドイツ語コミュニケーション中級B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6425】教養ゼミⅠ [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	124
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6426】教養ゼミⅡ [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6427】ドイツの思想A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6428】ドイツの思想B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6429】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏A [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring	130
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6430】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏B [柳橋 大輔] 秋学期授業/Fall	132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6431】比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6432】比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6433】ドイツ語圏の芸術A [辻 英史] 春学期授業/Spring	136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6434】ドイツ語圏の芸術B [辻 英史] 秋学期授業/Fall	137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6435】留学ドイツ語A [林 志津江] 春学期授業/Spring	138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6436】留学ドイツ語B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	143
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6507】スポーツ科学A [白井 隆長] 春学期授業/Spring	149
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6508】スポーツ科学B [白井 隆長] 秋学期授業/Fall	151
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6509】スポーツ科学A [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6510】スポーツ科学B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	155
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6511】スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	157
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6512】スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6513】スポーツ科学A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	161
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6514】スポーツ科学B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6517】スポーツ科学A [中澤 史] 春学期授業/Spring	163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6518】スポーツ科学B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	165
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6519】スポーツ科学A [笠井 淳] 春学期授業/Spring	167
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6520】スポーツ科学B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ【Q6523】教養ゼミⅠ [藤岡 成美] 春学期授業/Spring	169

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6524】 教養ゼミⅡ [藤岡 成美] 秋学期授業/Fall	171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6529】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	173
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6530】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6531】 教養ゼミⅠ [林 容市] 春学期授業/Spring	177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6532】 教養ゼミⅡ [林 容市] 秋学期授業/Fall	179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6533】 教養ゼミⅠ [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6601】 第三外国語としてのフランス語 A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6602】 第三外国語としてのフランス語 B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6605】 教養ゼミⅠ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6606】 教養ゼミⅡ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6607】 教養ゼミⅠ [ル・ルー清野 プレンダン] 春学期授業/Spring	189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6608】 教養ゼミⅡ [ル・ルー清野 プレンダン] 秋学期授業/Fall	190
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6609】 フランス語コミュニケーション(中・上級) A [ル・ルー清野 プレンダン] 春学期授業/Spring	192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6610】 フランス語コミュニケーション(中・上級) B [ル・ルー清野 プレンダン] 秋学期授業/Fall	193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6701】 第三外国語としてのロシア語 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	194
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	195
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級 A [エレナ 三神] 春学期授業/Spring	196
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級 B [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6705】 実用ロシア語 A [エレナ 三神] 春学期授業/Spring	198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6706】 実用ロシア語 B [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	199
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6707】 ロシア語講読 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6708】 ロシア語講読 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	201
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6709】 時事ロシア語 A [油本 真理] 春学期授業/Spring	202
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6710】 時事ロシア語 B [油本 真理] 秋学期授業/Fall	203
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6801】 第三外国語としての中国語 A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	204
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6802】 第三外国語としての中国語 B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	205
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6809】 中国語コミュニケーション中級 A [周 重雷] 春学期授業/Spring	206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6810】 中国語コミュニケーション中級 B [周 重雷] 秋学期授業/Fall	207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6811】 中国語翻訳・通訳 A [高田 裕子] 春学期授業/Spring	208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6812】 中国語翻訳・通訳 B [高田 裕子] 秋学期授業/Fall	209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6813】 中国語翻訳・通訳 C [王 安] 春学期授業/Spring	210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6814】 中国語翻訳・通訳 D [王 安] 秋学期授業/Fall	211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6815】 中国語講読 A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6816】 中国語講読 B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	213

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6819】 資格中国語中級A [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	214
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6820】 資格中国語中級B [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6821】 資格中国語上級A [康 鴻音] 春学期授業/Spring	218
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6822】 資格中国語上級B [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	219
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6823】 教養ゼミ I [岩田 和子] 春学期授業/Spring	220
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6824】 教養ゼミ II [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6901】 第三外国語としてのスペイン語A [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring	222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6902】 第三外国語としてのスペイン語B [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall	223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6905】 スペイン語上級A [大西 亮] 春学期授業/Spring	224
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6906】 スペイン語上級B [大西 亮] 秋学期授業/Fall	225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6907】 スペイン語コミュニケーション中級A [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	226
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6908】 スペイン語コミュニケーション中級B [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	227
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6909】 教養ゼミ I [久木 正雄] 春学期授業/Spring	228
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6910】 教養ゼミ II [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	229
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6911】 スペイン語講読A [若林 大我] 春学期授業/Spring	230
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6912】 スペイン語講読B [若林 大我] 秋学期授業/Fall	231

BIO200LA

Natural Science A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

リ・自／※定員制 (30 名)

その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs), has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions, as needed.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.

Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems.
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト (教科書)】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40%), a final assignment (40%), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hoppii.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です, ます」「～があります, います」などを理解し, 簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・定員制授業です。第 1 回授業 (対面授業) に必ず参加すること。その中から抽選します。連絡は Hoppii にて行います。
- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課: 文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課: 文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課: 文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課: 文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課: 文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課: 文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課: ～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課: ～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課: 専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課: 専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課: 教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第 6 課: 教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・授業の復習を必ずしてください。

- ・疑問点が生じたら、すぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コッコツツギ、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円 + 税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典/日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出及び授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

教材動画・音声視聴のための Wifi 環境の整備。

【その他の重要事項】

定員制 (30 名) です。受講希望者は、第 1 回授業時 (2023 年 4 月 11 日) までに必ず Hoppii で「仮登録」をして教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者 (「仮登録」者) の中から抽選します。「本登録」許可者 (受講許可者) は、第 2 回授業までに Hoppii にて発表します。第 1 回め出席後、仮登録を辞退する (取り消し) する方は、速やかに、申し出てください。なお「第 3 外国語としての朝鮮語 B」(秋学期) も合わせて受講希望の方も、4 月 11 日までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合、こちらも抽選します。本登録は、受講許可者のみ可能となります。また、Q6001 (2 限) と Q6005 (3 限) と同内容の講座ですので、重複仮登録は禁止です。両方仮登録した方は、抽選の対象からはずします。秋学期も 2 限 3 限の重複仮登録は禁止です。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30%.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハンゲルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えていることが必要です。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか？ 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。

- ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コソコソ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・課題の提出および授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。
- 欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【その他の重要事項】

定員制 (30 人) です。受講希望者は、春学期のはじめ (2023 年 4 月 11 日) までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は、抽選を行います。Q6002 (2 限) と Q6006 (3 限) は同内容の講座です。重複仮登録は禁止。受講許可者 (本登録許可者) は、4 月 17 日までに Hoppii に掲示します。お試して、仮登録を行った方は、速やかに別途、ご連絡下さい。定員に余裕がある場合にのみ、秋学期の登録を認めます。追加登録の可否については、Hoppii に掲示します。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30%.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標とします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

フィードバックなどは、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについてと簡単な復習	授業の進め方について説明します
第二回	今日も友達に会いますか 1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか 2	発音について
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか 1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか 2	連体形について
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでもよし。

【成績評価の方法と基準】

総合評価の成績によります (100%)。60 点以上が合格です。(詳細は、平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%。) また、三分の一以上の欠席時は、成績評価基準にかかわらず、不合格になることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

< Learning Objectives >

The goal is to be able to read naturally and have simple daily conversations with correct pronunciation.

< Learning activities outside of classroom >

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination (100%)

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・定員制授業です。第 1 回授業（対面授業）に必ず参加すること。その中から抽選します。連絡は Hoppii にて行います。
- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第 6 課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。

- ・疑問点が生じたら、すぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コッコツ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出及び授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

教材動画・音声視聴のための Wifi 環境の整備。

【その他の重要事項】

定員制 (30 名) です。受講希望者は、第 1 回授業時 (2023 年 4 月 11 日) までに必ず Hoppii で「仮登録」をして教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者 (「仮登録」者) の中から抽選します。「本登録」許可者 (受講許可者) は、第 2 回授業までに Hoppii にて発表します。第 1 回め出席後、仮登録を辞退する (取り消し) する方は、速やかに、申し出てください。なお「第 3 外国語としての朝鮮語 B」(秋学期) も合わせて受講希望の方も、4 月 11 日までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合、こちらも抽選します。本登録は、受講許可者のみ可能となります。また、Q6001 (2 限) と Q6005 (3 限) と同内容の講座ですので、重複仮登録は禁止です。両方仮登録した方は、抽選の対象からはずします。秋学期も 2 限 3 限の重複仮登録は禁止です。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams: and in class contribution: 30 %.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハンゲルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えていることが必要です。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課: 何の本を読んでいますか?	ヘヨ体の作り方 (1)
3	第 7 課: 午後、時間大丈夫ですか?	助詞「を」「も」
4	第 8 課: テコンドーを教えています。	ヘヨ体の作り方 (2)
5	第 8 課: スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課: 電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方 (3)
7	第 9 課: 何時におきますか?	助詞「～から～まで」(場所)、固有数詞。
8	第 10 課: 野球が好きです	ヘヨ体の作り方 (4)
9	第 10 課: 野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」(時間)、曜日
10	第 11 課: 時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課: どこか具合悪いですか?	語幹の用言、+用言 (否定形)
12	第 12 課: 両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課: 何をしますつもりですか? 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。

- ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コソコソ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円+税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典/日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・課題の提出および授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。
- 欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【その他の重要事項】

定員制 (30 人) です。受講希望者は、春学期のはじめ (2023 年 4 月 11 日) までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は、抽選を行います。Q6002 (2 限) と Q6006 (3 限) は同内容の講座です。重複仮登録は禁止。受講許可者 (本登録許可者) は、4 月 17 日までに Hoppii に掲示します。お試して、仮登録を行った方は、速やかに別途、ご連絡下さい。定員に余裕がある場合にのみ、秋学期の登録を認めます。追加登録の可否については、Hoppii に掲示します。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30 %.

LANj300LA

日本語コミュニケーション A 2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一般の日本人母語話者 (日本人) は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができるかと考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、身近な日本語がどのように成り立っているかを分析し、無意識に使っている日本語の奥にひそむ法則性を見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 言語資料から言語的事象を取り出す方法を身につける。
2. 広く相対的な観点から日本語を捉える方法を身につける。
3. 相手の感情を害する誤用とはどのようなものか、発話スタイルなど、誤用以外にも相手の感情に影響するものがあるか、考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

必要に応じて、フィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の基本的な姿勢、自分で考え、自分の考えをほかの人に積極的に伝え、ほかの人に意見を聞いてさらに考えを深めようという姿勢について概観します
2	「ことばの意味」について	分析の材料として「ことばの意味」を取り上げます
3	「和語・漢語・外来語」について	分析の材料として「和語・漢語・外来語」を取り上げます
4	「会話の失敗」について	分析の材料として「会話の失敗」を取り上げます
5	「ことば遊び」について	分析の材料として「ことば遊び」を取り上げます
6	「話しことばと書きことば」について	分析の材料として「話しことばと書きことば」を取り上げます
7	「あいまい文」について	分析の材料として「あいまい文」を取り上げます
8	「カタカナ」について	分析の材料として「カタカナ」を取り上げます

9	「マンガのことば」について	分析の材料として「マンガのことば」を取り上げます
10	「方言」について	分析の材料として「方言」を取り上げます
11	「丁寧体と普通体」について	分析の材料として「丁寧体と普通体」を取り上げます
12	「漫才とことば」について	分析の材料として「漫才とことば」を取り上げます
13	「外国の人の日本語」について	分析の材料として「外国の人の日本語」について取り上げます
14	授業内試験	以上 13 回分の内容について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各トピックについての日本語の現象について、身近な例をたくさん集め、意識的に観察し、自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

野田尚史・野田晴美 (2017) 『日本語を分析するレッスン』大修館書店

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、試験の得点 60 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn how to extract linguistic events from linguistic materials.
2. To learn how to understand the Japanese language from a broad and relative perspective.
3. To think about what kinds of misuse of Japanese language are harmful to others' feelings, and whether there are other things that affect others' feelings besides misuse, such as speech style.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to collect many familiar examples of Japanese phenomena on each topic, observe them consciously, and think seriously about them in your own way. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LANj300LA

日本語コミュニケーション B 2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一般の日本人母語話者 (日本人) は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができるかと考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。現実のことは「非流ちょう」であるが、母語話者のことばと非母語話者のことばには「規則性」において大きな違いがある。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、母語話者の非流ちょうな日本語、とくに文節単位のコマ切れ発話を分析し、どのような規則性があるかを見つけて出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 現実の発話の姿について理解し、コミュニケーションを成立させる能力を培うこと。
2. コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

また、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「きもちの文法」について	「きもちの文法」について解説します
3	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係について概観します
4	「きもちの文法」の先行研究	「きもちの文法」の先行研究について概観します
5	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について i	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います ・付属語だけの発話 ・従属節の発話

6	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について ii	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います ・文節の発話 ・語の発話
7	「非流ちょう性」について i	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの量の不具合 ・ことばの質の不具合
8	「非流ちょう性」について ii	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの処理サイズの縮小 ・ことばが出てこず発話が停滞
9	「こま切れの文法」の定義	「文節単位のこま切れ発話」とはなにかについて解説します
10	「文節単位のこま切れ発話」について i	「文節単位のこま切れ発話」の特徴について解説します ・語順 ・イントネーション ・判定詞の表れ
11	「文節単位のこま切れ発話」について ii	「文節単位のこま切れ発話」の特徴について解説します ・終助詞の表れ ・【跳躍的上昇】の現れ
12	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 1	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します
13	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 2	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

「コミュニケーション」における日本語という言語について、日本の言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を意識的に観察し、その原因・理由について自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

定延利之 (2019) 『文節の文法』大修館書店
『コミュニケーション事典』平凡社
その他、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 点、課題 30 点 (含発表のパフォーマンス)、試験の得点 50 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to understand what speech looks like in real life, and to develop the ability to establish communication.
2. to acquire the knowledge and ability to reflect on speech when communication is not successful, and to revise expressions to avoid misunderstanding.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to reflect on your linguistic life in Japan, and consciously observe specific examples of misunderstandings and misinterpretations, and think seriously about the causes and reasons for these misunderstandings. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LIT300LA

漢字・漢文学 A

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・ 「六書」の紹介 ・ 漢字の起源と歴史 ・ 「字謎」の紹介
第 3 回	権力者と文字による予言	・ 予言の種類 ・ 歴史書に見える予言 ・ 「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・ 「志怪」と「伝奇」 ・ 文字が動かした寿命 ・ 読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・ 三つの予言 ・ 詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・ 近代諸国での流行 ・ 中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・ 「扶鸞」の方法と来歴 ・ 「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・ 宋代知識人の体験 ・ 明代のオカルト趣味 ・ 近代中国と「扶鸞」信仰

第 9 回	恋愛作品と文字	・ 『詩経』と「楽府」 ・ 恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・ 外交における機知 ・ 知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・ 避諱の制 ・ 姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・ 「推敲」 ・ 現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・ 詩が招いた幸運と悲運 ・ 「詩讖」の説
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

[Learning Objectives]

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

[Learning activities outside of classroom]

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

[Grading Criteria /Policy]

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA

漢字・漢文学 B

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 「ゆめ」の多義性 ・ 中国の夢分類
第 2 回	古代中国の吉夢	・ 誕生の予言 ・ 優れた人材を教示 ・ 栄達の予言
第 3 回	古代中国の凶夢①	・ 死期を悟る ・ 病魔の会話
第 4 回	古代中国の凶夢②	・ 国家滅亡の暗示 ・ 不明瞭な悪夢
第 5 回	知識人たちが得たお告げ	・ 文学的才能の獲得と喪失 ・ 創作のヒント
第 6 回	夢主に働きかける夢①	・ 夢と夢主 ・ 夢と現実の関連性 ・ 宗教的神秘体験
第 7 回	夢主に働きかける夢②	・ 死者の訴え ・ 前世の自分の訴え
第 8 回	復讐する死者	・ 生者に託した復讐 ・ 死者による復讐 ・ 復讐の為の転生
第 9 回	人外との交流	・ 助命嘆願 ・ 報恩と復讐 ・ 逆恨み

第 10 回	夢と恋愛文学	・ 夢での逢瀬 ・ 恋愛成就の神 ・ 夫婦の別離と再会
第 11 回	夢の世界の冒険	・ 怪異との接触 ・ 儂い栄達 ・ 動物への変身
第 12 回	他人と共有された夢	・ 「二人同夢」 ・ 危機の通達 ・ 夢での邂逅
第 13 回	日本における夢	・ 他人が見る夢 ・ 日本文学における夢
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト (教科書)】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点 (授業中の意見、小レポート等の提出物) 40%、期末の試験またはレポート 60%。

<基準>

- ・ 授業における取り組み (態度・意見)
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intend to talk about the stories of Japanese dreams.

【Learning Objectives】

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そのうち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。

第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今semesterにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今semesterにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 週間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ）20 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Course outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2 hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

50% submission of the work, 30 % active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部 (デテール) 表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今 semester では、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。

第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト (教科書)】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート (自分以外の受講者の作品 [三作以上] への批評文) 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Course outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2 hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての人間の中に物語が潜んでいます。その物語を引き出すために、この授業では小説を書くための基礎について学びながら、自分自身を語る力を身につけます。

【到達目標】

- 1) 小説を読む/書くための基礎について学ぶ。
- 2) 自分の書きたい世界を明確にし、言語化することができる。
- 3) 小説を読んで講評することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。
後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 小説家を目指すには何が必要なのかについて考える。
第 2 回	テーマの決め方	ブレインストーミングを行いながら作品のテーマを決める。
第 3 回	ジャンル	フィクション、ノンフィクション、オートフィクションについて学ぶ。
第 4 回	小説の始まり	書き出しについて考える。
第 5 回	小説の設定	時間と場所の設定について考える。
第 6 回	語り手と読者	語り手と視点、また読者について考える。
第 7 回	小説を書く (1)	これまでの授業を踏まえ、自分の小説についての構想を考える。
第 8 回	小説を書く (2)	小説を書きはじめる (2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 9 回	小説を書く (3)	小説を書き続ける (前回に加えて 2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 10 回	小説を書く (4)	小説を書き続ける (それまで書いたものと合わせて 6,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。

第 11 回	ブラッシュアップ	最終原稿（それまで書いたものと合わせて 8,000 字程度）の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第 12 回	講評 1	作品をみんなで読み、講評する。
第 13 回	講評 2	作品をみんなで読み、講評する。
第 14 回	まとめ	授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018 年）
ステイーヴン・キング『書くことについて』（小学館、2013 年）
デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社、1997 年）
Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 (20%)、グループワークと合評への参加度 (30 %)、学期末までに完成させた小説 (50 %) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす必要があることに気づきました。
原稿提出の締め切りや提出方法についてもっと詳しく説明する必要があることに気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

【Outline (in English)】

There is a story hidden in each of us. Students will learn to bring out their own stories by learning the basics of writing a novel.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understand the basics of writing fiction.
- 2) Identify the story they want to write about and give voice to the character(s).
- 3) Read literature critically.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

LIT300LA

文芸創作講座 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

LETIZIA GUARINI

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、文学と音楽と芸術との関係を考えながら小説を書くための基礎について学びます。受講者が好きな歌あるいは芸術作品を選び、それをテーマにした物語を書くという実習授業です。

【到達目標】

- 1) 文芸作品を分析することができる。
- 2) 小説を書くための基礎について学ぶ。
- 3) 多角的な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

グループでディスカッションを行いながら、受講者がそれぞれのテーマを決めます。そして小説の書き方の基礎について学びながら、小説を書きます。

フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 文学と音楽と芸術との関係について考える。
第 2 回	テーマの決め方	ブレインストーミングを行いながら、作品のテーマを決める。
第 3 回	小説の始まり	様々な文芸作品を読みながら、小説の書き出しについて考える。
第 4 回	時間と場所の移動	物語における時間と場所の設定について考える。
第 5 回	語り手と視点	語り手や視点の設定について考える。
第 6 回	小説の技巧	意識の流れや内的独白について学ぶ。
第 7 回	天気、名前、リスト	物語の詳細について考える。自分の小説についての構想を考える。
第 8 回	小説を書く (1)	小説を書きはじめる (2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 9 回	小説を書く (2)	小説を書き続ける (前回に加えて 2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 10 回	小説を書く (3)	小説を書き続ける (それまで書いたものと合わせて 6,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 11 回	ブラッシュアップ	最終原稿 (8,000 程度) の提出に向けて小説をブラッシュアップする。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 第 12 回 講評 (1) | 作品をみんなで読み、講評する。 |
| 第 13 回 講評 (2) | 作品をみんなで読み、講評する。 |
| 第 14 回 まとめ | 授業全体のまとめを行う。 |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』(河出書房新社、2018 年)
ステイーヴン・キング『書くことについて』(小学館、2013 年)
デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』(白水社、1997 年)
Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 (20%)、グループワークと合評への参加度 (30%)、学期末までに完成させた小説 (50%) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす必要があることに気づきました。原稿提出の締め切りや提出方法についてもっと詳しく説明する必要があることに気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of writing a story while considering the relationship between literature, music, and art. Students will write a story based on the theme of a work of art or a song of their choice.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Analyze literary works.
- b) Understand the basics of writing a novel.
- c) Develop multiple perspectives.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

ART300LA

日本芸能論 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ① 芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ② 研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要な基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③ プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④ 論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能 (時代・ジャンルは問いません) について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

〔参考〕 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「香道について」「エイサーの歴史と文化」「日本における『第九』の受容と定着について」「日本の馬事芸能～流鏑馬～」 「吉本新喜劇の歴史」

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	雅楽について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	伎楽について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	能について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	狂言について

第 8 回 受講生による発表・討論 グループ A の発表

第 9 回 受講生による発表・討論 グループ B の発表

第 10 回 受講生による発表・討論 グループ C の発表

第 11 回 受講生による発表・討論 グループ D の発表

第 12 回 受講生による発表・討論 グループ E の発表

第 13 回 受講生による発表・討論 グループ F の発表

第 14 回 まとめ 春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。秋学期「日本芸能論 B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に進みますので、当科目受講希望者も、春学期「日本芸能論 A」の学習支援システム上の「お知らせ」を確認してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA

日本芸能論 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

阿部 真弓

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

定員制 (40 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ① 芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ② 研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③ プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④ 論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能(時代・ジャンルは問いません)について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

[参考] これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「面能について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOI ソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見得とセーラムーン」

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	人形浄瑠璃の成立について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	人形浄瑠璃の様相について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	歌舞伎の成立について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	歌舞伎の様相について

第 8 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 9 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 10 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 11 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 12 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 13 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 14 回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。秋学期「日本芸能論 B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に進めますので、当科目の受講を希望する人は、「日本芸能論 A」の学習支援システム上の「お知らせ」を確認してください。

なお、秋学期「日本芸能論 B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論 A」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋舞踊の文化史について講義する。舞踊は最も古い芸術形式であるが、それがどのように生まれ、発展してきたかについて概観する。また、時代ごとに異なる舞踊のスタイルを紹介し、それがどのように文化や社会を反映しているのかについても検討する。舞踊の技術についての講義ではないので、注意すること。

【到達目標】

- ・西洋舞踊の文化史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～先史時代の舞踊	授業に必要な概念・用語の説明～舞踊の発生と種類
2	古代文明の舞踊	古代エジプト、古代ギリシア、古代ローマの舞踊
3	中世～ルネサンスの舞踊	中世の社会階層、コメディア・デラルテ、宗教・祭祀と舞踊、死の舞踏、世俗の舞踊
4	ルネサンスの舞踊～宮廷舞踊 (16～17 世紀)	宮廷舞踊、宮廷バレエの種類 (バレエ・コミック、他)、仮面劇、仮面舞踏会
5	宮廷舞踊から劇場へ (18～19 世紀)	カマルゴとサレ、ノヴェールのバレエ・ダクシオン、メヌエット、オペラとバレエ
6	ロマンティック・バレエ (19 世紀)	タリオーニ、グリジ、エルスラー、ワルツの登場、『ラ・シルフィード』と『ジゼル』
7	クラシック・バレエ (19 世紀)	『 Coppélia 』、プティパとイワノフ、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』
8	クラシック・バレエからバレエ・リュスへ (19～20 世紀)	『白鳥の湖』、フォーキン、ディアギレフのバレエ・リュス
9	19 世紀アメリカの舞台芸術	ミンストレル・ショー、フリーク・ショー、ヴァラエティ・ショー、ヴォードヴィル・ショー
10	アメリカのダンスの誕生	社交ダンス、ジャズ・ダンス

11	アメリカのダンスの成熟	モダン・ダンス～アメリカン・バレエ～ディスコ、ストリート・ダンス
12	ポストモダン・ダンス (1)	モーリス・ベジャール、ピナ・バウシュ
13	ポストモダン・ダンス (2)	ウィリアム・フォーサイス、ローザス
14	講義のまとめ	講義の補足とまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

Gayle Kassing. History of Dance. Second Edition. Human Kinetics. Kindle.

クルト・ザックス『世界舞踊史』

邦正美『舞踊の文化史』

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

期末レポート 50 % : 舞踊の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western dance culture. Dance is the most ancient form of art. This course will survey the origin and development of dance as an art, and present dance styles of various ages. The class will focus on how these dance styles reflect culture and society of a specific age. Be sure that this course will not teach the technique of dance, but the culture of dance.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western dance culture, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of dance critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、演劇はその時代の文化と社会を反映している。各時代の文化や社会が、身体表現にどのように影響を及ぼしているかを検討する。

【到達目標】

- ・西洋演劇の歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇 (1)	原始社会から古代文明における演劇の発生、アISKYLOS、ソフォクレスについて
3	古代ギリシア演劇 (2)	劇場の構造、ソフォクレス (続)、エウリピデスについて
4	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の演劇への影響について
5	エリザベス時代演劇 (1)	シェイクスピアの喜劇について
6	エリザベス時代演劇 (2)	シェイクスピアの悲劇について
7	フランス古典主義演劇	コルネイユとル・シッド論争、モリエールについて
8	風俗喜劇、オペレッタ	イギリスの風俗喜劇、オッフエンバックのオペレッタについて
9	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
10	近代演劇 (1)	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チャーホフについて
11	近代演劇 (2)	ヨーロッパ近代演劇、特に、バーナード・ショー、オスカー・ワイルドについて
12	現代演劇 (1)	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
13	現代演劇 (2)	アメリカのリアリズム演劇について

14 講義のまとめ 秋学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』(ちくま文庫)
シェイクスピア (福田恆存訳) 『ハムレット』(新潮文庫)
シェイクスピア (安西徹雄訳) 『リア王』(光文社古典新訳文庫)
日本演劇学会『ベスト・ブレイズー西洋古典戯曲』(相田書房)
岩瀬孝『フランス演劇史序説』(早稲田大学出版部)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
期末レポート 50%: 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body which is anchored in everyday life and reveals the possibility of a new movement of the body. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. Theatre is always a reflection of culture and society. The class will focus on examining how culture and society of a particular age have influenced the movement of the human body.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western drama, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA
美術論 A 2017 年度以降入学者
 稲垣 立男
 開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
 単位数：2 単位
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2023 年度の美術論 A では、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
 ・各時代のアーティストの実践（アイデアや制作論）
 について段階的に幅広く学んでいきます。

以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）

・古代美術、中世美術、近世美術
 ・近代美術
 ・現代美術

また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】

西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

資料

授業前に Google site で資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。

課題

受講後 Google Form で課題とレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/12	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
4/19	古代美術 原始美術/先史美術、 メソポタミア美術、エ ジプト美術、エーゲ美 術、ギリシャ美術、 ローマ美術	文字の生まれる以前=先史時代の 美術や、西洋美術史の出発点とな るメソポタミアやエジプトなどの 最古の文明から生まれた美術など 古代美術について学びます。

4/26	中世美術 初期キリスト美術、ビ ザンティン美術、初期 中世美術、ロマネスク 美術、ゴシック美術	ルネサンス以前の、多くの民族や 地域とキリスト教美術が結びつい た中世美術について学びます。
5/10	近世美術 ルネサンス美術、バ ロック美術、ロココ美 術	ギリシア美術やローマ美術を見直 し人間の尊厳が再認識されたルネ サンス美術、ポルトガル語で「歪 んだ真珠」を意味するバロック美 術、フランスで発展した装飾性の 強いロココ美術について学びま す。
5/17	ワークショップ 1	単元の復習・古代美術、中世美 術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵 から文字へ
5/24	近代美術 1 新古典主義、ロマン主 義、写実主義	古典（ルネサンス）への回帰として の新古典主義、自由な感性や多 様な美の表現を尊重したロマン主 義、ありのままの日常を客観的に 描こうとする写実主義について学 びます。
5/31	近代美術 2 印象派、新印象派、 ポスト印象派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実 をそのままに鮮やかで明るい色彩 の印象派、印象派の色彩理論を さらに化学的に追求した新印象 派、印象派を批判的に受け継ぎ、 乗り越えようとするポスト印象派 について学びます。
6/7	ワークショップ 2	単元の復習・近代美術 1、近代 美術 2 ワークショップ・デッサンの手法 印象派以降のフォービズム、表現 主義、キュビズムを中心に、第一 次世界大戦前の芸術運動の流れに ついて学びます。画家たちはより 自由な表現を求めて様々な実験を 始めます。ポスト印象派と呼ばれ た画家のゴッホ、ゴッホ、セ ザンヌは、印象派以降の 20 世紀 の前衛芸術運動に大きな影響を与 えました。
6/14	近代美術 3 野獣派、キュビズム、 表現主義、ナビ派、 世紀末芸術、象徴主 義、素朴派、アール・ ヌーヴォー	ロシア革命前後のロシア構成主義 とシュプレマティズムについて、 また第一次世界大戦前後のアバン ギャルド芸術運動（前衛芸術）で ある未来派、ダダイズム、シュル レアリズムについて学びます。こ の時代には現代アートの基となる コンセプチュアルな発想や、パ フォーマンスやインスタレーショ ンの原型となるようなアイデア が登場します。
6/21	近代美術 4 未来派、ダダイズム、 シュルレアリスム、 デ・ステイル、バウハ ウス、ロシア構成主義	単元の復習・近代美術 3、近代 美術 4 ワークショップ・シュルレアリス ムの実験
6/28	ワークショップ 3	第二次世界大戦で大きなダメージ を受けたヨーロッパに代わり、経 済力を背景にアメリカが現代芸術 の中心地となりました。抽象表現 主義、ネオダダ、ポップ アート
7/5	現代美術 1 レトリズム、抽象表現 主義、アンフォルメ ル、ネオダダ、ポップ アート	第二次世界大戦で大きなダメージ を受けたヨーロッパに代わり、経 済力を背景にアメリカが現代芸術 の中心地となりました。抽象表現 主義、ネオダダ、ポップアート、 ミニマル、コンセプチュアルア ートなど、アメリカを中心として 登場した芸術運動に加え、アンフ ォルメル、スーパー・リアリズム、 アルテポーベラなどヨーロッパの 動向についても学びます。

- 7/12 現代美術 2
ミニマルアート、コンセプチュアルアート、新表現主義、YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート
- 1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義について学びます。また、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist / リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
- 7/19 ワークショップ 4
単元の復習・現代美術 1、現代美術 2
ワークショップ「テキストとアート」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

参考書

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、201

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

* Art history and art theory which is the basis for understanding art

* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

Learning Objectives

Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 B では日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。

・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
 ・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
 これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）

・原始・古代美術
 ・中世美術、近世美術
 ・近代美術
 ・現代美術

また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】

日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。

対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

資料

授業前に Google site で資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。

課題

受講後、Google Form で課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9/20	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
9/27	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術について学びます。
10/4	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代について学びます。

10/11	ワークショップ (1) 単元の復習・原始美術、古代美術	プレゼンテーションとディスカッション
10/18	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。
10/25	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。
11/8	ワークショップ (2) 単元の復習・中世美術、近世美術	プレゼンテーションとディスカッション
11/15	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化制作により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画が描かれます。
11/22	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房、もの派	第二次世界大戦の終戦後の 1950 年代に実験工房、具体美術協会、続いてアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房が 1960 年代にはもの派など新しい芸術運動が始まります。
11/29	ワークショップ (3) 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術	プレゼンテーションとディスカッション
12/6	1960-1980 年代 1960 年代以降、インスタレーション・パフォーマンス	1960 年代から 1970 年代にの美術に大きな影響力を持ったもの派以後について学びます。1980 年代には若いアーティストがインスタレーション・パフォーマンスによる制作を試みました。
12/13	1990-2020 年代 1990 年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010 年以降	1990 年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
12/20	ワークショップ (4) 単元の復習・1960-1980 年代、1990-2020 年代	プレゼンテーションとディスカッション
1/10	ディスカッション	授業全体を振り返り、ディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019 年
 『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
 『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016 年
 『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】**Course outline**

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

I will learn a wide range of them step by step.

Learning Objectives

We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (50 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画的表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画 (サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる) の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、hoppii を通して感想を書いてもらったりすることになる。フィードバックは hoppii および講義を通じて行う。

初回に選抜テスト (上映するシーンの分析) を行うので、これに出席する必要がある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	ジョン・フォード 宮崎駿
3	地を走る	チャールズ・チャップリン バスター・キートン
4	地で踊る	フレッド・アステア ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	S・エイゼンシュテイン アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー ニコラス・レイ
7	列車に乗る	リュミエール兄弟 アルフレッド・ヒッチコック
8	列車に乗る 2	黒沢明 ホウ・シャオシェン
9	自動車に乗る	アルフレッド・ヒッチコック 濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ ジャン＝リュック・ゴダール
11	壁の向うを聴く	フリッツ・ラング ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	アルフレッド・ヒッチコック 周防正行
13	鏡を見る	オーソン・ウェルズ 吉田喜重
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布したプリントの再読や、映画館や DVD での作品鑑賞等。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 % (ただしレポートを提出しなければ E 評価とする)。

平常点は単に出席したことだけでなく、毎回のコメントシートをコメントする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50 名以上受講希望者がいる場合、初回に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生が受講できる。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (50 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、都市や自然の映画の表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につけ、自分の観る映画のジャンル・年代・地域を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、指定した映画断片についてのコメントを **hoppii** を通して毎回提出してもらう。フィードバックは **hoppii** および講義を通じて行う。初回に、「芸術と人間 A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明、「芸術と人間 A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	キング・ヴィダー フリッツ・ラング
3	迷宮都市	ジャック・タチ ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	アルフレッド・ヒッチコック ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	成瀬巳喜男 小津安二郎
6	廃墟	ロベルト・ロッセリーニ 黒沢清
7	水と船	F・W・ムルナウ 溝口健二
8	川	ジャン・ルノワール 佐藤真
9	雨	山中貞雄 宮崎駿
10	水の宇宙	ジャン＝リュック・ゴダール アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン グル・ダッド
12	動物	ロバート・フラハティ 濱口竜介

13	補足	講義で十分扱えなかったテーマや映画
14	まとめ	講義のまとめ 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、宿題、映画館や DVD での映画観賞等。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫
その他、随時提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

「芸術と人間 A」（春学期）未受講者は選抜試験をするので必ず初回に出席すること。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第 2 回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 プラフマニズム 自由思想家の登場
第 3 回	仏教の成立	仏陀の生涯
第 4 回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第 5 回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第 6 回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 4 つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 【はじめての説法】

第 7 回 仏教の基本思想（3） 仏陀のさとり得た真理とその特徴
『梵天勧請』『縁』経、他
比較思想的考察第 8 回 仏教の基本思想（4） 「諸法無我」
人無我と法無我
ミリング王経第 9 回 仏教教団と教団運営 律蔵文献
戒・波羅提木叉第 10 回 初期仏典講読（1） 『ダンマパダ』
第 11 回 初期仏典講読（2） 『スッタニパータ』「慈しみ」他
第 12 回 初期仏典講読（3） 『スッタニパータ』
「田を耕すバーラドヴァージャ」他
第 13 回 初期仏典講読（4） 『スッタニパータ』
真理についての争い第 14 回 授業内試験・まとめ 筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK 出版新書、2013 年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績（30%）と平常点（10%）により評価します。

学期末レポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

殆どの学生にとって、仏陀自身の思想・本来の仏教思想を学ぶのは初めてのことと思います。先入見を持たずに、原典（和訳）資料を深く読み、仏陀・仏教の思想を正しく真直ぐに捉え理解することに努めてください。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論 A」だけでは、仏教思想の本質の理解、特に仏教の人生観・世界観の理解が不十分となります。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化してきたのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。
 (本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論 A」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
 ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
 ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
 ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5 回実施予定)。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乘仏教へ
第 2 回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第 3 回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第 4 回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第 5 回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用）
第 6 回	仏教の世界観	心作用の区分け（6 心所） 『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第 7 回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴
第 8 回	大乘仏教（2）	大乘諸経典 『般若経』の空思想
第 9 回	大乘仏教（3）	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中

第 10 回	大乘仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苜経』
第 11 回	大乘仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲苜経』・『稲苜経註』
第 12 回	大乘仏教（6）	大乘仏教・後期中観思想の人生観 1 到達目標・理想的境地・中道
第 13 回	大乘仏教（7）	大乘仏教・後期中観思想の人生観 2 仏陀・経典の権威について
第 14 回	まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
 授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的な世界観』、Dojin 選書、2013 年
 桜部健・上山春平著『仏教の思想 2 存在の分析<アビダルマ>』、角川ソフィア文庫、1996 年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績（30%）と平常点（10%）により評価します。
 授業内筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

インド本来の大乘仏教思想、特に東アジアには伝わっていない後期中観思想を初めて学び、その思想（人生観等）に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、丁寧な解説を心掛けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論 A」から履修することを強く推奨します。
 また、第 1 回授業は仏教思想展開史上とても重要な事柄を扱いますので、履修を考えている方は、第 1 回授業から参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. SarvAstivAdin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
2. Madhyamaka philosophy consisting in dependent arising, emptiness, middle way and nonabiding nirvana.
3. Dharmakirti's and later MAdhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (15 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、2018 年度から始まった「教養ゼミ」の一つとして新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミⅡ」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては、通年でひとつのテーマを追求していく。その際に、テーマに即したテキストをゆっくり精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2023 年度は、春・秋共通のテーマとして「フランス現代思想」について、様々な哲学者・思想家の思想を考察する。特に、春学期は「入門」として、現代の思想状況がどのような過去の遺産・資産によって成り立っているかを、思想史の文脈からアプローチする。その際の手引きとして、千葉雅也先生 (立命館大学准教授) の『現代思想入門』(2015) を手引きとしながら、同書の千葉先生の問い・「今なぜ現代思想か」を皆さんと一緒に考えていく。

【到達目標】

- (1) 「今なぜ (フランス) 現代思想か」という問いについて説明することができる。
- (2) 「フランス現代思想」として括られる哲学者について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習 (ゼミ) 形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所の読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①選抜試験 (受講生が 30 名以上ははじめに「今なぜ現代思想か?」 ②授業の概要・資料の配布 ③日程の確認 ④柄谷行人の思想解説
2	第一章 デリダ——概念の脱構築 (1)	・ポスト構造主義とポストモダン ・独特なデリダのスタイル
3	第一章 デリダ——概念の脱構築 (2)	・パロールとエクリチュール ・脱構築
4	第二章 ドゥルーズ——存在の脱構築 (1)	・ドゥルーズの時代 ・差異は同一性に先立つ
5	第二章 ドゥルーズ——存在の脱構築 (2)	・家族の物語ではなく、多様な実践へ ・管理社会批判
6	第三章 フーコー——社会の脱構築 (1)	・権力の二項対立を揺さぶる ・権力のあり方
7	第三章 フーコー——社会の脱構築 (2)	・規律訓練 ・生政治
8	現代思想の源流 (1) ——ニーチェ	・ニーチェ——ディオニソスとアポロン

- 9 現代思想の源流 (2) ——フロイト——無意識の発見
——フロイト
- 10 現代思想の源流 (3) ——マルクス——力と経済
——マルクス
- 11 精神分析と現代思想——主体化と享楽
——ラカン (1) ・去勢とは何か
- 12 精神分析と現代思想——現実界、捉えられない「本当のもの」
——ラカン (2) ・もの
- 13 現代思想の作り方 (1) ・現代思想家になるために
- 14 まとめ ・21 世紀の現代思想

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・担当者以外の受講者は、授業前には必ず該当箇所を読んで、質問を三以上準備すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

千葉雅也『現代思想入門』(講談社現代新書、2022 年)

※ 各自でテキストを用意すること。

【参考書】

久米博『ワードマップ 現代フランス哲学』(新曜社、1998 年)

川口茂雄『現代フランス哲学入門』(ミネルヴァ書房、2020 年)

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 (50%) (レジュメを作成し、発表すること)

(2) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【受講上の注意】

本授業は、定員 (30 名) が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

This class is a new course as one of the "Liberal Arts Seminars" that began in the 2018 academic year. This class is closely related to "Liberal Arts Seminar II," which is the same course in the fall semester. Although it is a semester-long course, the content of the class pursues a single theme throughout the year.

In doing so, students will read texts on the theme and study the thoughts of thinkers and philosophers in order to refine their own philosophical thinking.

【Goal】

(1) To be able to explain the question "Why (French) contemporary thought now?"

(2) To be able to explain the philosophers who are grouped as "French contemporary thought".

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

(1) Students are expected to read the relevant passages and prepare at least three questions about them before the class.

(2) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

(1) Regular marks (50%) (Students are expected to prepare and present their resumes)

(2) Final report (50%)

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

森村 修

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

定員制 (15 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、2018 年度から始まった「教養ゼミ」の一つとして新たに始まった科目である。本授業は、春学期同一科目の「教養ゼミⅠ」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては、通年でひとつのテーマを追求していくため、春学期の授業に参加していることが望ましい。

秋学期では、テーマに即した思想家のオリジナルテキストも視野に入れて、テーマに関する研究書を精読することを中心とする。また、オリジナルテキストを読むことによって、思想家の思考を学び、さらに自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2023 年は、春・秋共通のテーマとして「フランス現代思想」について、様々な思想家の思想を考察する。特に、秋学期は「応用」として、春学期の「入門編」で基礎固めした現代思想の流れを詳細に追跡していきながら、「入門」で学んだ思想家のオリジナルテキストを読んでいく。その際に、石田英敬先生（東京大学名誉教授）の『現代思想の教科書—世界を考える知の地平 15 章』（2010）を手引きとしながら、フランス現代思想を牽引してきた思想家の思考を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 「今なぜ (フランス) 現代思想か」という問いについて説明することができる。
- (2) 「フランス現代思想」として括られる哲学者について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習 (ゼミ) 形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	①選抜試験 (受講生が 30 名以上の場合) ②授業の概要・資料の配布
第 2 回	「現代思想とは何か」(1)	・「現代思想とは何か？」 ・四つの「ポスト状況」
第 3 回	「言語の世紀」の問い——ソシュールをめぐる	・記号とコミュニケーションの理論 ・ソシュール革命
第 4 回	記号とイメージの世界——パースの記号論	・記号解釈と記号分類 ・普遍記号論の思想
第 5 回	無意識の問い——「フロイトの発見」以後	・「無意識の発見」 ・理性と非-理性
第 6 回	文化の意味——レヴィ=ストロース「構造主義革命」以後	・構造主義とは何か？ ・構造主義の文化理解

- 第 7 回 「欲望とは何か？」——
—ラカン「欲望と主体」
・欲望と意味
・欲望と他者
- 第 8 回 「権力と身体」——
—フーコー「権力と主体化」
・権力とディシプリン
・規律型社会とコントロール型社会
- 第 9 回 「社会とは何か」——
—ブルデュー「象徴闘争と社会場」
・階級と象徴支配
・「ハビトゥス」と「場」
- 第 10 回 情報とメディアの思想——
—マクルーハン「メディアはメッセージ」
・メディアとは何か
・メディアの文明圏
- 第 11 回 「戦争について」——
—「戦争」とは何か
戦争はなぜ終わらないか
・世界戦争と現代思想
- 第 12 回 「宗教について」——
—宗教の回帰について
・回帰する宗教
・宗教とは何か？
- 第 13 回 ナショナリズムと国家——
—ナショナリズムを克服する
・国民国家の問題
・ポスト・コロニアリズムの思想
- 第 14 回 差異と同一性の共生原理——
—ジェンダー、マインオリティ、クレオール、マルチチュード
・現代思想と実践
・現代思想はいかに世界を変革したか？

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平 15 章』、ちくま学芸文庫、2010 年
※ 思想家のオリジナルテキストについては、こちらでそのつど用意する。

【参考書】

石田英敬『記号論講義——日常生活批判のためのレッスン』、ちくま学芸文庫、2020 年
※ その他の参考書については、授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点 (50%) (レジュメを作成し、発表すること)
- (2) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

This class is a new course as one of the "Liberal Arts Seminars" that began in the 2018 academic year. This class is closely related to "Liberal Arts Seminar II," which is the same course in the fall semester. Although it is a semester-long course, the content of the class pursues a single theme throughout the year.

In doing so, students will read texts on the theme and study the thoughts of thinkers and philosophers in order to refine their own philosophical thinking.

【Goal】

- (1) To be able to explain the question "Why (French) contemporary thought now?"
- (2) To be able to explain the philosophers who are grouped as "French contemporary thought".

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- (1) Students are expected to read the relevant passages and prepare at least three questions about them before the class.
- (2) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

- (1) Regular marks (50%) (Students are expected to prepare and present their resumes)
- (2) Final report (50%)

HIS300LA

中国の民族と文化A

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第 2 回	漢文の基礎 (1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第 3 回	漢文の基礎 (2)	否定・可能
第 4 回	漢文の基礎 (3)	使役・受身
第 5 回	漢文の基礎 (4)	疑問・反語
第 6 回	漢文の基礎 (5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第 7 回	漢文史料から見る歴史 (1)	『史記』の描く春秋時代
第 8 回	漢文史料から見る歴史 (2)	『史記』の描く戦国時代
第 9 回	漢文史料から見る歴史 (3)	『史記』の描く前漢時代
第 10 回	漢文史料から見る歴史 (4)	『後漢書』の描く後漢時代
第 11 回	漢文史料から見る歴史 (5)	『三国志』の描く魏
第 12 回	漢文史料から見る歴史 (6)	『三国志』の描く呉
第 13 回	漢文史料から見る歴史 (7)	『三国志』の描く蜀
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け!』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないかと聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA

中国の民族と文化 B

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的最長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化 A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	漢民族の思想 (1)	『論語』と儒家
第 2 回	漢民族の思想 (2)	『論語』と政治
第 3 回	漢民族の思想 (3)	『孟子』と国家
第 4 回	漢民族の思想 (4)	『孟子』と性善説
第 5 回	漢民族の思想 (5)	『荀子』と性悪説
第 6 回	漢民族の思想 (6)	『荀子』と学問
第 7 回	漢民族の思想 (7)	『韓非子』と法家
第 8 回	漢民族の思想 (8)	『韓非子』と秦
第 9 回	儒家思想と政治の展開 (1)	唐の太宗と『貞観政要』
第 10 回	儒家思想と政治の展開 (2)	王安石と宋学
第 11 回	儒家思想と民族・学問 (1)	朱子学と歴史学
第 12 回	儒家思想と民族・学問 (2)	顧炎武の人生と明清交替
第 13 回	儒家思想と民族・学問 (3)	顧炎武の学問と国家観
第 14 回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする
と全くできないと思いますので、ご留意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A 2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舍利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んできること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

速水侑『日本仏教史 古代』（吉川弘文館、1986 年）
末木文美士編『新アジア仏教史 11 日本 1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010 年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018 年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017 年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013 年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 B

2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代の日本と唐における仏教者による社会事業について知識を修得し、比較研究する。(1) 唐の悲田養病坊、(2) 唐で学んだ日本の留学僧、唐から来日した僧、唐の影響を受けた日本の為政者、(3) 日本の悲田院とそれに類する施設について、理解を深める。

【到達目標】

古代の日本・唐において、僧尼や為政者が行った困窮者の救済事業、橋梁・宿泊施設など交通の整備などの社会事業の実情について理解する。また日本と唐でどのような継承関係や相違点があるのかを考える。そしてその内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題 (試験やレポート等) に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	仏教と社会福祉事業の歴史、古代の日中関係の概観
2	道昭	入唐と玄奘への師事、帰国後の架橋と港の整備
3	行基	布施屋の設置
4	光明皇后	悲田院・施薬院の設置
5	鑑真	悲田と敬田、揚州での無捨大会
6	鑑真の関係者	普照の道路への果樹栽種提言、道忠の関東での布教
7	最澄	東国での布教、美濃での宿泊施設設置
8	空海	讃岐国満濃池の修築
9	則天武后	悲田養病坊の設置
10	武宗	廢仏と悲田養病坊のゆくえ
11	平安京の悲田院	平安時代の悲田院の活動と矛盾
12	地方の医療救済施設	武蔵・相模・筑前等の社会施設
13	日本と唐の社会事業の比較	日本・唐の類似点と相違点
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

新村拓『日本医療社会史の研究』(法政大学出版社、1985 年)
林陸朗『光明皇后』(吉川弘文館、1961 年)
石田瑞磨『鑑真』(大蔵出版、1974 年)
速水侑編『行基』(吉川弘文館、2004 年)
道端良秀『唐代仏教史の研究』(法蔵館、1957 年)
追塩千尋『国分寺の中世的展開』(吉川弘文館、1996 年)
勝浦令子「七・八世紀の仏教社会救済活動」(『史論』54 集、2003 年)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (最終回に実施) 50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of social services by Buddhism in ancient Japan and the Tang Dynasty.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How Buddhism of the Japanese ancient was related to social welfare, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017 年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との国際関係、太平洋の島々との関わりや歴史、辺野古の新基地建設に反対する民意形成の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の4人に1人が犠牲になる最も過酷な被害を受け、1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。米国のアジア戦略や米中関係が変化する一方、米軍基地は日本政府の都合で沖縄に押し付けられ、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争を挟んで現在に至るまでの歴史の経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
- ・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
- ・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室を使用し、リアルタイムで受講する授業形式を基本とします。授業では「Zoom」を併用することで、市ヶ谷キャンパス以外の学生など教室受講が出来ない受講生の履修にも配慮します。毎回の授業後に感想や質問などをまとめたリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業に活用します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況や経済依存の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史 (1)	NHKの番組を参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史 (2)	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、新たに判明した問題
6	1995年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑

7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の15年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民党政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化、日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	グループディスカッション	日本の安全保障と外交関係
14	総括	全体のみとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年
- ・『観光コースでない沖縄・第5版』高文研、2023年

【参考書】

- ・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q & A B o o k」沖縄県発行 <http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度 (50%)
期末レポート (50%)
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。

2014年から16年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」(年に2回)や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」(毎月開催)なども主宰しています。

【その他の注意事項】

- ①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
- ②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
- ③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史 B」の前提授業となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is focus on the current situation and history of Okinawa, which still has many U.S. military bases, Japan's security policy, international relations with China and the Korean Peninsula, historical relationship with the Pacific islands, and the public sentiment against the construction of a new base in Henoko. Students can learn the process of Okinawa suffered the most severe damage in Japan during the Pacific War, killing one in four citizens of the prefecture, and remained under US administration until it returned to Japan in 1972. While the US strategy for Asia and U.S.-China relations are changing, the US military bases are being imposed on Okinawa at the convenience of the Japan government, and the deployment of the Self-Defense Forces is progressing in the name of preparing for a Taiwan emergency. Learning about Okinawa should also help us understand the modern history of Japan and its international relations with Asian countries.

【Learning Objectives】

Students will:

- Learn about the current situation in Okinawa, where US military bases in Japan are concentrated, and history up to the present after the Pacific War.
- Understand the process of forming Okinawan people's will against the construction of a new base in Henoko.
- Understand the actual situation of the Battle of Okinawa, the role that Okinawa played in the postwar relationship between Japan and the United States, and the situation that was at the mercy of the political speculation of the Japanese government.
- Deepen understanding of international relations with China and the Korean Peninsula, and the Asian strategy of the United States and Japan through the history and current situation of Okinawa.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Submission of reaction paper, participation in active learning (50%)

Semester-end report (50%)

If the specified submission deadline and submission destination are not observed, it will be treated as unsubmitted unless there are unavoidable circumstances.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017 年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア太平洋には多くの島嶼・島嶼国家があります。この授業では、その中でも特に、沖縄に注目します。沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】

「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認し、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、受講生それぞれの関心あるテーマについて、資料を通じて調査し、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第 2 回	「琉球処分」ー東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」について内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第 3 回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第 4 回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。
第 5 回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第 6 回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗する運動の展開について確認します。

第 7 回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第 8 回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題について議論します。
第 9 回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第 10 回	現代沖縄の課題（2）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第 11 回	現代沖縄の課題（3）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第 12 回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第 13 回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第 14 回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009 年。
田仲康博『風景の裂け目ー沖縄、占領の今ー』せりか書房、2010 年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013 年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016 年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005 年。
屋嘉比呷『沖縄戦、米軍占領史を学びなおすー記憶をいかに継承するか』世織書房、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（40%）
レポート中間発表（20%）
リサーチレポート（40%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの文字数、枚数は、受講生の専門によって図表を用いるなどの場合を踏まえて検討します。

【学生が準備すべき機器他】

感染症拡大状況に応じて、ハイブリッド型で行うため、ネット接続に対応したパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは授業前後の休憩時間、または、E メール：mizakiko@tsuda.ac.jp 宛にご連絡ください。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge on the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879, and the ways to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific region, to students taking this course. At the end of the course, students are expected to research and discuss some issues for their own interests. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time for students taking this course will be more than two hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end research report: 40%、Short presentation for the
research report: 20%、comments to fill in every class: 40%

HIS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

在日朝鮮人の歴史を学ぶ：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、国籍は日本だが朝鮮半島をルーツに持つ人々が多数住んでおり、日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第 1 章：地域史 (大阪市鶴橋・猪飼野) 日本最大のコリアンタウン	学生によるテキストの報告、映像
4	第 1 章：地域史 (京都市東九条、神戸市長田) 一緒に生きる町づくり、震災を乗り越えた町	学生によるテキストの報告、映像
5	映像視聴	映像と討論
6	第 1 章：地域史 (下関、岸和田、広島、柳本) 歴史が刻まれた風景	学生によるテキストの報告、映像
7	第 2 章：個人史 (君が代の記憶、被爆と民族差別)	学生によるテキストの報告、映像
8	資料館見学	資料館見学
9	第 2 章：個人史 (二つの国にまたがって生きて)	学生によるテキストの報告、映像

10	第 2 章：個人史 (日本籍在日コリアン二世)	学生によるテキストの報告、映像
11	映像視聴	映像と討論
12	第 2 章：個人史 (民族教育を守り続けて)	学生によるテキストの報告、映像
13	第 3 章：家族史 (写真から学ぶファミリーヒストリー)	学生によるテキストの報告、映像
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

在日コリアン青年連合編著『在日コリアンの歴史を歩く』(彩流社) 2100 円 + 税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史 B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かされて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50 %.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

定員制 (20 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

在日朝鮮人の歴史を学ぶ: 日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、国籍は日本だが朝鮮半島をルーツに持つ人々が多数住み、日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説①	世界のコリアンと在日コリアン
3	在日コリアン概説②	在日コリアンの法的地位
4	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの人口はどれくらいですか」
5	学生によるテキストの報告	「在日コリアンはいつ頃日本にきたのですか」
6	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの国籍はどうなっていますか」
7	まとめ①	映像 (1)
8	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの民族教育はどのように広がっていったのですか」
9	学生によるテキストの報告	「北朝鮮への帰国運動とはどういうものですか」
10	学生によるテキストの報告	「本名を名乗るとはどういうことですか」
11	まとめ②	映像 (2)
12	学生によるテキストの報告	「国民健康保険、国民年金には入れますか」
13	学生によるテキストの報告	「帰化をしないのはどうしてですか」
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。

【テキスト (教科書)】

梁泰昊『新・在日韓国・朝鮮人読本』(緑風出版) 2000 円+税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50 %、プレゼンテーション・期末レポート 50 %。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講された教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史 A」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50 %.

GDR300LA

クィア・スタディーズ A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (100 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動と LGBTQ 運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第 2 回	クィア・スタディーズとは何か?	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第 3 回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第 4 回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo 運動	90 年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第 5 回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	LGBTQ 運動の歴史を振り返る。
第 6 回	日本における LGBTQ 運動	「府中青年の家」裁判について講義する。
第 7 回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第 8 回	ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。
第 9 回	インターセクショナルリティ	インターセクショナルリティとトランスジェンダー問題について考える。

第 10 回	カミングアウトとアウトティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウトティングについて考える。
第 11 回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第 12 回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第 13 回	クィアな空間	クィア映画祭について考える。映画『Queer Japan』について考える。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読む、授業内で示される課題 (リアクション・ペーパー、レポート) 対応など、準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

- 岩淵功一 (編) 『多様性との対話—ダイバーシティ推進が見えなくするもの』 (青弓社年、2021 年)
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子 (編) 『クィア・スタディーズをひらく 1』 (晃洋書房、2019 年)
 清水晶子 『フェミニズムってなんですか?』 (文春新書、2022 年)
 新ヶ江章友 『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ (クィア・スタディーズ) のために』 (花伝社、2022 年)
 森山至貴 『LGBT を読みとく—クィア・スタディーズ入門—』 (ちくま新書、2017 年)
 トッド・マシュー 『ヴィジュアル版 LGBTQ 運動の歴史』 (原書房、2022 年)

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 20%

中間レポート 35% (800-1,200 文字程度)

学期末レポート 45 % (2,000 文字程度)

2 つの小レポートの提出が必要です。レポートでは、社会的・歴史的な要素を踏まえた上で、具体的な事例を挙げてジェンダー・セクシュアリティの問題について論じる。

毎回出欠を取ります。4 回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15 分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やす必要があることに気づいた。授業の資料をよりわかりやすくするように工夫すべきことに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Have basic knowledge of queer studies.
- b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and comment sheet: 20%

Mid-term essay (800-1200 characters): 35%

Final essay (1000-1500 characters): 45%

GDR300LA

クィア・スタディーズ B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (100 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、春学期のクィア・スタディーズ A で学んだ内容を復習しながら、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
- 2) クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について復習する。
第 2 回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第 3 回	性暴力	#MeToo 運動と文学の関係について講義する。
第 4 回	性暴力と文学	カオルコ姫野『彼女は頭が悪いから』を取り上げる。
第 5 回	文学とミソジニー	松田青子『持続可能な魂の利用』を取り上げる。
第 6 回	表象分析実践 1	松田青子「物語」(『男の子になりたかった女の子になりたかった女の子』に収録)を読んで、グループでディスカッションを行う。小レポート(1)を提出する。
第 7 回	文学と身体	文学作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第 8 回	アートと身体	アート作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第 9 回	ゲイ解放運動	映画における LGBT 運動の表象について考える。
第 10 回	男性性	ヘゲモニックな男性性について考える。
第 11 回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ!』を取り上げる。

第 12 回 表象分析実践 2

『きのう何食べた?』(漫画と映画)と『作りたい女と食べたい女』(漫画とドラマ)についてグループでディスカッションを行う。小レポート(2)を提出する。

第 13 回 カミングアウトとアウトティング

映像作品におけるカミングアウトとアウトティングについて講義する。

第 14 回 まとめ

まとめを行う。小レポート(3)を提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読む、授業内で示される課題(リアクション・ペーパー、レポート)対応など、準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』(晃洋書房、2021 年)
 黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉?』(晃洋書房、2016 年)
 新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』(花伝社、2022 年)
 森山至貴『LGBT を読みとく クィア・スタディーズ入門』(筑摩書房、2017 年)
 マシュー・トッド『[ヴィジュアル版]LGBTQ 運動の歴史』(原書房、2022 年)

Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 10%

小レポート(1):松田青子「物語」について的小レポート(800-1,200 文字程度) 25%

小レポート(2):『きのう何食べた?』や『作りたい女と食べたい女』について的小レポート(800-1,200 文字程度) 25%

小レポート(3) 授業に取り上げられた具体的な作品を分析した小レポート(2,000 文字程度) 40%

3 つの小レポートの提出が必要です。小レポートについて授業内で詳しく説明します。

毎回出欠を取ります。4 回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15 分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やす必要があることに気づいた。授業の資料をよりわかりやすくするように工夫すべきことに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, and comics, while reviewing what we learned in Queer Studies A, held during the spring semester.

Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.
- b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to submit three essays and to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and comment sheet: 10%

Short essay (1): 25%

Short essay (2): 25%

Short essay (3): 40%

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017 年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は、わたしたち人間存在とそれを取り囲む世界、そして、それらの根源としての神についての教義を形成し、人間社会及び文化の諸領域に多大な影響を与えてきました。本授業は信仰 (信じること) と理性 (知ること) の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。また、受講生がこれらの学習を通して、キリスト教の理解を深めていくことを目的とします。春期授業 (キリスト教思想史 A) は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化 (芸術など) に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4 回から 5 回に 1 度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第 2 回	第 1 章 ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第 3 回	第 2 章 ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第 4 回	グループワークと質疑応答	第 1 章と第 2 章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第 5 回	第 3 章 教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第 6 回	第 4 章 アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。
第 7 回	第 5 章 中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。

第 8 回	第 6 章 中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第 9 回	グループワークと質疑応答	第 3 章から第 6 章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第 10 回	第 7 章 トマス・アキナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第 11 回	第 8 章 後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第 12 回	第 9 章 神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナルドの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第 13 回	第 10 章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトルカなどについて学びます。
第 14 回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2 時間) 復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2 時間)

【テキスト (教科書)】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズム』筑摩選書、ISBN-13 : 978-4480017284、1980 円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13 : 978-4163909455、2019 年、1850 円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート (到達目標の技術の習得)。①を 50%、②を 50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなくても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage in these questions of existence. This class will study this intellectual heritage from the point of view of faith (believing) and reason (knowing). This class also aims (1) to deepen understanding of Christian doctrine and its historical development, (2) to better understand the philosophical concepts closely related to Christianity, (3) to understand the influence of Christianity on politics, economics, society, and culture (art, liberal studies, etc.). Grading criteria: (1) Assignment evaluation each time, and (2) Final report at the end of the semester. Students' performance will be evaluated comprehensively, with 50% for (1) and 50% for (2). In the preparations, Students should read the relevant sections of the textbook related to the class. Students should also use reference books to understand the meaning of technical terms, etc. (2 hours). Review: Students should read and review the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). Then, answer the assignments given after each class using the class support system. In addition, summarize your thoughts on the topic, referring to the opinions of other students in the discussion (2 hours).

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017 年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は、わたしたち人間存在とそれを取り囲む世界、そして、それらの根源としての神についての教義を形成し、人間社会及び文化の諸領域に多大な影響を与えてきました。本授業は信仰 (信じること) と理性 (知ること) の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。また、受講生がこれらの学習を通して、キリスト教の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業 (キリスト教思想史 B) は、ルネサンスと宗教改革から現代の宗教的状况までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化 (芸術など) に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4 回から 5 回に 1 度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。なお、第 11 回から第 13 回講義については、教員がテキストを PDF 文書で配布します。受講生は Hoppii からダウンロードしてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第 2 回	第 11 章 キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシリウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』などについて学びます。
第 3 回	第 12 章 ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルターの信仰特質およびキリスト教的霊性の定義などについて説明します。
第 4 回	グループワークと質疑応答	第 11 章と第 12 章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第 5 回	第 13 章 宗教改革から近代思想へ	プロテスタント主義の歴史的な成果と残された問題などについて学びます。

第 6 回	第 14 章 近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第 7 回	第 15 章 啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマッハーの宗教論について解説します。
第 8 回	第 16 章 ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第 9 回	第 17 章 ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第 10 回	グループワークと質疑応答	第 13 章から第 17 章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第 11 回	人間学の時代	シュラー、マルセル、ティリッヒの文化神学、社会倫理学の発展を説明します。
第 12 回	現代の宗教的状况 (1)	世俗化と無神論の時代、エキュメニカル運動について学びます。
第 13 回	現代の宗教的状况 (2)	第二ヴァチカン会議、新たな目標について解説します。
第 14 回	グループワークと質疑応答	第 11 回から第 13 回講義までの内容について、グループワークと質疑応答を行うほか、秋期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2 時間) 復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2 時間)

【テキスト (教科書)】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史—理性と信仰のダイナミズム—』筑摩選書、2021 年、ISBN-13：978-4480017284、1980 円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、2019 年、ISBN-13：978-4163909455、1850 円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート (到達目標の技術の習得)。①を 50%、②を 50% として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage in these questions of existence. This class will study this intellectual heritage from the point of view of faith (believing) and reason (knowing). This class also aims (1) to deepen understanding of Christian doctrine and its historical development, (2) to better understand the philosophical concepts closely related to Christianity, (3) to understand the influence of Christianity on politics, economics, society, and culture (art, liberal studies, etc.). Grading criteria: (1) Assignment evaluation each time, and (2) Final report at the end of the semester. Students' performance will be evaluated comprehensively, with 50% for (1) and 50% for (2). In the preparations, Students should read the relevant sections of the textbook related to the class. Students should also use reference books to understand the meaning of technical terms, etc. (2 hours). Review: Students should read and review the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). Then, answer the assignments given after each class using the class support system. In addition, summarize your thoughts on the topic, referring to the opinions of other students in the discussion (2 hours).

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 A 2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第 1～3 回目は、講義形式。第 14 回目は期末試験を行う。
- ・第 4～13 回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・Google Classroom を使って授業を行う。
- 連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第 2 回	ステレオタイプ①	・日本と日本人のイメージ ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	ステレオタイプ②	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響
第 4 回	文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつもの色があるのか。 太陽は世界のどこでも赤いのか。
第 5 回	カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第 6 回	文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第 7 回	日本語と外国語①	・動詞のカテゴリー ・形容詞とは ・新語（ネオロジー）

第 8 回	日本語と外国語②	・人称 ・指示詞 ・感情の表現
第 9 回	言語政策	・母語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育は必要か
第 10 回	日本語の表記について	・ラジオ型言語とテレビ型言語 ・文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・音声言語としての日本語と他言語との比較
第 11 回	日本人の宗教観	・無神論・一神論・多神論
第 12 回	住居と自然	・自然との闘い／自然との共存
第 13 回	日本の「文化多様性」	・マイノリティ問題 ・グローバル化と固有文化の維持
第 14 回	期末試験	・第 1～14 回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでおくこと。
- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は 5 時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は 60 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

- 鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書
G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度	15%
リアクションペーパー	15%
発表	30%
期末試験	40%

・4 回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・ZOOM M 授業内の発表には PC が好ましい。
- ★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：y7u3zjb
- ★タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前に ZOOM のアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

- ★受講希望者数によっては、第 1 回目（4 月 11 日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第 1 回目に必ず出席すること。
- ★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻りにチェックすること。

【Outline (in English)】
(Outline)

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to realize how human recognition will be affected by languages and cultures, and to have better understanding of relativity of the cultures.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 B 2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互によりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第 1・2 回目は講義と教室内活動中心。
- ・第 3～13 回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第 2 回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	コミュニケーション・スタイル① コンテキスト	・無言の共通理解を前提にコミュニケーションを行う高コンテクスト文化と、言語的に明確にされた情報のみを基本とする低コンテクストコミュニケーション文化について、その世界観や認知的な差異を含めて論ずる。 (学生発表と質疑応答。以下 13 回まで)

第 4 回	コミュニケーション・スタイル② ターンテ-キングとパラ言語	会話場面において、発話のターンを取ること（=ターンテキング）における文化差や特徴について。 ・イントネーション、リズム、ポーズ、声質など、言語情報のうちの周辺的な情報であるパラ言語（周辺言語/準言語）について、基本的知識と文化的な特徴を扱う
第 5 回	言語コミュニケーション① 褒め方・叱り方・謝り方	文化によって異なる「ほめ方・しかり方・謝り方」を例に、その根本にあるポライトネスについての知識を深める。ポライトネス理論の基本的な概念を概観し、文化によってどのような才や特徴があるかを観察する。
第 6 回	言語コミュニケーション② 誘い方と断り方	第 5 回に引き続き、ポライトネス理論の立場から「誘い方と断り方」という言語行為を観察し、そこに現れる文化的な特徴について考える。
第 7 回	言語コミュニケーション③ 自己紹介と自己開示	・文化によって異なる「自己紹介」の仕方、そこで好まれる話題や態度などを取り上げる。また、自己紹介場面に限らず行われる「自己開示」の深さ、広さなどがコミュニケーションや対人関係にどのような影響力を持つかを考え、さらにそこに表れる文化的特徴についても考える。
第 8 回	非言語コミュニケーション① 表情・アイコンタクト	・人類共通の本能的、基本的な表情分析と、文化に依存する表情表現について扱う。また、視線によるコミュニケーション、いわゆるアイコンタクトについて、文化による差異を考える。
第 9 回	非言語コミュニケーション② しぐさとジェスチャー・タッチング	異なる文化圏で見られる様々なしぐさやジェスチャーについて、危険な物、あるいはコミュニケーションを円滑にするものとしての具体例を見ながら検討する。また、タッチングについても、文化圏や性別、年齢、人間関係によってどのように変化するかを考える。
第 10 回	非言語コミュニケーション③ 空間と対人距離	・ソーシャル・ディスタンスやパーソナルスペースなど、空間の扱いに見られる文化差を扱う。また実際に対人距離がコミュニケーションに与える影響について考える。
第 11 回	非言語コミュニケーション④ 時間感覚	・地域、時代、個人によって異なる時間感覚、また同じ個人でも場面によって時間の取り扱い方について具体的な例を見つつ、E. ホールのモノクロニック・タイム、ポリクロニックタイムの概念を確認する。
第 12 回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第 13 回	異文化コミュニケーション・スキル	・異文化コミュニケーションのためのテクニックやメソッド
第 14 回	期末試験	・第 1 回～第 13 回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、1 時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー

池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ

八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣

E. ホール 『沈黙のことば－文化・行動・思考』南雲堂

その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 15 %

リアクションペーパー 15 %

発表 30 %

期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第 1 回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

・最新情報を Hoppii で確認すること。また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の目的は、近現代の女性作家が、愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、明治から 150 年以上を経た現在において、日本の近代をあらためて問い直す作業であり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」を視座に、日本の近代国家としての歩みを辿りつつ、現代に通じる近代文学の生成と変容、文芸と社会の関係について学びます。

受講人数によりますが、可能な限りグループワークを取り入れます。また、各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の文学概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、明治 20 年代から現代に至る多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景 (作家個人・社会全体) を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、文体の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かな「女性文学」を生み出すに至った、女性史や文学史の内側を参照しながら、女性や抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を追求します。適宜、世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。受講人数によりますが対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

*校外学習の日程に関しては、学生の予定等を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、成績のつけ方について
対面授業	清水紫琴の試み「こわれ指環」を中心に	女性の言文一致 グループワークによる意見交換
対面授業	樋口一葉①「十三夜」	「空白」を読む グループワークによる意見交換
対面授業	樋口一葉②「わかれ道」	女性の「出世」とは グループワークによる意見交換
対面授業	一葉の同時代作家・田澤稲舟の「しろばら」	明治期の性被害 グループワークによる意見交換

対面授業	『青鞥』の世界 平塚らいてう・伊藤野枝を中心に	大正期における女性の課題 グループワークによる意見交換 少々ドラマ鑑賞
対面授業	田村俊子①「生血」	新しい自我の覚醒 グループワークによる意見交換
対面授業	田村俊子②「枸杞の実の誘惑」	少女の性を考える グループワークによる意見交換
対面授業	素木しず「三十三の死」	女性の「障がい」 グループワークによる意見交換
対面授業	尾崎みどり「歩行」	「女性文学」のモダニズム グループワークによる意見交換 少々映画鑑賞
対面授業	グループ発表のための準備 グループディスカッション	作品を選んでグループワーク レジュメの作成
対面授業	グループ発表	互いの意見に耳を傾ける
対面授業	一葉記念館へ校外学習	作品の時代的背景を学習する
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 期末レポートの準備

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト (教科書)】

樋口一葉の対象作品は全集等で読めるので、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、その他の入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在—貧困・労働・格差』（2016・4、菁柿堂）、『[新編] 日本女性文学全集』全 12 巻 (矢澤・12 巻責任編集、2020・3、六花出版)、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表等の平常点が 50%、期末レポートが 50% とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料はできるだけ早めに配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

定員制 (20 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の目的は、近現代の女性作家が、愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、明治から 150 年以上を経た現在において、日本の近代をあらためて問い直す作業であり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」を視座に、日本の近代国家としての歩みを辿りつつ、現代に通じる近代文学の生成と変容、文芸と社会の関係について学びます。

各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の文学概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、明治 20 年代から現代に至る多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景 (作家個人・社会全体) を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、文体の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かな「女性文学」を生み出すに至った経緯を女性史や文学史の内側を参照しながら追求し、女性や抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を考えます。

適宜、世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめた簡単なレジュメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。

*校外学習の日程に関しては、学生の予定等を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学の振り返り／発表の分担を決める
対面授業	佐多稲子『くれない』	戦時下の女性の生活や軍事協力に関する映像を見る
対面授業	吉本ばなな『キッチン』①	戦争の時代における女性の「二重労働」を考える 意見交換 新たな家族像について考える 意見交換 映像作品を見る

対面授業	吉本ばなな『キッチン』②	報告者による報告と討議
対面授業	江國香織『きらきらひかる』①	性概念の再構築について考える 映像作品を見る
対面授業	江國香織『きらきらひかる』②	報告者による報告と討議
対面授業	小山田浩子『穴』	現代の〈家〉と女性について考える 報告者による報告と討議
対面授業	村田沙耶香『信仰』	現代における「信仰」の意味を考える① 報告者による報告と討議
対面授業	村田沙耶香「無」(『絶縁』)	現代における「信仰」の意味を考える② 報告者による報告と討議
対面授業	宇佐見りん『推し燃ゆ』	「推し」の内実について考える 報告者による報告と討議
対面授業	川上未映子「青かける青」(『春のこわいもの』)	閉塞感と文学について考える 報告者による報告と討議
対面授業	高瀬隼子『おいしいごはんが食べられますように』	「職場」と文学について考える 報告者による報告と討議
対面授業	羽仁もと子が創立した自由学園を見学する	近代日本における「教育」を考える
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 春秋学期を通じた振り返り 期末レポートの準備

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【予習】 報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジュメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】 教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト (教科書)】

どれも入手しやすい作品なので、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』(2016・4、青柿堂)、[[新編] 日本女性文学全集] 全 12 巻 (矢澤・12 巻責任編集、2020・3、六花出版)、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』(2006・10、東京堂出版)、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』(2005・5、ミネルヴァ書房)、脇田晴子他編『女性文学史』(1987・8、吉川弘文館) その他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が 50%、期末レポートが 50% とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料は事前でできるだけ早く配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

HIS300LA

イギリスと帝国 A

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀から 20 世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。イギリスの海外進出は、国内はもとより、世界各地にさまざまな影響を及ぼした。本授業では、18 世紀末から 20 世紀初頭までのイギリス帝国の歴史を考えてみたい。

【到達目標】

- ・ 18 世紀末から 20 世紀初頭までのイギリス帝国の歴史的特徴を理解する。
- ・ 帝国支配がイギリス国内と世界各地に与えた多様な影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	近世のイギリス帝国概観：アメリカ植民地の独立まで	18 世紀末までのイギリス帝国の動向を概観する。
第 3 回	革命の時代の帝国	フランス革命の時代のイギリスと帝国について学ぶ。
第 4 回	奴隷制と奴隷貿易	19 世紀初頭までの帝国を支えていた奴隷制と奴隷貿易について学ぶ。
第 5 回	奴隷貿易・奴隷制への反対運動	奴隷貿易と奴隷制への反対運動とその同時代的意義を学ぶ。
第 6 回	帝国の拡大と植民地自治	19 世紀前半の帝国の拡大と植民地自治の発展について学ぶ。
第 7 回	インド	帝国の要であったインドとその支配について学ぶ。
第 8 回	非公式帝国	帝国を理解するうえで重要な非公式帝国という概念とその問題点を学ぶ。
第 9 回	帝国の支配者たち	帝国を支配した人々とその役割について学ぶ。
第 10 回	帝国の経済	帝国の経済構造について学ぶ。
第 11 回	支配の文化、文化の支配	帝国支配を文化の観点から学ぶ。
第 12 回	帝国主義の時代	帝国主義の時代におけるイギリスと帝国のありようを学ぶ。
第 13 回	まとめ	授業の内容を総括する。
第 14 回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004～2009 年
秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012 年

【成績評価の方法と基準】

- ・ 平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %
- ・ 期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the early 20th century. It analyzes the empire's entanglement with British domestic affairs as well as its impact on other parts of the world.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about early modern and modern British imperial history.
- 2) Students are able to assess varied impact that the empire had on Britain and wider world.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS300LA

イギリスと帝国 B

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代のイギリス帝国は、世界史の動向を大きく規定した。20 世紀後半に帝国は崩壊したが、植民地支配の過去は現在の世界にも影響を及ぼし続けている。本授業では 20 世紀のイギリス帝国に焦点をあて、その歴史的意義を考えてみたい。

【到達目標】

- ・ 20 世紀のイギリス帝国の特徴を理解する。
- ・ 現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。春学期に開講する「イギリスと帝国 A」と内容面で連続性があるので、当該授業を履修したうえで登録することを強く勧める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	世紀転換期のイギリス帝国	19～20 世紀転換期のイギリスと帝国について学ぶ。
第 3 回	南アフリカ戦争の時代	南アフリカ戦争がイギリスと帝国に与えたインパクトを学ぶ。
第 4 回	第一次世界大戦とイギリス帝国①	第一次世界大戦期のイギリスについて学ぶ。
第 5 回	第一次世界大戦とイギリス帝国②	第一次世界大戦への植民地のかかわりを学ぶ。
第 6 回	中東のイギリス帝国	戦間期中の東地域におけるイギリスの支配について学ぶ。
第 7 回	イギリス帝国と日本	第二次世界大戦までのイギリス帝国と日本の関係について学ぶ。
第 8 回	第二次世界大戦とイギリス帝国	第二次世界大戦期のイギリス帝国について学ぶ。
第 9 回	コモンウェルスの形成	コモンウェルスの形成過程を学ぶ。
第 10 回	帝国＝コモンウェルス体制の変容と脱植民地化	脱植民地化とコモンウェルスの変容について学ぶ。
第 11 回	帝国のほころび	20 世紀後半における帝国の崩壊について学ぶ。
第 12 回	帝国支配の過去と現在	帝国支配の過去が現在のイギリスと旧植民地にどのような影響を及ぼしているかを学ぶ。
第 13 回	まとめ	授業の内容を総括する。

第 14 回 授業内試験

期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』（全 5 巻）ミネルヴァ書房、2004～2009 年
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012 年

【成績評価の方法と基準】

- ・ 平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %
- ・ 期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire in the 20th century. It analyzes the empire's structures, decline, and continued impact on the contemporary world.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British imperial history.
- 2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British empire.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

LANj300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り、全体を概観する。

- ・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ、何をどう教えるかを考える。
- ・自分自身が身につけている言語観、教育観、学習スタイルをふりかえり、時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて、よりよい教育方法について考察する。

【到達目標】

- (1) 日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。
- (2) 日本語や日本社会を日本語教育の視点で、客観的に捉えることができる。
- (3) 日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し、クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語教育の特色	社会における日本語教育の意義・役割について考える。
第 2 回	日本語教育を取り巻く社会情勢	世界の日本語教育事情と日本の留学生政策について概観する。
第 3 回	母語の学習と外国語学習	第二言語習得と第一言語習得の違いについて理解する。
第 4 回	日本語の音の特徴とその指導	音声学と音韻論について概観し、日本語の音の特徴について理解する。
第 5 回	日本語の文字・語彙とその指導	文字・語彙論について概観し、日本語の音の特徴について理解する。
第 6 回	動詞の活用と初級文型	日本語の動詞の活用の説明について、国語文法と日本語教育でどう違うかを理解する。
第 7 回	初級の文型の導入とドリル	初級学習者に日本語を教える場合、どんな文型をどんな順序で教えるかを考える。
第 8 回	シラバスとコースデザイン	シラバスの種類を知るとともに、コースがどうやってデザインされるかを理解する。
第 9 回	教授法について	どんな教授法があるかや、歴史の変遷や理論、特色ある指導法などについて学ぶ。

第 10 回 教室活動と授業計画の立て方

現場でどのような教室活動が行われているか、また、1つ1つの授業がどのように計画されるのかを学ぶ。

第 11 回 各国の日本語教育についての発表-東アジア・東南アジア

東アジア・東南アジアの国・地域の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。

第 12 回 各国の日本語教育についての発表-オセアニア・南米

オセアニア・南米の国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。

第 13 回 各国の日本語教育についての発表-ヨーロッパ・アメリカ

ヨーロッパ・アメリカの国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。

第 14 回 討論・議論（授業内でこのまでの学びを踏まえて提示されたテーマを扱う。）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

田中望 (1988) 『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店

縫部義憲 (1991) 『日本語教育学入門』創拓社

石田敏子 (1998) 『日本語教授法』大修館書店

高見澤孟 (2004) 『新・はじめての日本語教育 2・日本語教授法入門』アスク

川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)

発表のパフォーマンス (25%)

受講態度 (議論への積極的参加など) (20%)

課題提出 (15%)

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば、積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで、授業内容がより深く理解でき、更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to reflect on their own views of language, education, and learning styles, and to consider better teaching methods based on the current state of Japanese language education, which has changed in response to the needs of the times.

【Learning Objectives】

After completing this course, students will be able to:

- (1) understand what kind of field Japanese language education is and to be able to visualize it concretely.
- (2) see Japanese language and Japanese society objectively from the perspective of Japanese language education.
- (3) understand the significance of Japanese language teaching and its role in society, and explain it in one's own words.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the course objectives will be considered to have passed the course.

LANj300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り、全体を概観する。

- ・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ、何をどう教えるかを考える。
- ・学習者主体の授業とはどういうものかを検討し、時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて、具体的に日本語の教材作成や授業実践について考える。

【到達目標】

- (1) 外国語としての日本語を教えるにはどのような教室運営がなされ、そこではどのような教材が望ましいかを理解できる。
- (2) 学習者に合ったカリキュラム設定を行い、具体的な授業計画を立て、教材選定、教材作成ができる。
- (3) 日本語の授業で、文法の導入・説明を適切に行い、定着を図るタスクを効果的にできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し、クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語教育の歴史	日本語教育の歴史について概観する。
第 2 回	学習者中心の指導法	学習者中心の指導法とはどういうものかについて考える。
第 3 回	教材・教具	日本語を教える際に使用される教材や教具の特徴について理解する。
第 4 回	直接法による教え方	日本語を日本で直接教える方法とはどういうものか理解する。
第 5 回	タスク中心の指導法	実際に教える時に使われるタスクにはどのようなものがあるか概観するとともに、タスク中心の指導法について理解する。
第 6 回	初級と中・上級	学習者のレベルによって教え方がどう違うかを考える。
第 7 回	作文指導	作文、ライティング能力の向上のためにどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第 8 回	読解指導	読解力向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第 9 回	会話やスピーチの指導	会話やスピーチ能力の向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。

第 10 回	視聴覚教材の使い方	視聴覚教材の効果的な使い方について考える。
第 11 回	作成教材を用いた模擬授業①	受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教えてみる。
第 12 回	作成教材を用いた模擬授業②	受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教えてみる。
第 13 回	作成教材を用いた模擬授業③	受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教えてみる。
第 14 回	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

田中望 (1988) 『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店
 縫部義憲 (1991) 『日本語教育学入門』創拓社
 石田敏子 (1998) 『日本語教授法』大修館書店
 高見澤孟 (2004) 『新・はじめての日本語教育 2・日本語教授法入門』アスク
 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)

発表のパフォーマンス (25%)

受講態度 (議論への積極的参加など) (20%)

課題提出 (15%)

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば、積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで、授業内容がより深く理解でき、更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to examine what learner-centered classrooms are, and to consider the creation of Japanese language teaching materials and class practices based on the current state of Japanese language education, which has been changing in accordance with the needs of the times.

【Learning Objectives】

(1) understand what kind of classroom management and what kind of teaching materials are desirable for teaching Japanese as a foreign language.

(2) set up a curriculum suited to the learners, make concrete lesson plans, select teaching materials, and create teaching materials.

(3) to introduce and explain grammar appropriately in Japanese classes and effectively perform tasks to ensure retention.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the course objectives will be considered to have passed the course.

LAW300LA

法哲学 A

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (25 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。履修人数は 25 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと (本シラバス「その他の重要事項」参照)。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第 2 回	法哲学を学ぶにあたって	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何か
第 3 回	法哲学の基本的視点	現代日本の格差について
第 4 回	法哲学理論の基礎	自由と平等の関係について
第 5 回	ドーピングは禁止すべきか? (1)	ドーピングをめぐる現状について
第 6 回	ドーピングは禁止すべきか? (2)	ドーピングと個人の自由について
第 7 回	ドーピングは禁止すべきか? (3)	卓越主義と中立性原理について
第 8 回	臓器売買は許されるべきか? (1)	臓器売買規制の現状について
第 9 回	臓器売買は許されるべきか? (2)	自分の身体に対する所有権について
第 10 回	臓器売買は許されるべきか? (3)	自己所有権の限界について

- 第 11 回 同性間の婚姻を法的に認めるべきか? (1) 同性婚に関する法制度の現状について
- 第 12 回 同性間の婚姻を法的に認めるべきか? (2) 婚姻制度の目的について
- 第 13 回 同性間の婚姻を法的に認めるべきか? (3) 「婚姻の私事化」について
- 第 14 回 同性間の婚姻を法的に認めるべきか? (4) 婚姻の法制度化の意義について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト (教科書)】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』(法律文化社、2016 年、2500 円+税)

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房、2007 年)

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房、2010 年)

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014 年)

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』(法律文化社、2019 年)

森村進『法哲学講義』(筑摩書房、2015 年)

森村進編『法思想史の水脈』(法律文化社、2016 年刊行予定)

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房、2010 年)

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文 (レポート) の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80 %、コメント等：20 % の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 25 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。(選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。) 人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。(春学期の「法哲学 A」受講者には、秋学期の「法哲学 B」の履修を優先的に認める。) あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, students are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

LAW300LA

法哲学 B

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 2 単位

定員制 (25 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 A」とあわせて履修すること。履修人数は 25 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと (本シラバス「その他の重要事項」参照)。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、法哲学的な視点に立つて根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第 2 回	裁判員制度は廃止すべきか? (1)	裁判員制度の現状について
第 3 回	裁判員制度は廃止すべきか? (2)	裁判員制度への批判について
第 4 回	裁判員制度は廃止すべきか? (3)	裁判員制度の正当化根拠について
第 5 回	裁判員制度は廃止すべきか? (4)	国民と司法の関係について
第 6 回	児童手当は独身者差別か? (1)	子育て支援の現状について
第 7 回	児童手当は独身者差別か? (2)	児童手当の公平性について
第 8 回	児童手当は独身者差別か? (3)	法制度の中立性に関する理論について
第 9 回	児童手当は独身者差別か? (4)	子育て支援制度の根拠について

第 10 回	相続制度は廃止すべきか? (1)	相続制度の現状について
第 11 回	相続制度は廃止すべきか? (2)	相続制度の根拠について
第 12 回	相続制度は廃止すべきか? (3)	相続制度廃止論について
第 13 回	相続制度は廃止すべきか? (4)	個人の権利と相続の関係について
第 14 回	理論的整理	リベラリズムとリバタリアニズムについて

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト (教科書)】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』(法律文化社、2016 年、2500 円+税)

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房、2007 年)

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房、2010 年)

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014 年)

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論: ベーシックからフロンティアまで』(法律文化社、2019 年)

森村進『法哲学講義』(筑摩書房、2015 年)

森村進編『法思想史の水脈』(法律文化社、2016 年刊行予定)

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房、2010 年)

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文 (レポート) の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文: 80 %、コメント等: 20 % の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 25 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。(選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。) 人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 A」をあわせて履修すること。(履修者の選抜・決定にあたっては、春学期の「法哲学 A」を受講済みの学生を優先する。)

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, students are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

坂根 徹

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 5/Tue.5

単位数: 2 単位

定員制

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本教養ゼミ I (囲碁で培う戦略的思考) は、囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を学び、対局の流れを理解する。このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を身に付けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】

囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を理解し、初學者用の基盤での対局ができるようになることや、それらを通して、戦略的な思考力を身に付けること、及び、囲碁の歴史や現在の囲碁事情を理解することや、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表の実施などが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

ガイダンスで本ゼミの説明 (及び希望者多数の場合は選考又はその準備など) を実施した後、受講者を確定させる。その後囲碁の基本ルールを学び、初學者用の基盤での対局の流れと基本的戦略 (初歩的技術) 等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。

以下の計画は、実際のゼミの進捗や履修者数及び授業実施に利用可能なリソース・ツールの有無等により修正・変更されることがある。なお、囲碁研究会からも本ゼミへの協力が想定されている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本ゼミの説明 (及び希望者多数の場合は選考又はその準備)
第 2 回	囲碁の歴史	囲碁の歴史についての概説
第 3 回	囲碁の基本ルールと効果的な時間外学習方法の紹介	囲碁の基本ルールの説明と本ゼミの効果的な時間外学習の紹介
第 4 回	6 路盤による学習の基本	6 路盤による学習の基本についての説明
第 5 回	6 路盤による学習・実践等 1	6 路盤による学習・実践の開始
第 6 回	6 路盤による学習・実践等 2	6 路盤による学習・実践の継続
第 7 回	6 路盤による学習・実践等 3	6 路盤による学習・実践の継続とまとめ
第 8 回	9 路盤による学習の基本 1	9 路盤による学習の基本についての説明の開始
第 9 回	9 路盤による学習の基本 2	9 路盤による学習の基本についての説明の継続
第 10 回	9 路盤による学習・実践等 1	9 路盤による学習・実践の開始
第 11 回	9 路盤による学習・実践等 2	9 路盤による学習・実践の継続

第 12 回 9 路盤による学習・実践等 3

第 13 回 9 路盤による学習・実践の継続とまとめ
9 路盤による学習・実践の継続とまとめ

第 14 回 9 路盤による学習・実践の継続とまとめ
9 路盤による学習・実践の継続とまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習に要する時間は 4 時間を標準とする。出された課題の準備・実施や教科書 (及び参考書) などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。

【テキスト (教科書)】

石倉昇, 梅沢由香里, 黒瀧正憲, 兵頭俊夫『東大教養囲碁講座—ゼロからわかりやすく』光文社, 2007 年。

【参考書】

日本棋院『実践囲碁総合演習—入門その後に完全対応』日本棋院, 2014 年。

薬科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社, 2008 年。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度などの平常点 (70%) と期末プレゼンテーション (30%)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

テキスト (教科書) は各自準備する必要がある。その他、囲碁の実習・教育に伴う一部教材への若干の費用が必要になる予定であり、具体的には初回のガイダンスで説明する。

【その他の重要事項】

囲碁を学んだことがない又は学び始めて間もないなどの初學者が対象になる。履修を検討する者は、初回のガイダンスに必ず出席して説明を受け、履修希望の是非を決める。

本科目の定員は 20 名である。履修希望者多数の場合は、初回のガイダンスを含めて選考が実施され、第 2 回目までに履修者が確定される。本科目の履修登録は、履修者として確定してから実施されたい。

【Outline (in English)】

Main theme of this course is to learn the rule and basic strategies of Igo. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.

Grading will be decided based on in-class performance and contribution (70%) and final presentations (30%).

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：東京の「街歩き」コースを提案しよう！本授業は、人文地理学的な街歩きを実践する教養ゼミです。受講生のみなさんが、案内者になったつもりで、東京の「街歩き」コースを提案していただき、それを踏まえて、人文地理学的な地域の見方、考え方について議論します。春学期は、春～夏にかけての東京の街の人文地理学的な見どころを探していただきます。

【到達目標】

本授業では、人文地理学的な「地域」の見方を自ら考えて、実践することを目的とします。履修者がお互いに興味関心をもてるように「東京」を共通フィールドとします。東京には、多様な自然・歴史・文化をもつ様々な街がたくさんあります。その「街歩き」コースを提案することから、多くの発見や気づきがあるでしょう。大学での地理学を学ぶ楽しさを経験し、教養だけでなく、今後の専門学習にも活かしていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループ単位で、東京をフィールドにしてテーマを設定し、人文地理学的な「街歩き」コースを提案してもらいます。土日や平日の空き時間を利用して、実際にコースを歩き、その概要を授業時間内にパワーポイントで発表してください。それをもとに、みんなで議論いたします。教員からのコメントも授業内でフィードバックします。教科書には、東京都内各地のフィールド巡検コースが提案されています。それを参考にさせていただいても大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者決定 発表順番の調整 スケジュール確定
第 2 回	フィールドワーク①	靖国神社・皇居を巡検する（身近な東京）
第 3 回	東京の人文地理学①	江戸時代から戦前までの東京の変遷を講義する
第 4 回	東京の人文地理学②	戦後から現代までの東京の変遷を講義する
第 5 回	フィールドワーク②	市ヶ谷を巡検する（身近な東京）
第 6 回	メディアにみる外濠	プラタモリ「江戸城外濠」を鑑賞する
第 7 回	街歩きコースの提案①	東京都千代田区のコース
第 8 回	街歩きコースの提案②	東京都中央区のコース
第 9 回	街歩きコースの提案③	東京都新宿区・文京区のコース
第 10 回	街歩きコースの提案④	東京都港区・品川区のコース
第 11 回	街歩きコースの提案⑤	東京都江東区・墨田区のコース
第 12 回	街歩きコースの提案⑥	東京都台東区のコース
第 13 回	街歩きコースの提案⑦	多摩地域のコース

第 14 回 街歩きコースの提案⑧ パワーポイントで発表する
まとめ 提案したコースのなかで最もよかったものを投票で選ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史』第 1 巻～第 10 巻、吉川弘文館

BT12 階の地理学科事務室に備えてあります。必要な箇所をコピーしてください。

【参考書】

適宜、授業内で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、プレゼンテーションやレポート内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業内に大学近辺のフィールドワーク（巡検）を実施したところ、好評でしたので、今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

発表用の資料は Google クラウドで共有します。学習に支障がないように、PC など機器類を必ず準備してください。

【その他の重要事項】

本授業はゼミ形式のため、希望者多数の際は、履修人数を制限いたします。必ず、初回の授業開始前までに、学習支援システムで仮登録をして、授業に出席してください。履修希望人数を把握し、必要であれば選抜いたします。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline (in English)】

This class is a liberal arts seminar in which students will practice walking around the city from a human geographical perspective. Students will be asked to propose a "city walking" course in Tokyo as if they were guides, and based on the proposed course, we will discuss human geographical views and perspectives on the region. In the spring semester, students will be asked to find human geographical highlights of the city of Tokyo from spring to summer.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and presentation (50%), in-class contribution (50 %).

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：東京の「街歩き」コースを提案しよう！本授業は、人文地理学的な街歩きを実践する教養ゼミです。受講生のみなさんが、案内者になったつもりで、東京の「街歩き」コースを提案していただき、人文地理学的な地域の見方、考え方について議論します。秋学期は、秋～冬の東京の街の見どころを探していただきます。

【到達目標】

本授業では、人文地理学的な「地域」の見方を自ら考えて、実践することを目的とします。履修者がお互いに興味関心をもてるように「東京」を共通フィールドとします。東京には、多様な自然・歴史・文化をもつ様々な街がたくさんあります。その「街歩き」コースを提案することから、多くの発見や気づきがあるでしょう。地理学を学ぶ楽しさを経験し、教養だけでなく、今後の専門学習にも活かしていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループ単位で、東京をフィールドにしてテーマを設定し、人文地理学的な「街歩き」コースを提案してもらいます。土日や平日の空き時間を利用して、実際にコースを歩き、その概要を授業時間内にパワーポイントで発表してください。それをもとに、みんなで議論いたします。教員からのコメントは授業内でフィードバックします。教科書には、東京都内各地のフィールド巡検コースが提案されています。それを参考にさせていただいても大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者決定 発表順番の調整 スケジュール確定
第 2 回	フィールドワーク①	番町・四ツ谷を巡検する（身近な東京）
第 3 回	東京の人文地理学①	江戸時代から戦前までの東京の変遷を講義する
第 4 回	東京の人文地理学②	戦後から現代までの東京の変遷を講義する
第 5 回	フィールドワーク②	神楽坂を巡検する（身近な東京）
第 6 回	メディアにみる東京	NHK スペシャル「東京」の特集を鑑賞する
第 7 回	街歩きコースの提案①	東京都千代田区・中央区のコース
第 8 回	街歩きコースの提案②	東京都新宿区・中野区のコース
第 9 回	街歩きコースの提案③	東京都渋谷区のコース
第 10 回	街歩きコースの提案④	東京都世田谷区のコース
第 11 回	街歩きコースの提案⑤	東京都目黒区のコース
第 12 回	街歩きコースの提案⑥	東京都杉並区のコース
第 13 回	街歩きコースの提案⑦	多摩地域のコース
第 14 回	街歩きコースの提案⑧	パワーポイントで発表する 提案したコースのなかで最もよかったものを投票で選ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史』第 1 巻～第 10 巻 吉川弘文館
B T 12 階の地理学教科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、プレゼンテーションやレポート内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業内に大学近辺のフィールドワーク（巡検）を実施したところ、好評でしたので、今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

発表用資料などを Google クラウドで共有をします。学習に支障がないように PC など機器類を必ず準備してください。

【その他の重要事項】

本授業はゼミ形式のため、希望者多数の際は、履修人数を制限いたします。必ず、初回の授業までに、学習支援システムで仮登録をして出席してください。履修希望人数を把握し、必要あれば選抜いたします。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline (in English)】

This class is a liberal arts seminar in which students will practice walking around the city from a human geographical perspective. Students will be asked to propose a "city walking" course in Tokyo as if they were guides, and we will discuss how to view and think about the region from a human geographical perspective.

In the fall semester, students will be asked to find out the highlights of Tokyo in the fall and winter.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and presentation (50%), in-class contribution (50%) .

CUA300LA

文化人類学方法論 A

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、開発援助や国際協力に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。文化人類学の基本的な理論や概念の習得を目標とするとともに、開発、貧困、紛争、災害などに関する現代的な諸テーマも取り上げながら、グローバル・イシューにアプローチするための基本的な視座を養います。

【到達目標】

- ・文化人類学、開発人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・世界の諸地域に暮らす人びとの文化や社会の多様性を認識し、グローバルな問題とローカルな問題のかかわり合いを看取する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけでなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる (主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる)。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第 2 回	開発援助とは何か①	開発の歴史と関連概念
第 3 回	開発援助とは何か②	開発の理論と人類学者の立ち位置
第 4 回	人類学と開発問題①	(文献の発表・討論) 開発人類学の展開
第 5 回	人類学と開発問題②	(文献の発表・討論) 文化人類学と開発のつながり／へだたり
第 6 回	開発実践の現場から①	(文献の発表・討論) フィールドワークと現地の視点
第 7 回	開発実践の現場から②	(文献の発表・討論) 開発とジェンダー
第 8 回	開発実践の現場から③	(文献の発表・討論) 公衆衛生・保健医療
第 9 回	援助と互酬性①	(文献の発表・討論) 変貌する NGO・市民活動の現場
第 10 回	援助と互酬性②	(文献の発表・討論) グローバルな互酬を構想する
第 11 回	アクターの多層性①	(文献の発表・討論) 学生の海外ボランティア
第 12 回	アクターの多層性②	(文献の発表・討論) 宗教者・宗教団体による開発

第 13 回 新たな関係性の構築 (文献の発表・討論) 理念と実践の隔たりから考える

第 14 回 総括 春学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う (発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読)。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布します。

【参考書】

石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学—グローバル化するポスト世俗主義と開発言説』春風社、2019 年。
関根久雄編『実践と感情—開発人類学の新展開』春風社、2015 年。
佐藤寛・藤掛洋子編『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店、2011 年。
小國和子ほか編『支援のフィールドワーク—開発と福祉の現場から』世界思想社、2011 年。
(以上のほか、授業時に適宜紹介します)

【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点 (70 %) を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容 (30 %) も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第 1 回目授業には必ず出席してください。事前の連絡や相談もなく第 1 回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めません。
- ・毎回の授業で履修者全員に「文献へのコメント」の提出を課します。この点を承知のうえで履修してください。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the development. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of development, and understand the impacts of development on the local culture, environment and society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

CUA300LA

文化人類学方法論 B

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、観光に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。観光の現場では、ローカルな文化・環境・宗教などが新たな意味や価値をもつものとして資源化され、ナショナルおよびグローバルな文脈に位置づけられる現象が起こっています。観光客を迎える人たち (= ホスト) はいかに資源化をおこない、観光客 (= ゲスト) はそれをどのように経験するのでしょうか。また、ゲストとホストの双方にとってより良い観光とは何でしょうか。本授業では、これらの問いや疑問について考察します。

【到達目標】

- ・文化人類学、観光人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・観光に関する国内外の事例を学ぶことを通して、グローバル化時代の観光現象を広い視野から理解する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけでなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる (主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる)。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第 2 回	観光の形態	(全員発表) 観光・ツーリズムの諸形態を調べ、履修者全員によるオンライン発表
第 3 回	観光とは何か	(講義と討論) その歴史と定義をめぐって
第 4 回	観光と文化	(講義と討論) 観光の現場で創られる文化
第 5 回	環境と観光	(文献の発表と討論) マスツーリズムの歴史
第 6 回	ノスタルジアと観光	(文献の発表と討論) 岩手県遠野のふるさと観光
第 7 回	世界遺産と観光	(文献の発表と討論) 文化の資源化
第 8 回	まちづくりと観光①	(文献の発表と討論) その可能性と課題
第 9 回	まちづくりと観光②	(文献の発表と討論) 小江戸・川越の事例

第 10 回	宗教と観光	(文献の発表と討論) 宗教/聖地ツーリズム
第 11 回	そのほかの観光①	(文献の発表と討論) ダークツーリズム
第 12 回	そのほかの観光②	(文献の発表と討論) アニメ聖地巡礼
第 13 回	そのほかの観光③	(文献の発表と討論) アフターコロナと観光
第 14 回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う (発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読)。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布します。

【参考書】

- 山下晋司『観光人類学の挑戦—「新しい地球」の生き方』講談社、2009 年。
山中弘編『宗教とツーリズム—聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012 年。
橋本和也『地域文化観光論—新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版、2016 年。
市野澤潤平ほか編『観光人類学のフィールドワーカー—ツーリズム現場の質的調査入門』ミネルヴァ書房、2021 年。
市野澤潤平編『基本概念から学ぶ観光人類学』ナカニシヤ出版、2022 年。
(以上のほか、授業時に適宜紹介します)

【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点 (70 %) を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容 (30 %) も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第 1 回目授業には必ず出席してください。事前の連絡や相談もなく第 1 回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めません。
- ・毎回の授業で履修者全員に「文献へのコメント」の提出を課します。この点を承知のうえで履修してください。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the tourism. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of tourism, and understand the impacts of tourism on the local culture, environment and society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業で、すこしずつ検討していきます。扱うテキストは、デイヴィッド・ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）という、哲学史で有名な著作です。月曜 2 限。

【到達目標】

- ・翻訳家や編集者の仕事に興味のある人
- ・古典や哲学に興味のある人
- ・英文翻訳のスキルアップをめざす人
- ・機械翻訳（DeepL）の正確さ・精度をたしかめてみたい人など、各人の目的にあわせた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ（A4 用紙で 1～2 枚の分量をめぐり）検討していきます。

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読んだり、英語原文や、既存の日本語訳や、機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。

学期最初は対面形式で実施しますが、慣れてきたら、隔週をめぐりオンライン形式で実施することを計画しています。課題等のフィードバックは、授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	『人間本性論』
3	翻訳の検討	『人間本性論』
4	翻訳の検討	『人間本性論』
5	翻訳の検討	『人間本性論』
6	翻訳の検討	『人間本性論』
7	翻訳の検討	『人間本性論』
8	翻訳の検討	『人間本性論』
9	翻訳の検討	『人間本性論』
10	翻訳の検討	『人間本性論』
11	翻訳の検討	『人間本性論』
12	翻訳の検討	『人間本性論』
13	翻訳の検討	『人間本性論』
14	翻訳の検討	『人間本性論』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、翻訳文を読んだり、英語原文や既存の日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

David Hume, A Treatise of Human Nature

（哲学史においてきわめて有名なテキストです。『人間本性論』や『人性論』などのタイトルで、すでに日本語訳がいくつか存在しています。）英文テキストはオンラインで参照することができますので、テキストを事前に購入する必要はありません。

【参考書】

ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100 点

欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できる機器一式。学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありませんが、分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作をいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年）。今回、あらたに、ヒュームのもっとも有名な著作『人間本性論』を翻訳することとしました。けっして易しいテキストではありませんが、高校生・大学生が読んで理解できる翻訳をつくりたいと考えています。一緒に作業をおこなっていきましょう。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating Hume's Treatise into Japanese. This class contribute to the improvement of your English-Japanese translation skills and your understanding on the history of Western philosophy. Students are required to prepare for the class outside of class time for the time required by the national standards. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

犬塚 元

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

定員制

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業で、すこしずつ検討していきます。扱うテキストは、デイヴィッド・ヒューム『人間本性論』(David Hume, A Treatise of Human Nature) という、哲学史で有名な著作です。月曜 2 限。教養ゼミⅠの続きです。

【到達目標】

- ・ 翻訳家や編集者の仕事に興味のある人
- ・ 古典や哲学に興味のある人
- ・ 英文翻訳のスキルアップをめざす人
- ・ 機械翻訳 (DeepL) の正確さ・精度をたしかめてみたい人など、各人の目的にあわせた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ (A4 用紙で 1 ~ 2 枚の分量をめぐり) 検討していきます。

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読んだり、英語原文や、既存の日本語訳や、機械翻訳 (DeepL) による日本語訳などと比べたりしながら、(1) 日本語としてわかりにくい箇所、(2) 英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。

学期最初は対面形式で実施しますが、慣れてきたら、隔週をめぐりオンライン形式で実施することを計画しています。課題等のフィードバックは、授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	『人間本性論』
3	翻訳の検討	『人間本性論』
4	翻訳の検討	『人間本性論』
5	翻訳の検討	『人間本性論』
6	翻訳の検討	『人間本性論』
7	翻訳の検討	『人間本性論』
8	翻訳の検討	『人間本性論』
9	翻訳の検討	『人間本性論』
10	翻訳の検討	『人間本性論』
11	翻訳の検討	『人間本性論』
12	翻訳の検討	『人間本性論』
13	翻訳の検討	『人間本性論』
14	翻訳の検討	『人間本性論』

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に、翻訳文を読んだり、英語原文や既存の日本語訳などと比べたりしながら、(1) 日本語としてわかりにくい箇所、(2) 英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。(大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習 (2 単位) では 1 回につき 4 時間以上が標準となります。)

【テキスト (教科書)】

David Hume, A Treatise of Human Nature

(哲学史においてきわめて有名なテキストです。『人間本性論』や『人性論』などのタイトルで、すでに日本語訳がいくつか存在しています。) 英文テキストはオンラインで参照することができますので、テキストを事前に購入する必要はありません。

【参考書】

可能であれば、ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (理解度、ディスカッションへの貢献) 100 点

欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できる機器一式。学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありませんが、分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作をいくつか翻訳してきました (直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年)。今回、あらたに、ヒュームのもっとも有名な著作『人間本性論』を翻訳することとしました。けっして易しいテキストではありませんが、高校生・大学生が読んで理解できる翻訳をつくりたいと考えています。一緒に作業をおこなっていきましょう。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating Hume's Treatise into Japanese. This class contribute to the improvement of your English-Japanese translation skills and your understanding on the history of Western philosophy. Students are required to prepare for the class outside of class time for the time required by the national standards. Students will be graded on the basis of their regular performance.

PSY300LA

人間行動学 A

2017 年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多様な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学 A・B では同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理の本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】

人間行動学 A (春学期) ではミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』を読み解きます。「最適経験」とも形容されるフロー現象。スポーツ等の文脈では「ゾーンに入る」と表現されることもあります。我を忘れるほどの没入感を伴って眼前の課題にのめり込む心理現象であるフロー状態を様々な角度から考察し、心理学的理論に照らしながらその心の働きと行動への影響について具体的な理解を深めつつ、実践的視点から日常の経験を振り返ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で実施予定です。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。その他の詳細は第 1 回時に説明します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第 2 回	発表・討論	第 1 章「幸福の再来」
第 3 回	発表・討論	第 2 章「意識の分析」
第 4 回	発表・討論	第 3 章「楽しさと生活の質」
第 5 回	発表・討論	第 4 章「フローの条件」
第 6 回	発表・討論	フローの計測
第 7 回	発表・討論	経験抽出法 (ESM)
第 8 回	発表・討論	第 5 章「身体フロー」
第 9 回	発表・討論	第 6 章「思考のフロー」
第 10 回	発表・討論	第 7 章「フローとしての仕事」
第 11 回	発表・討論	第 8 章「孤独と人間関係の楽しさ」
第 12 回	発表・討論	第 9 章「カオスへの対応」
第 13 回	発表・討論	第 10 章「意味の構成」
第 14 回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』(世界思想社、1996 年)

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) : 報告・発表およびディスカッション (討論) での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。成績評価項目の詳細は第 1 回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.

Learning Objectives:

In Human Behavioral Science A, "Flow — The Psychology of Optimal Experience" by Mihaly Csikszentmihalyi will be thoroughly covered. The phenomenon called flow, also expressed as optimal experience, or "being in the zone" in sports context, entails a state of complete absorption into a task at hand, so deep that even the sense of self is pushed out of consciousness. By acquiring a tangible understanding of the psychological workings behind flow and its behavioral consequences from multiple perspectives, students will also reflect on their daily life for its applicability.

Learning Activities Outside of Classroom:

The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy:

Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多彩な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学 A・B では同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理の本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】

人間行動学 B (秋学期) ではクリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』を精読し、ウェルビーイングについての科学研究を多角的に学びます。「幸せ」の多面的側面に触れ、その心理学研究の展開を追うことで、よりよく生きるための方途を模索し、その過程にある人間の心理と行動への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で開催予定です。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。その他の詳細は第 1 回時に説明します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第 2 回	発表・討論	第 1 章「ポジティブ心理学とは何か?」
第 3 回	発表・討論	第 2 章「ポジティブ心理学について学ぶとは」
第 4 回	発表・討論	第 3 章「気持ちよさとポジティブな経験」
第 5 回	発表・討論	第 4 章「幸せ」
第 6 回	発表・討論	第 5 章「ポジティブ思考」
第 7 回	発表・討論	第 6 章「強みとしての徳性」
第 8 回	発表・討論	第 7 章「価値観」
第 9 回	発表・討論	第 8 章「興味、能力、達成」
第 10 回	発表・討論	第 9 章「ウェルネス」
第 11 回	発表・討論	第 10 章「ポジティブな対人関係」
第 12 回	発表・討論	第 11 章「よい制度」
第 13 回	発表・討論	第 12 章「ポジティブ心理学の未来」
第 14 回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

クリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』(春秋社、2012 年)

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%) : 報告・発表およびディスカッション (討論) での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。成績評価項目の詳細は第 1 回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.

Learning Objectives:

In Human Behavioral Science B, "A Primer in Positive Psychology" by Christopher Peterson will be used as the main text to examine a wide range of scientific studies on well-being. Through exposure to multidimensional definitions of "happiness" and following the course of psychological investigations on the topic, students will reflect on their personal endeavors for a good life while deepening their understanding of human psychology and behavior involved in the process.

Learning Activities Outside of Classroom:

The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy:

Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Details are provided during the first meeting. No exams are given.

ARSe300LA

沖縄を考える A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

明田川 融、大里 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点では講師と授業回がすべてでは確定していないが、決定したところから沖縄文化研究所 HP で公開するので、そちらを参照してほしい。

なお、本授業は複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフードバックは、受講生の要望に常に配慮しながら、学習支援システム等を用い学年末を含め随時行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：明田川融）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についてなど
2	沖縄を知るための基礎知識①（担当：大里知子）	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②（担当：大里知子）	沖縄の歴史と現在の問題に関する概説
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定

14 春学期のまとめ（担当 春学期の振り返りと学期末の課題：大里知子）（レポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）と、毎回のミニレポート（15 %）、対面出席票（15 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA

沖縄を考える B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

明田川 融、大里 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから沖縄文化研究所 HP で公開するので、そちらを参照してほしい。

なお、本授業は複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフィードバックは、受講生の要望に常に配慮しながら、学習支援システム等を用い学年末を含め随時行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：明田川融 大里知子）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についてなど
2	未定	未定
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	秋学期のまとめ（担当：大里知子）	秋学期の振り返りと学期末の課題（レポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）と毎回のミニレポート（15 %）、対面出席票（15 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ECN300LA

ヨーロッパ政治経済論 A

2017 年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論 A では、国際政治経済学の基礎理論を学んだ上で、国際体制の基本構造とその体制の中で主軸となってきたヨーロッパの歴史的展開を、EU の経済政治統合（EU 統合）の歩みとともに学んでいきます。そしてグローバル市場化の進行による国際体制の構造的変容の中での EU の新たな立ち位置を踏まえて、世界が直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対し考察出来るベースを身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

- ・政治経済学的アプローチを身に付けられる。
- ・世界動向への基盤となる基礎知識を体系的に身に付けられる。
- ・米中だけでなく、もう 1 つの主軸であるヨーロッパを知ることで、国際社会の変容と直面する問題を体系的に把握し、それらを解釈、論議していける力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。
後半にグループディスカッションが入ります。
最終回に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	政治と経済 国際体制の変容の理論 学際的アプローチとしての国際政治経済学
2	国際政治経済学基礎理論 1	国際秩序と国際ガバナンス構造を巡る体制論 (理念、思想としてのリアリズム、リベラリズム、マルクス主義)
3	国際政治経済学基礎理論 2	新たな学際アプローチへの基礎理論 (重商主義、バランスオブパワーの基礎理論としての古典派経済学(アダム・スミス、リカード、J.B セイ))
4	国際政治経済学基礎理論 3	「埋め込まれた自由主義」と国際協調への理論基礎 (ケインズ経済学の思想と理論)
5	19 世紀ガバナンス体制	19 世紀ガバナンス体制の成立と行き詰まり
6	ブレトンウッズ体制	戦後ブレトンウッズ体制の成立と展開
7	欧州統合の展開 1	ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての欧州統合の展開
8	欧州統合の展開 2	EC から EU へ 統合深化と拡大の歩み 欧州連合の成立とユーロの誕生

9	グローバル市場化の進行と国際ガバナンスの分断	グローバル化の進行 グローバル化の暴走と世界金融危機 (リーマンショックの展開と衝撃)
10	グローバル市場化と国際ガバナンスの分断	欧州国家債務危機 EU ソブリン危機の波及と帰結
11	反グローバリズムの台頭と EU の分断危機	世界格差の進行と反グローバリズムの台頭 閉じる帝国化とレジリエンス 歴史的危機の位相
12	反グローバリズムの波及と反統合、EU 民主主義の危機	反グローバリズムの世界的台頭と極右反欧州主義勢力の台頭 政治分断化と EU 民主主義の危機
13	EU の東欧拡大とウクライナ戦争	EU 統合拡大の文脈から見たウクライナ戦争
14	期末試験およびまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 80 %
課題およびディスカッション評価：20%

【学生の意見等からの気づき】

新開講科目のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

「ヨーロッパ政治経済論 B」では、直面する問題と EU の新たな役割、日本への示唆へと発展的に学びを進めるので、合わせて受講することをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a comprehensive overview to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as case studies to provide further understanding on world issues.

At the end of the course, students

- Should have gained a good grasp of the fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- Should have comprehensive knowledge about the EU and its relation in the world.
- Should have acquired a firm base for pursuing further studies in political economy as well as ongoing crisis in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

ECN300LA

ヨーロッパ政治経済論 B

2017 年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ヨーロッパ政治経済論 B では、ヨーロッパ政治経済論 A で学んだ内容を掘り下げ、世界経済のグローバル統合の進行に伴う国際社会の構造変化、国際ガバナンス構造の変容が生じた問題、課題への学習を進めます。具体的には、グローバル市場化と国際経済構造の変容、グローバル市場化の暴走と社会の分断、EU の分断化と政治危機、市場と国家の力学構造の変質等を取り上げ、EU が地域統合の発展過程で培ってきた多様性の中での統合の知見とソフトパワーの活用を含め、変容する国際社会の中で、現在直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対する EU の新たな立ち位置と役割を考察していきます。欧州の歴史上の展開と国際ガバナンス体制の変容の実態を深く理解することで、グローバルな視点から日本への示唆を考察していく知識と力も同時に身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

・政治経済学的アプローチを通じて世界を理解出来るようになる。
・国際社会の実態と問題、課題の把握に不可欠なヨーロッパについて、専門基礎のレベルで体系的に知識を身に付け、国際的な視座から直面する問題、課題を把握し、論じていける知識基盤と力を身につけていける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心とします。

後半にグループディスカッションを行います。

最終回に試験を実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ政治経済論 A のレビュー	政治経済学とは ヨーロッパとは
2	国際政治経済学専門基礎理論	国際ガバナンスへの学際アプローチの思想と理論 (体制思想としてのリベラリズム、リアリズム、マルキシズム、学際アプローチに向けたバランスオブパワーの理論ベースとしての古典派経済学、埋め込まれた自由主義と国際協調体制への理論、ケインズ経済学)
3	国際システムとガバナンス体制	国際システムとガバナンス体制 (市場経済と統治、史的推移 5 つのフェーズ)
4	戦後の米ドル、ブレトンウッズ体制の成立と欧州共同体 (EC) の形成	戦間期から ECSC、EC 形成への目的と意義 ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての位置づけと限界 通貨統合計画の挫折と統合の行き詰まり

5	市場統合計画の推進と統合拡大を経て欧州連合への基盤形成	経済統合の深化、拡大と EC 機構の整備拡充 欧州の戦後体制の終焉、その実態と意義
6	市場統合の深化と通貨統合の実現、EU 連合の成立からリスボン条約へ	通貨統合の意義 条約としながら欧州憲法の中身をもつリスボン条約 政治体制としての欧州連合の位置づけ
7	グローバル市場化の進行と国際経済構造の変容	情報ネットワーク化と規制緩和が決定づけたグローバル市場化の光と影
8	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断 1	リーマンショック ギリシャ危機とユーロクライシス、EU 国家債務危機
9	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断 2	ポピュリズムと自国ファースト、極右の台頭と EU 内部分断の政治危機
10	統合への疑念と分断、英国の EU 脱退 (BREXIT)	英国と大陸欧州 参加の損益と機能的統合 (英国) vs 理念と制度的統合の根源的相違 防衛・安全保障では存在大きい英国とのねじれの関係
11	市場と国家の力学構造の変質	情報プラットフォーム革命 グローバル経済統合の進行が国家と市場の力学構造を変える 同時に国家間の分断と相互の力学関係を変え、中国の台頭に伴う覇権国家構図と国際関係の変容を含め、国際ガバナンス構造の変容を生起
12	グローバル化の進行と地域統合、EU の果たす役割と日本への示唆	ハードパワーとソフトパワー 多様性の中での統合で積み上げたノウハウと企画政治力としてのソフトパワー グリーンディール、SDG s における主導的役割 EU の立ち位置と日本への示唆
13	ウクライナ戦争 新たな欧州新秩序への模索	EU の対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 80%

課題およびディスカッションへの参加 = 20%

【学生の意見等からの気づき】

新聞講科目のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

本講義は、基礎となる「ヨーロッパ政治経済論 A」をあらかじめ受講しておくことをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a further understanding to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as analysis and case studies to provide further understanding on Europe and related world issues.

At the end of the course, students

- Should have the ability to use fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- Should have improved her/his skills in analyzing important political events around Europe and across the globe.
- Should have acquired a firm base for pursuing further research in the European Union and elsewhere in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

LAW300LA

法の人間学 A

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 5/Mon.5

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法の人間学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 B」も続けて履修することが望ましい。履修人数は 30 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと (本シラバス「その他の重要事項」参照)。

【到達目標】

- ①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
- ②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第 2 回	法制度と人間本性 (1)	もしも法がなかったらどうなるか?
第 3 回	法制度と人間本性 (2)	ホップズの自然状態について
第 4 回	法制度と人間本性 (3)	ロックの自然状態について
第 5 回	法制度と人間本性 (4)	ルソーの自然状態について
第 6 回	死刑制度の是非 (1)	死刑制度の歴史と現状について
第 7 回	死刑制度の是非 (2)	袴田事件について
第 8 回	死刑制度の是非 (3)	死刑制度をめぐる立場の対立について
第 9 回	裁判員制度と死刑 (1)	国民が刑罰を決める意義と問題点について

第 10 回	裁判員制度と死刑 (2)	法制度と個人の生命の関係について
第 11 回	人工妊娠中絶 (1)	人工妊娠中絶の歴史と現状について
第 12 回	人工妊娠中絶 (2)	人工妊娠中絶をめぐるアメリカでの動向について
第 13 回	人工妊娠中絶 (3)	人工妊娠中絶をめぐる理論的な立場の対立について
第 14 回	人工妊娠中絶 (4)	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。(レジュメや配布資料に即して授業を進める。)

【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003 年
神島裕子『正義とは何か: 現代政治哲学の 6 つの視点』中公新書、2018 年
ベン・フィリップス『今すぐ格差を是正せよ!』ちくま新書、2022 年
菅野稔人『死刑 その哲学的考察』ちくま新書、2017 年
塚原久美『日本の中絶』ちくま新書、2022 年
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文 (レポート) の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文: 80 %、コメント等: 20 % の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 30 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。(選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。) 人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法の人間学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 B」も続けて履修すること。(春学期の「法の人間学 A」受講者には、秋学期の「法の人間学 B」の履修を優先的に認める。)

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

LAW300LA

法の人間学 B

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 5/Mon.5

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法の人間学 A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 A」から続けて履修することが望ましい。履修人数は 30 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと (本シラバス「その他の重要事項」参照)。

【到達目標】

- ①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
- ②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第 2 回	法と道徳と復興増税 (1)	法と道徳の関係について
第 3 回	法と道徳と復興増税 (2)	「危害のない不道德行為」の規制について
第 4 回	法と道徳と復興増税 (3)	支援の法的義務について
第 5 回	法と道徳と復興増税 (4)	個人の自由と法的強制の関係について
第 6 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (1)	日本の婚姻制度の歴史と現状について
第 7 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (2)	一夫一婦制の根拠について
第 8 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (3)	契約婚の考え方について

第 9 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (4)	個人の生き方と婚姻制度の関係について
第 10 回	代理出産と親子関係 (1)	親子に関する法的取り扱いについて
第 11 回	代理出産と親子関係 (2)	代理出産の歴史と現状について
第 12 回	代理出産と親子関係 (3)	代理出産をめぐる最近の事例について
第 13 回	代理出産規制の是非 (1)	代理出産規制をめぐる法的論点について
第 14 回	代理出産規制の是非 (2)	個人の生き方と「子供を持つこと」の関係について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。(レジュメや配布資料に即して授業を進める。)

【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003 年
 神島裕子『正義とは何か: 現代政治哲学の 6 つの視点』中公新書、2018 年
 蔵研也『リバタリアン宣言』朝日新書、2007 年
 森村進『自由はどこまで可能か』講談社現代新書、2001 年
 ロバート・ライト『モラル・アニマル』(上)(下) 講談社、1995 年
 デヴィッド・M・バス『女と男のだましあい: ヒトの性行動の進化』草思社、2000 年
 ヘレン・E・フィッシャー『愛はなぜ終わるのか: 結婚・不倫・離婚の自然史』草思社、1993 年
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文 (レポート) の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文: 80 %、コメント等: 20 %の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 30 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。(選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。) 人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法の人間学 A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 A」から続けて履修すること。(春学期の「法の人間学 A」受講者には、秋学期の「法の人間学 B」の履修を優先的に認める。)

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 A 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

定員制 (40 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による改変とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また、前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は2部構成とし、第1に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第2に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーに記載された事項により授業内容を変更することがある。

また、第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

なお、第1回目の授業は Zoom によるオンラインで実施する。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに 大気鉛直構造と運動	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。 更に今後の講義に必要となる大気鉛直構造と大規模な大気の運動について解説する。

2	オゾンホール1 (成因)	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。
3	オゾンホール2 (現状と課題)	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染1 (酸性雨)	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
6	越境汚染2 (黄砂)	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
7	人為による気候の改変1 (ヒートアイランド I)	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明する。
8	人為による気候の改変2 (ヒートアイランド II)	ヒートアイランドが社会に与える影響を説明し、その対応について議論する。特に近年、増加が著しい熱中症について詳細に解説する。
9	人為による気候の改変3 (観光鍾乳洞の気候変化)	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
10	異常気象1 (エルニーニョ現象の成因)	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象2 (エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測)	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象3 (副振動)	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象4 (竜巻・突風・雷)	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。
14	東日本大震災と自然環境問題 まとめ	甚大な被害をもたらした東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行なう。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本 佐藤典人著. インデックス・コミュニケーションズ
- ・成層圏オゾンが生物を守る. 関口理郎著. 成山堂
- ・ここまでわかった「黄砂」の正体. 三上正男著. 五月書房
- ・ヒートアイランドと都市緑化. 山口隆子著. 成山堂
- ・カルスト-その環境と人々とのかかわり. 漆原和子編. 大明堂
- ・新百万人の天気教室. 白木正規著. 成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点 : 20%
- ・小テスト : 40%
- ・レポート : 40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、過去に学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連してため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や風、降水などにより分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

The following seven goals are to be achieved.

To understand the natural environment by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on the natural environment.

To comprehend extreme weather events caused by changes in the natural environment.

To consider the predictions of change in the natural environment.

To consider and summarize problems and measures of changes in the natural environment by mankind.

To develop the ability to understand related treatises by summarizing assigned papers.

To improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 40%, Quizzes : 40%, in Class Participation: 20%

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 B 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

定員制 (40 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講生全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、受講生からの質問には必ず回答するとともに、質問事項により授業内容を変更することがある。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに アラル海とイースタ島	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、講義を始めるにあたり、20 世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状況と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、環境問題を検討する。
2	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。
3	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
4	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。

5	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	地球温暖化の実態 (降水・積雪・氷河・海水)	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
8	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について説明し、対応を検討する。また、北極振動についても解説する。
9	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極の状況について説明する。
10	緩和策 1 (国際的な取り組み)	IPCC、COP などによる国際的な取り組みを説明する。特に、昨年公表された IPCC 第 6 次評価報告書について、詳細に説明する。また、現状の課題について、検討する。
11	緩和策 2 (日本の取り組み)	国際情勢にかんがみ、3 年前に日本政府が宣言した脱炭素社会への取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
12	適応策 1 (産業分野)	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
13	適応策 2 (災害対応)	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
14	地球温暖化への対応 (地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論) とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、グループごとに発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・地球温暖化時代の異常気象. 吉野正敏著. 成山堂書店
- ・極端化する気候と生活-温暖化と生きる-. 吉野正敏著. 古今書院
- ・地球温暖化-そのメカニズムと不確実性-. 日本気象学会 地球環境問題委員会編. 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点 : 20%
- ・小テスト: 40%
- ・レポート: 40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があり、大変参考になったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や天気など用いて分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

The following six goals are to be achieved.

To understand global warming by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on global warming.

To consider the predictions of global warming.

To consider and summarize problems and measures of global warming caused by mankind.

To comprehend and consider mitigation and adaptation measures for global warming.

Improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 40%, Quizzes : 40%, in Class

Participation : 20%.

MAT300LA

数理論理学 A

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理とは何か ～～ まずは最小限の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること(理論が複数あるという事実とは別のこと)を知るための第一歩として、どの論理にも共通する最小論理について学ぶ。それは後に論理を広げて次のような例を考えるときの準備となる。

～～～

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた(あるいは、いる)ことが、**論理的に証明**できる。(クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。)

～～～

クシャミ大王の存在証明が可能な論理をつくるためには、この授業で扱う最小論理に何らかのものを付け加える必要がある。最小論理を直観主義論(人の論理)、さらには古典論理(神の論理)まで広げるのである。その付加するものの役割を理解するため、まずは論理の共通部分とは何かについて学んでゆく。

【到達目標】

最小論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。(「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クシャミ大王	授業概要の説明
第 2 回	「かつ」を壊す	連言の除去
第 3 回	「かつ」を作る	連言の導入
第 4 回	「または」を壊す	選言の除去
第 5 回	「または」を作る	選言の導入
第 6 回	「ならば」を壊す	含意の除去
第 7 回	「ならば」を作る	含意の導入
第 8 回	「でない」を壊す	否定の除去
第 9 回	「でない」を作る	否定の導入
第 10 回	「すべて」を壊す	全称量化の除去
第 11 回	「すべて」を作る	全称量化の導入

第 12 回 「ある」を壊す	存在量化の除去
第 13 回 「ある」を作る	存在量化の導入
第 14 回 まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト(教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』(日本評論社) 2005 年(初版 1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- (1) 秋期科目「数理論理学 B」の予備知識となる内容を含む。
- (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2 (数理論理学) A」。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in minimal logic.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in minimal logic.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA

数理論理学 B

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理とは何か ～～～ 人の論理、さらには神の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること (理論が複数あるという事実とは別のこと) を知り、その中でも古典論理 (神の論理) と直観主義論理 (人の論理) について学ぶ。次のような例を考えると、二つの論理に違いが現れてくる。～～～

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた (あるいは、いる) ことが、**論理的に証明**できる。(クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。) ～～～

ここでいう論理的な証明は、「神の論理」における証明である。われわれは実は何の疑問もなく「神の論理」を用いることがある。一方、「神の論理」の無制限な使用を自省することにより得られた「人の論理」においては、クシャミ大王の存在を一般には示すことができない。春期授業の最小論理に何を加えるとこれらの論理ができるのかについて学んでゆく。

【到達目標】

直観主義論理および古典論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今できること	最小論理
第 2 回	万能薬	量子の順序
第 3 回	矛盾がどうした	否定と含意
第 4 回	矛盾が生み出す	矛盾の推論
第 5 回	人の論理	直観主義論理
第 6 回	どちらかだ	排中律
第 7 回	神の論理	古典論理
第 8 回	クシャミ大王再考	古典論理の応用
第 9 回	別の顔	背理法

第 10 回	得意分野	古典論理の表現
第 11 回	真か偽か	古典論理の意味論
第 12 回	まだわからない	可能世界
第 13 回	人の論理とは	直観主義の意味論
第 14 回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト (教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』(日本評論社) 2005 年 (初版 1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験 (60%) において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート (40%) において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- 春期科目「数理論理学 A」で扱う内容を既知として授業を進める。
- 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2 (数理論理学) B」。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in intuitionistic and classical logic.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in intuitionistic and classical logic.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようにになっているか?」「そうした機械的な仕組みの上で、形式言語の命令を処理したり、自然言語の意味を分析できるのは何故か?」など数学的な視点を通して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みの概要を理解すること」を目標としている。(例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?) その上で、実験を通して「コンピュータ上で言語を処理する幾つかの手法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。(例えば、コンピュータに膨大な量の文章を学習させるだけで、言葉を数値データとして捉え「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるのでしょうか?) こうした「処理系の違いに依存しない普遍的な原理」を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子なども考慮して対応する。学習支援システムと Zoom を活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラムが動作する様子を観察する。
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	計算できる言語 (1)	正規言語と呼ばれる「言葉のパターン」について紹介する。
第 04 回	計算できる言語 (2)	正規言語を計算処理する機械的な仕組みを解説する。
第 05 回	計算できる言語 (3)	正規言語の計算処理を日常文書の編集に活用する。
第 06 回	計算機のしくみ (1)	汎用コンピュータの理論的なモデルについて解説する。
第 07 回	計算機のしくみ (2)	現代的なコンピュータの仕組みについて説明する。

第 08 回	計算機のしくみ (3)	コンピュータにおける数値の表現の基礎を確認する。
第 09 回	計算機のしくみ (4)	負整数の表現方法として、2 の補数表現を説明する。
第 10 回	自然言語と AI(1)	Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
第 11 回	自然言語と AI(2)	日本語の文章を品詞に分解する処理を学ぶ。
第 12 回	自然言語と AI(3)	「吾輩は猫である」の全文を機械学習させてみる。
第 13 回	自然言語と AI(4)	学習済み AI を用いてシラバスの文章を分析する。
第 14 回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整 (例えば、機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど) に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。(予備知識のない学生にとって負担にならない内容の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、Web が普通に使えれば十分で、基本的な操作から気軽に進める予定です。)

【Outline (in English)】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA

コンピュータと数理の活用 2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理は理にかなったものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に 1000 人分のデータの平均値を手で計算する人はいない。）一方で、身の回りには問題がむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力不足を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要である。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「コンピュータと数理を組み合わせることの良さを体験し、活用の勘を養うこと」を目標としている。（各々の事例で扱う数学の内容は独立していて、1 つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないこととなります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子なども考慮して対応する。学習支援システムと Zoom を活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決の流れを確認する。
第 02 回	計算機と数学 (1)	Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
第 03 回	計算機と数学 (2)	Python を関数電卓として活用してみる。
第 04 回	計算機と数学 (3)	級数の公式を利用して、円周率を沢山計算してみる。
第 05 回	計算機と数学 (4)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第 06 回	行列の応用 (1)	基礎となる数学として、様々な行列の計算を学ぶ。
第 07 回	行列の応用 (2)	今後 100 年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第 08 回	線形計画法 (1)	線形計画問題の例と図形的な解法を学ぶ。
第 09 回	線形計画法 (2)	線形計画法のプログラムを紹介する。
第 10 回	線形計画法 (3)	プログラムを利用して経営計画の最適化問題を解いてみる。

第 11 回 暗号の数理 (1)

基礎となる数学として、Euclid 互除法などの計算を学ぶ。

第 12 回 暗号の数理 (2)

公開鍵暗号を使った暗号通信の実験を行う。

第 13 回 機械学習の事例

Python で実行可能な機械学習の一例を紹介する。

第 14 回 まとめと解説

講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、Web が普通に使えれば十分で、基本的な操作から気軽に進める予定です。）

【Outline (in English)】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting.

Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れなくて欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

PHY300LA

相対性理論と宇宙 A

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 2 単位

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界 (宇宙) を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題 (小テスト) を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは 2 地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ (距離) の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象 (事象とも呼ぶ) を抽象的に表現する方法である時空図について
[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。

[11]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[12]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について
[13]	相対性理論の応用	GPS や核融合と相対論との関係について
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

なし (毎回学習支援システムにより資料を配布する)

【参考書】

一般向けの相対性理論の解説書として:
 ・「超」入門相対性理論: アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著 (ブルーバックス; B-2087)、(講談社、2019.2)
 ・ゼロからわかる相対性理論: 物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論 (ニュートン別冊)、(ニュートンプレス、2019.2)
 (その他、必要に応じて授業中に紹介する。)

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (60%) と小テスト等の平常点 (40%) から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA

相対性理論と宇宙 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。

- [12] ブラックホール（1） ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
- [13] ブラックホール（2） 銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
- [14] 重力波 重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

- 一般向けの相対性理論の解説書として：
 - ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 - ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（60%）と小テスト等の平常点（40%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか?」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。

春学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	原子は存在するのか? (1) 一化学反応の基本法則	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第3回	原子は存在するのか? (2) 一気体の法則	気体の法則と分子運動論について
第4回	原子は存在するのか? (3) 一気体の分子運動論	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第5回	原子は構造を持つのか? (1) 一元素の周期律	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第6回	原子は構造を持つのか? (2) 一電気分解や原子が出す光	第5回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する

第7回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第8回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第9回	原子構造(1) 一電子配置からわかること	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第10回	原子構造(2) 一量子力学の世界	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第11回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第12回	原子核と放射線	放射性同位体や半減期に特に注目しながら、原子核がどのようなものかを解説する
第13回	春学期のまとめ(1) と関連する話題	春学期中に実施した小テストの解説を通して授業内容を振り返るとともに、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第14回	春学期のまとめ(2) と試験	春学期の授業内容のまとめを行うとともに、試験を実施する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績(計80%)と平常点(20%)で評価する。レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は選択式問題とし、試験時には、授業中に配布した資料やノート、メモなどの持ち込みを可とする。平常点については、春学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
- ・Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on report and term-end examination (80%) and usual performance score (20%).

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金（元素）を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第1～3回授業においてその講評や解説を行う。講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	20 世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第 2 回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第 3 回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第 4 回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第 5 回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第 6 回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第 7 回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する

第 8 回 標準模型

第7回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する

第 9 回 加速器

加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する

第 10 回 宇宙における元素合成 (1) ービッグバン

元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。

第 11 回 宇宙における元素合成 (2) ー恒星内での元素合成

恒星の一生と恒星内部での元素合成について

第 12 回 宇宙における元素合成 (3) ー恒星の最期と超新星爆発

恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について

第 13 回 現代の錬金術

これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する。また、秋学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。

第 14 回 まとめと試験

秋学期授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績（計 80 %）と平常点（20 %）で評価する。レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は選択式問題とし、試験時には、授業中に配布した資料やノート、メモなどの持ち込みを可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in the modern physics
- ・ Explain the origin of matters in the universe
- ・ Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on report and term-end examination (80%) and usual performance score (20%).

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 4/Tue.4

単位数: 2 単位

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム (これ以上分解できない粒子)” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には (最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて) どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらおう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比 (地球)	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第 4 回	元素の存在比 (宇宙)	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体的構造をもっている。そのいくつかの例を紹介する。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について紹介する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光 (電磁波) が放出される仕組みについて解説する。
第 8 回	原子の構造 (電子の発見)	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。
第 9 回	原子の構造 (原子核の発見)	原子核発見に関する研究について紹介する。

第 10 回	原子の構造 (前期量子論)	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第 11 回	原子の構造 (電子配置)	第 5 回の内容に関して、物体が立体的構造をもつ仕組みについて紹介する。
第 12 回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について紹介する。
第 13 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子 B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にはありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思えます。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the atom and nucleus. In particular, it is introduced that the abundance ratio of elements not only on the earth but also in the universe, and the structure of atom and nucleus. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA

原子核と素粒子 B

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はといったどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義全体の説明と共に、20 世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第 2 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 3 回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて紹介する。
第 4 回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第 5 回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉等について紹介する。
第 6 回	核融合反応の応用	熱核融合炉等、核融合反応の応用の可能性について紹介する。
第 7 回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第 8 回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第 9 回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第 10 回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している、素粒子の種類や分類について紹介する。
第 11 回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。

第 12 回 宇宙の進化 ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。

第 13 回 宇宙の大規模構造と宇宙論 宇宙論などの最新の研究について紹介する。

第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にはありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思えます。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the nucleus and elementary particle. In particular, it is introduced that the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

島野 智之

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

定員制 (20 名) ※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス (生命史) と生物の進化を学ぶ (自然史)。

用いる教科書は内容的に難しく感じるが、これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

オータムセッション (秋学期として: 9 月 13 日~9 月 19 日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

【到達目標】

生命 (生きていること) を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し、レポートをまとめ、討議してもらう。オータムセッション (秋学期として: 9 月 13 日~9 月 19 日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて; 調査の進め方; 自然発生説; ダーウインの自然選択説; DNA の変異
第 2 回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か; 43 億年前に海が形成された証拠; 熱水噴出孔での化学進化、など。
第 3 回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生; 高熱性アーキアと高熱性細菌; 超高熱性菌の DNA2 本鎖が解離しない仕組み
第 4 回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成; 好気性生物の出現; シアノバクテリアの光合成、など。

第 5 回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現; 真核生物がアーキアに由来する証拠; 真核生物の起源となった原核生物、など。
第 6 回	多細胞か和有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物; 多細胞生物の出現; 有性生殖のはじまり、など。
第 7 回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖; 有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した; 遺伝子ファミリーの形成、など。
第 8 回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた; 脊椎動物の出現; エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発、など。
第 9 回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源; コケ植物が先か; 前維管束植物が先か、など。
第 10 回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出; 哺乳類の出現; 鳥類の出現、など。
第 11 回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる; ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ; タンパク質は自律的に細胞を形成する、など。
第 12 回	エボデポ体制の進化	ダーウインフィンチの嘴の進化; 節足動物の付属肢の進化; 鳥エンハンサーが鳥類を進化させた、など。
第 13 回	エボデポ-特異体制の進化	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構; フゲの特異な形態をつくるしくみ、など。
第 14 回	まとめ、重要用語の振り返り、博物学について、生物の名前の付け方。	まとめと振り返り、ホモサピエンスの 7 万年前の大発明; 博物学について; 生物の名前の付け方、など。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます (その方法などお知らせします)。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト (教科書)】

進化生物学 - ゲノミクスが解き明かす進化 -, 赤坂甲治 (著), 裳華房, 2021 年出版, 定価 3520 円 (本体 3200 円 + 税 10 %)

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う授業内の小レポート (60%) および、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (30%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらい、適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査 (フィールドワーク) のための、交通費 (宿泊はしません) が必要です (5,000~9,000 円程度: 入館料, ガイド料, 交通費など、金額は前後することがあります)。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員 (最大 20 名程度) を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

- 3) 2017 年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミ I」、「教養ゼミ II」
として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミ I「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方とも履修すること。
※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学 4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9 月のオータムセッション（9 月 13 日～9 月 19 日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。
- 6) 9 月の初旬（オータムセッション：9 月 13 日～9 月 19 日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA

教養ゼミ II

2017 年度以降入学者

島野 智之

開講時期: オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限:
集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

定員制 (20 名) ※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教養ゼミ II では、オータムセッション (秋学期として: 9 月 13 日～9 月 19 日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、現地調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス (生命史) と生物の進化を学ぶ (自然史)。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

【到達目標】

生命 (生きていること) を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

オータムセッション (秋学期として: 9 月 13 日～9 月 19 日) では、生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう。

つぎに、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フィールドワーク I (1)	博物館学と博物学。博物館フィールドワークについて【講義】
第 2 回	フィールドワーク I (2)	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第 3 回	フィールドワーク II (1)【現地フィールドワーク: 国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (1)
第 4 回	フィールドワーク II (2)【現地フィールドワーク: 国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (2)

第 5 回	フィールドワーク II (3)【現地フィールドワーク: 国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (3)
第 6 回	フィールドワーク II (4)【現地フィールドワーク: 国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (4)
第 7 回	フィールドワーク III (1)【現地フィールドワーク: 神奈川県立・生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史 (地質) と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (1)
第 8 回	フィールドワーク III (2)【現地フィールドワーク: 神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史 (地質) と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (2)
第 9 回	フィールドワーク III (3)【現地フィールドワーク: 神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史 (地質) と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (3)
第 10 回	フィールドワーク IV (1)【現地フィールドワーク: 目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (1)
第 11 回	フィールドワーク IV (1)【現地フィールドワーク: 目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (2)
第 12 回	フィールドワーク V (1)【現地フィールドワーク: 国立科学博物館, 附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する (1)
第 13 回	フィールドワーク V (2)【現地フィールドワーク: 国立科学博物館, 附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する (2)
第 14 回	フィールドワーク VI 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう。フィールドワークのまとめ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な知識などを予習していただきます (その方法などお知らせします)。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト (教科書)】

進化生物学 -ゲノミクスが解き明かす進化-, 赤坂甲治 (著), 裳華房, 2021 年出版, 定価 3520 円 (本体 3200 円 + 税 10 %)

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行うフィールドワーク後のレポート (60%) および、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (30%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査 (フィールドワーク) のための、交通費 (宿泊はしません) が必要です (5,000~9,000 円程度: 入館料, ガイド料, 交通費など, 金額は前後することがあります。)。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017 年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミ I」、「教養ゼミ II」]として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミ I「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学 4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9 月のオータムセッション（9 月 13 日～9 月 19 日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。

6) 9 月の初旬（オータムセッション：9 月 13 日～9 月 19 日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

[Outline (in English)]

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察 (小レポート) を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫のように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種元素固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	色のついた小さなガラス玉の作成
第 8 回	イオンの色	水を含むことで発色するイオンについて
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの沈殿反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	様々なイオンが溶けた水溶液からの、特定イオンの分離
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポートで平常点 (配分 80%) を評価し、学期末の試験 (配分 20%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。

受講希望者数が過剰な場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。過去 3 年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察（小レポート）を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変化する仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポートを平常点 (配分 80%) とし、学期末試験 (配分 20%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。

受講希望者数が過剰な場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。

過去 3 年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA

光と色の科学 A

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせて、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、蛍光灯、LED などが光る仕組みと違いを学ぶ。オーロラや虹など自然界に見られる現象を科学的に理解する。光の性質を利用した便利グッズの仕組みを理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間の講義の中身についてどのようなものか紹介します。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚の変遷と色覚異常	色覚異常の仕組みと視覚、色覚の進化について解説します。
第 5 回	電磁波と光	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	光の利用	身の回りにおける光や電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み その 1 (放電管・蛍光灯・電球)	ネオンサインと蛍光灯、電球の発光原理の違いについて学びます。
第 8 回	光源の種類と発光の仕組み その 2 (LED)	LED の発光原理を解説します。同じ電気で発光しているのに電球や蛍光灯ともまた違った原理で光っています。
第 9 回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。

第 10 回	生物発光	ホタルや夜光虫、オワンクラゲの発光原理とその応用を学びます。
第 11 回	化学発光 (実験)	ルミノール発光は血痕鑑定という犯罪捜査に利用されていますが、その仕組みを実験を通じて学びます。
第 12 回	屈折と散乱	屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。
第 13 回	干渉と偏光	干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。
第 14 回	まとめ	春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日ごろから身の回りの光や色について感心を持ち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み (30%) と期末試験の結果 (70%) を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっています。人間の目が色を認識する仕組みは生物学的知識が、オーロラや虹の仕組みは物理の知識が必要で、物体の色は原子や分子の構造に関係するので化学が関係します。理科が不得手な人にはちょっと難しい内容かもしれませんが、基本的なところから解説します。つながりがわからないようであれば、勇気を出して授業内で声を出して質問してください。講義だけでは理解しにくいと思うので、実際に見たり、触れたり、簡単な実験をしたりしながら授業を進めますので、原則、対面での授業を想定しています。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員 (24 名) を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。秋学期の B の内容も春の初回に説明します。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course "A" deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM300LA

光と色の科学 B

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

物質が吸収する光と物質の色の関係を理解する。
色のあるものとなないものの違いが何に起因するのか理解できる。
顔料と染料の違い、特徴を理解する。
染色する技法について学ぶ。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	古代の色素（顔料編）	高松塚古墳の壁画などを挙げ、古代の人々が利用した顔料について解説します。
第 2 回	古代の色素（染料編）	古代から伝えられている染色やお歯黒をはじめとした化粧文化について解説します。
第 3 回	顔料と染料	光と色の関係を復習するとともに、顔料と染料の違いを学びます。
第 4 回	顔料の色の仕組み（遷移金属イオンの色）	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第 5 回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第 6 回	有機化合物の構造と結合	化学結合の仕組みと多様な有機化合物の反応性を学習します。
第 7 回	染料の構造と色の仕組み	染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第 8 回	自然界の色（光合成色素の話）	光合成と呼吸の仕組みを学び、合わせて関連する分子の類似点を学びます。

第 9 回	自然界の色	自然界の植物や動物が利用しているいろいろな色素の種類と構造を学びます。
第 10 回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第 11 回	染色の方法と種類	伝統的な染色の技法を学びます。
第 12 回	染色実験	草木染を実際に行います。
第 13 回	身の回りの色	温度で色が変わるグッズ、銀塩写真やポラロイドの仕組みについて学びます。
第 14 回	まとめ	授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。
江森康文他著「色 その科学と文化」、朝倉書店、1984。

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっています。理科が不得手な人にはちょっと難しい内容かもしれませんが、基本的なところから解説します。つながりがわからないようであれば、勇気を出して授業内で声を出してください。講義だけでは理解しにくいと思うので、実際に見たり、触れたり、簡単な実験をしたりしながら授業を進めますので、原則、対面での授業を想定しています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

秋学期のこの科目は「色」に関する話題を提供しますが、春学期の「光」と密接なつながりがあるので、A と B、両方の受講が望まれます。いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係でこの科目は定員（24 名）を設けています。履修希望者が多かった場合は、春学期の履修者を優先し、春学期の段階で定員が満たされる場合もあります。秋学期の B について定員枠に余裕がある場合はシラバス、または Hoppii 等を通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

PRI300LA

ITリテラシー

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.4

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報通信技術 (Information Communication Technology) について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎 (ソフトウェア・ハードウェア) からネットワーク、プログラミング言語等、ITリテラシーに関する話題について学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第 3 回	2 進数、8 進数、16 進数 (1)	2 進数について基礎的な概念を学び、応用である 8 進数、16 進数について学ぶ。
第 4 回	2 進数、8 進数、16 進数 (2)	2 進数の計算から、8 進数、16 進数の計算について学ぶ。
第 5 回	2 進数、8 進数、16 進数 (3)	2 進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第 6 回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第 7 回	情報システム (1)	CMS (Contents Management System) を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第 8 回	情報システム (2)	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 9 回	情報セキュリティ (1)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティ (2)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第 11 回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第 12 回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第 13 回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

基本的にパワーポイントの資料 (PDF) をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期ウェブ試験が 40%、平常点が 60% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率の良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.

【Learning Objectives】

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 50% and attendance score of 50%.

PRI300LA

コンピュータ科学

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学 (Computer Science) について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析 (ソフトウェア工学)、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	ネットワーク (1)	ネットワークの基礎について学ぶ。
第 3 回	ネットワーク (2)	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第 4 回	ネットワーク (3)	ネットワークの応用について学ぶ。
第 5 回	オペレーティング・システム (1)	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティング・システム (2)	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	データベース	データベースについて学ぶ。
第 8 回	ソフトウェア工学 (1)	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 9 回	ソフトウェア工学 (2)	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 10 回	人工知能 (1)	人工知能の基礎について学ぶ。
第 11 回	人工知能 (2)	人工知能の応用について学ぶ。
第 12 回	コンパイラ (1)	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第 13 回	コンパイラ (2)	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。

第 14 回 まとめ

本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験が 40%、平常点が 60% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率の良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 50% and attendance score of 50%.

BIO300LA

人間と地球環境

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワードに人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を獲得する機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習 (グループワーク) も行う予定です。また、Hoppii を活用し各回へのリアクションや質問の集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第 2 回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第 3 回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第 4 回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第 5 回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に目を向け、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第 6 回	生物多様性はなぜ重要か?	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第 7 回	演習 1: 持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決への応用を目的としたグループワークを行います。

第 8 回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第 9 回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第 10 回	開発は持続可能か?	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第 11 回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第 12 回	演習 2: 多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第 13 回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第 14 回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト (教科書)】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト (40%)、期末レポート (40%)、平常点 (20%) を基本とします。小テストは、学習内容の理解度 (到達目標 1、2) を定期的に評価するため 2 回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開 (到達目標 3) を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、学生からの質問への対応などに Hoppii の機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。

【Outline (in English)】

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs), has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental problems; to understand related social problems; and to develop a personal opinion about various problems the human species face with a holistic understanding of the human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs), has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions, as needed.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.

Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems.
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト (教科書)】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hoppii.

【Outline (in English)】

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs), has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] The course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BAB300LA

バイオイメージングの世界 A 2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかみ見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

そのために、本授業ではデジカメを使って生物が生きている様子を記録し、その記録画像を動画として編集したり、画像解析ソフトで数値解析する事で生きる謎の解明に挑戦します。その過程で、生き物について学び、新しい発見をする喜びを体験して頂く事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

先ず入門編として、ソバの発芽について学びます。種を植えれば芽が出てくると言う、一見当たり前の事も、その過程を映像として再現するためには様々な工夫が必要です。インターバル撮影を使うと、アサガオが花芽をつけて花を咲かせるまでの過程も映像化できるようになります。

プラナリアは、半分に切っても、また再生して 2 つの個体になります。この再生過程についても映像として記録します。

カイコでは、まゆ作りの過程を記録します。

アリについては、巣作りの様子や、6 本脚歩行の様子の記録・解析を行います。

粘菌では、迷路のような成長過程を、画像解析で調べます。

これらの活動を通じて、生き物の映像を記録し解析するための基本的な手法を学ぶ事になります。

受講生は、毎回の授業で行ったことをノートにまとめ、最終授業でノート提出して頂きます。

なお、HOPPII 等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメージングの基礎	授業の概略を説明します。
②	デジカメ撮影の基礎・発芽の観察	デジカメを使って粘菌の移動・成長の過程を撮影します。
③	インターバル撮影法・発芽の動画作製	1 週間の撮影データのデータ処理を学びます。
④	種々の長時間記録法・プラナリアの再生	インターバル撮影の応用法について学びます。
⑤	拡大撮影法・プラナリア走性の観察	小さい生き物の撮影法を学びます。
⑥	画像解析法・粘菌の移動速度の測定	動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	画像の整理法・根の成長の観察	様々な条件で撮影した画像の整理方法を学びます。
⑧	スタジオ撮影手法・芽生えの回転運動	撮影環境の設定法について学びます。

- | | | |
|---|-------------------|--|
| ⑨ | ストロボ撮影手法・種子の回転運動 | ストロボによって動きを止めて撮影する方法を学びます。 |
| ⑩ | ハイスピード撮影技法・カイコの飛翔 | 高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。 |
| ⑪ | ハイスピード撮影技法・アリの歩行 | アリの 6 本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。 |
| ⑫ | データ整理法・芽生えの記録 1 | 様々な種子の芽生えを記録した後、そのデータを整理して比較する方法を学びます。 |
| ⑬ | 動画編集手法・芽生えの記録 2 | 様々な種子の芽生えを記録した後、動画として編集する手法を学びます。 |
| ⑭ | 春学期データ整理 | 春学期のデータについて、ノート上で整理します。 |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して週 4 時間以上の学習を行って頂きます。

【テキスト (教科書)】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で行ったことを記録した「実験ノート」を提出して頂きます。

この「実験ノート」の評価を全体の 80%、授業中の活動評価を 20% として、成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

必ず提出用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフは不可とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】

Grading will be decided based on the experimental notebook (80%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (20%).

BAB300LA

バイオイメーキングの世界B 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見ることが可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、各班ごとに、独自のテーマ設定をして生命活動のしくみを画像記録して、その解明を行います。これらの活動を通じて、班ごとのプロジェクト遂行能力を身につけて頂くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、特定の生き物に的を絞って、より高度な記録に挑戦します。そのために、それぞれの生き物の特徴を理解し、何を調べたら良いかを考えます。例えば、春学期に学んだソバの発芽過程で、光の方向を変えるとどうなるでしょう？ プラナリアを10等分したらどうなるでしょう？ そんな問題点を設定し、その解決法を探っていきます。

班別に決めたテーマについての活動は、班ごとのプロジェクトとして進行し、最終的にプレゼンテーションとしてまとめて頂きます。これまでのテーマには「アリの6足歩行」「様々な種子のと栄養貯蔵と発芽速度の関係」「女王アリの産卵行動」「プラナリアの再生」等でした。(B T O 9 0 0 教室の前に掲示中です)

授業では、実際に自分で機材の使い方を学ぶ実習的な要素が強くなりますので、出席が単位取得の前提となります。

なお、HOPPII 等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	秋学期プロジェクト計画	プロジェクト計画作成法
③	秋学期プロジェクト計画	班別にプロジェクト計画を作成します
④	秋学期プロジェクト計画発表会	班ごとにプロジェクト計画を発表します。
⑤	秋学期プロジェクト開始	班別作業
⑥	秋学期プロジェクト第2回	班別作業
⑦	秋学期プロジェクト第3回	班別作業。
⑧	秋学期プロジェクト・中間発表	各班のプロジェクト進行状況を報告します。

- ⑨ 秋学期プロジェクト第 班別作業
4 回
- ⑩ 秋学期プロジェクト第 班別作業
5 回
- ⑪ 秋学期プロジェクト第 班別作業
6 回
- ⑫ 秋学期プロジェクト・ データ整理、表・グラフ作成など
ポスター作成作業1 ポスターのコンテンツを作ります
- ⑬ 秋学期プロジェクト・ プロジェクトの活動報告ポスター
ポスター作成作業2 を作成します。
- ⑭ ポスターコンテスト 班毎に 10 分程度 (質疑応答を含む) のポスターの発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して、週 4 時間以上の学習を行って下さい。d

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

班ごとのプレゼン3回（プロジェクト計画、中間発表、最終発表）を 70 %、授業中の活動を 30 % として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas.Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion.Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the 3 times required presentations (70%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (30%).

LANe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

定員制 (15 名)

その他属性: 〈他〉〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, foreign immigrants, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and to give their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates and a final presentation by students.

Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate

8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues: Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course

【テキスト (教科書)】

No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 60%

Presentation (not graded): 10%

Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students will be doing short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences. One more absence may be permitted if verification is provided.(job hunting, etc)

In general, auditing the course (聴講) is not allowed and students must register for course credit Students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor. International (ESOP)Students are also welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

【Outline (in English)】

Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will have the opportunity to choose what individual topics interest them the most.

LANe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（15 名）

その他属性：〈他〉〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, foreign immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will also have the opportunity to choose which topics they wish to study and discuss in class.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) from mostly foreign writers will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members.

Course feedback will be provided in class and on written assignments, as well as through Google Classroom or another system. Students may correspond with the instructor via e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with creation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, & discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion & debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers(reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to already know how to write a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.

Approximately two hours each week will be necessary for out of class study time.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Instructor will provide reading materials each week.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm and Final Papers: 60%

Presentation: 10% (not graded)

Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the numbers of students who enroll.

【学生が準備すべき機器他】

Student should have a good dictionary and a file folder for keeping all class handouts and notes.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than 3 unexcused absences may not receive credit for this course. One additional excused absence may be permitted if proper verification is provided (for job hunting, etc).

Students should have some experience in writing essays or reports in English.

Students may enroll in this course only for fall semester if they wish.

International students (ESOP) are welcome to enroll in this course.

Students wishing to audit (聴講) the course may do so with the permission of the instructor.

【Outline (in English)】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。

ドイツ語文法の基礎を学びます。

日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。

日常的によく使われる表現、ドイツ語で簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します (講義形式)。

担当者を決めて練習問題を行います (演習形式)。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化します (リアクションペーパー)。

適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックを行います。

なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、教育の多様化に応じた柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見ることに。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	発音の仕方 発音とアクセント 綴りの基本 ドイツ語の主語について du, ihr, Sie について
第 2 回	ドイツ語の動詞について	疑問詞 動詞の現在人称変化
第 3 回	Lektion2 ドイツ語の名詞について	名詞の性と格
第 4 回	Lektion2 ドイツ語の複数形について Lektion3 ドイツ語の冠詞について	複数形と冠詞の使い方 所有冠詞
第 5 回	Lektion3 ドイツ語の否定冠詞について	否定冠詞と人称代名詞の格変化
第 6 回	確認小テストで知識を確認する	第 5 回までの学習理解・文法知識 チェック
第 7 回	Lektion4 ドイツ語の前置詞について	前置詞の格支配

第 8 回 Lektion4 非人称の es を用いた表現

ドイツ語の es について

第 9 回 Lektion5 動詞の 3 基本形

過去形について

第 10 回 Lektion5 人称による過去形の動詞の形

ドイツ語の過去人称変化について
現在完了形と接続詞

Lektion6
ドイツ語の現在完了形について

第 11 回 Lektion 6 不定詞の用法

ドイツ語の zu 不定詞について

第 12 回 春学期ドイツ語学習の Plus 文法と文法の確認

振り返りと総復習

第 13 回 LMS を使って、確認 第 1 2 回までの学習理解・文法知

小テストで知識を確認 知識チェック

する

全体的な質問を受ける

第 14 回 春学期期末試験、解説 春学期期末試験、解説とまとめ

まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき、合わせて 4 時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。

次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。

宿題・課題については自分の担当ではないところも行い、授業でポイントを確認し、正確な理解に努めます。

【テキスト (教科書)】

『ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかかわかりやすく』 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。(電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない) 参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価手法について

成績配分は期末試験 50 %、平常点 (確認テストの点数の累計、課題、授業への積極的取り組みを含む) 50 %

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高めます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業となった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.

This course provides elementary German grammar for beginners.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to:

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

定員制 (40 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。
春学期で得たドイツ語文法の知識を踏まえて、引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。
日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。
日常的によく使われる表現、ドイツ語での簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します (講義形式)。

担当者を決めて練習問題を行います (演習形式)。
ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化できるようにします (リアクションペーパー)。

適宜、確認小テストを行います。
課題、また確認小テストのフィードバックを行います。
なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、教育の多様化に沿った柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見ることに。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion 7	話法の助動詞の現在人称変化と構文について
第 2 回	Lektion 7	未来形の用法と文ドイツ語の未来形について
第 3 回	Lektion 8	分離・非分離動詞ドイツ語の分離動詞について
第 4 回	Lektion 8	受動文の用法と形式ドイツ語の受動文について
第 5 回	Lektion 9	命令形とその用法ドイツ語の命令形について
第 6 回	Lektion 9	ドイツ語の不規則変化動詞について
第 7 回	Lektion 10	接続法第 2 式の用法と形式ドイツ語の接続法について

第 8 回	Lektion 10	婉曲話法と接続法第 2 式の用法ドイツ語の婉曲話法について
第 9 回	Lektion 11	再帰代名詞の人称変化ドイツ語の再帰代名詞について
第 10 回	Lektion 11	比較級・最上級の用法と形態ドイツ語の比較級・最上級について
第 11 回	Lektion 12	定関係代名詞ドイツ語の関係代名詞について
第 12 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞ドイツ語の関係副詞について
第 13 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と別冊練習問題を使っての文法事項の確認
第 14 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 15 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 16 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 17 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 18 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 19 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 20 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 21 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 22 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 23 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 24 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 25 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 26 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 27 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 28 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 29 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 30 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 31 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 32 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 33 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 34 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 35 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 36 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 37 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 38 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 39 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り
第 40 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき合わせて 4 時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。
次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。

自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

【テキスト (教科書)】

『リュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。(電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない) 参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。
期末試験 50 %
平常点 (訳読などの課題発表・確認テストの成績累計、授業への積極的取組・参加) 50 %

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高め、理解をより確実なものにします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.

This course provides elementary German grammar for beginners.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to:

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Learning activities outside of class: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制（20 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the course, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteile
8	Beschreiben, wo/wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあつた辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制（20 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の追求、科学技術による人工と人造の生命の創造、理想的な人間社会の追求は人類の歴史の中の根源的なテーマである。現代においても、人々はそれを目指して考え続け、努力しているといっても過言ではない。

思想、文学、映画、芸術においてそれはどのように考えられ、受容され、扱われてきたかを、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』、グスタフ・マイリンクなどの『ゴーレム』もの、カレル・チャペック『ロボット』、フランツ・カフカの種々の動物譚、カズオ・イシグロ『私を離さないで』、吉田修一『橋を渡る』、そのほかの作品、およびそれらに関する論文を講読しながら、考える。

とりわけ、〈現在〉という時点からのアクチュアルな問題提起として、近代から現代の文学・芸術を分析対象とし、さまざまな作品を読み解きながら、文学や芸術がその時代の社会に対してどう取り組んだかを考察する。

【到達目標】

人工生命、人造人間、サイエンス・フィクションの物語とその歴史的背景を理解することが目標である。

また、その際にこの講義で挙げられた小説や作品を読み、論じるので、その小説や作品をユートピアという視点から批判的に分析できるようになることも目標である。

そうした討議の際に、自分の意見を明確に表現し、伝えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』、グスタフ・マイリンクなどの『ゴーレム』もの、カレル・チャペック『ロボット』、フランツ・カフカの種々の動物譚、カズオ・イシグロ『私を離さないで』『クララとお日さま』、吉田修一『橋を渡る』などの作品を読んでゆく。

また同時に、各回の授業計画で挙げられる文学を中心に、思想、芸術などの諸分野において科学技術に対する考えがどのように扱われ、表現されているかを見る。

その際に、毎回、文献テキストの担当部分を決めて、それをまとめて、レジュメを作成し、プレゼンしてもらう。独自の観点でいいので、議論・検討を加えていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概念の共通理解を検討する。 授業の進め方等についての説明。
第 2 回	『フランケンシュタイン』(1818/1831)	『フランケンシュタイン』の扱われ方の可能性 人工と人造の生命
第 3 回	シェリー夫妻について	文学史的、歴史的背景
第 4 回	19 世紀の科学技術とヒューマニティ	科学技術はどのように『フランケンシュタイン』に取り込まれていったか

第 5 回	機械・人間・言語	『フランケンシュタイン』の怪物性とそのさまざまな読解
第 6 回	ポストコロニアル的視点からのサーベイランス	帝国主義は『フランケンシュタイン』にどう表れるのか
第 7 回	さまざまなメディアによるアダプテーション	『フランケンシュタイン』の漫画と映画
第 8 回	『ゴーレム』読解	宗教とユダヤ性、ブラハという都市
第 9 回	カレル・チャペック『ロボット』	20 世紀社会の目論見—科学とロボット
第 10 回	フランツ・カフカの種々の動物譚	フランツ・カフカの作品に現れる語り手としての動物、あるいは、不気味なもの
第 11 回	カズオ・イシグロ『私を離さないで』など	科学・人間性への異議申し立て
第 12 回	吉田修一『橋を渡る』について	現実の引用と未来小説の試みについて
第 13 回	人造人間と近代社会・近代科学	レポート発表・討議
第 14 回	人工生命をめぐる問題	レポート発表・総評とまとめに関する考察—まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 4 時間以上を標準とする。全体を通して基本文献である Claeys のテキストの精読をおこなってくる。

また、その都度のテーマについての文献を読んできて、内容について考えてくることが授業への関心を高め、また積極的に討議に参加できる土台となるので、それをおこなうこと。

【テキスト（教科書）】

文献については、文庫本などで手に入るものが多いので、手に入るか、図書館を利用。そうでない場合はコピー資料にて配布する。

【参考書】

上記の各回で取り上げるさまざまな文献に関するものが参考書であるが、各回でテーマとして取り扱うものに関連したものを積極的に読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼン・議論）70 %
レポート課題（最終回での各人の独自の発表）30 %

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を作る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
比較文学、比較芸術、現代ドイツ文学
<研究テーマ>

①比較文学という手法を通して文学と現実=社会との関わりを軸に、文学の意味や意義を考える。②文学以外の諸芸術におけるテーマの扱われ方③ユートピアニズム、科学と文学

<主要研究業績>①『英語文化研究』（2021 年 春風社、共著）②「監視というオブセッション」（2021 年 成城大学経済学会、『木下直也名誉教授退任記念論文集』）③「文学・科学・知の相互浸透—イシグロ、ダウドナ、ソーカルと学問分野の越境」（2020 年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第 17 号）④「知の獲得と語りのあて先—Kazuo Ishiguro の Never Let Me Go におけるその手続き—」（2019 年 日本英語文化学会編『異文化の諸相』第 39 号）

⑤翻訳 W. イーザー『虚構と想像力』2007 年、法政大学出版局

【Outline (in English)】

【Course outline】 The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of artificial human, science,

and technology, and to review the history of science fiction by reading "Frankenstein", "Robot", "Golem", "Never Let Me Go" and some novels of Franz Kafka.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of artificial human through the different types of works including modern literature and art to provide students with opportunities to treat American, English, German, and Japanese literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to do a close reading of the textbooks.

[Learning Objectives] : By the end of the course, students should be able to:

- understand the history of science fiction.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

[Learning activities outside of class] : Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant articles related to the texts. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

[Grading criteria] : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 30%、 an assignment and in-class contribution: 70%

LANd300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期のこの授業では、春学期のテキストである比較文学/世界文学の考え方、問題意識、意義、手法、適用などをテキストを読みながら、学びます。

フランコ・モレッティの『遠読—＜世界文学システム＞への挑戦』（Franco Moretti, 『Distant Reading』《を中心にモレッティのデジタル・ヒューマニティの考え方を学びます。

ほかにはテキストとしてデヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か？』（David Damrosch の『What is World Literature』）やデジタル社会の理論について学びます。

これらのテキストには様々な国の様々な文学作品が現れるが、それらがどういう視点で、またどういう意味において結びつき、反映しあうのかを知ることによって、文学そのものについて考える思考を形成します。

また、テキストに現れる文学作品のこうした視点からの分析も学びます。

最期に、現実社会と文学作品のかかわり方についても意識形成することを目的とします。

【到達目標】

Franco Moretti および David Damrosch のテキストに沿って、西欧文学・比較文学・世界文学に関する歴史的俯瞰と意味付けを理解することが目標です。

比較文学、世界文学の全体としての意味や定義、またそうした視点に立っての文学作品への研究・分析また取り組む手法を学ぶことができます。

またその際に、これらのテキストで挙げられた作品を論じることになるので、そうした作品を理解し、批判的に分析できます。

討議の際に自分の意見をわかりやすく表現し、伝え、また他者の意見を理解し、議論できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Franco Moretti の『Distant Reading』、David Damrosch の『What is World Literature?』《を比較文学、世界文学の視点に立って、読みすすめていきます。

また、関連する作品についても考察していきます。

各回の授業では、毎回、担当者が内容についてレジュメを作成し、レポートし、それについて討議していきます。

独自の観点でいいので、議論・検討に積極的に加わってください。従って、自由にまた関連に討論できるような場を形成したいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	比較文学の共通理解を検討する。授業の進め方等についての説明。
第 2 回	モレッティ『遠読』第 1 章	「近代ヨーロッパ文学——その地理的素描」をめぐる問題について

第 3 回	モレッティ『遠読』第 2 章	「世界文学への試論」
第 4 回	モレッティ『遠読』第 3 章	「文学の屠場」
第 5 回	モレッティ『遠読』第 4 章	「プラネット・ハリウッド」
第 6 回	モレッティ『遠読』第 5 章	More Conjectures
第 7 回	モレッティ『遠読』第 6 章	進化・世界システム・世界文学
第 8 回	モレッティ『遠読』第 7 章	「始まりの終わり」
第 9 回	モレッティ『遠読』第 8 章	「小説——理論と歴史」
第 10 回	モレッティ『遠読』第 9 章	「スタイル株式会社——18 世紀から 19 世紀の英国小説」
第 11 回	モレッティ『遠読』第 10 章	ネットワーク理論、プロット分析
第 12 回	ダムロッシュ『世界文学とは何か？』序章と第 3 章について	比較文学について（まとめ）
第 13 回	世界文学と現代社会	レポート発表と討議・考察
第 14 回	世界文学とデジタル・ヒューマニティーズ（まとめ）	レポート発表・総評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 4 時間以上を標準とする。全体を通して基本文献であるモレッティのテキストの精読をおこなってこよう。

また、その都度のテーマについての文献を読んできて、内容について考えてくるのが授業への関心を高め、また積極的に討議に参加できる土台となるので、それをおこなうこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは基本的にコピーにて配布する。
フランコ・モレッティ『遠読』みすず書房

Franco Moretti, 『Distant Reading』, Verso, 2013

ダムロッシュ『世界文学とは何か？』（国書刊行会）

David Damrosch, 『What is World Literature』, Princeton University Press, Princeton and Oxford, 2003.

が全体を通しての基本文献である。

言及されるその他の文献については、図書館を利用するなどする。

【参考書】

上記の各回で取り上げるさまざまな文献が参考書であるが、各回でテーマとして取り扱うものに関連したものを積極的に読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼンテーション・議論）70 %

最終回での各人のレポート発表 30 %

【学生の意見等からの気づき】

議論の時間を十分に確保し、活発な議論を促す。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

比較文学、比較芸術、現代ドイツ文学

＜研究テーマ＞

①比較文学という手法を通して文学と現実＝社会との関わりを軸に、文学の意味や意義を考える。②文学以外の諸芸術におけるテーマの扱われ方③ユートピアニズム、科学と文学

＜主要研究業績＞①『英語文化研究』（2021 年 春風社、共著）②「監視というオブセッション」（2021 年 成城大学経済学会、『木下直也名誉教授退任記念論文集』）③「文学・科学・知の相互浸透—イシグロ、ダウドナ、ソーカルと学問分野の越境」（2020 年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第 17 号）④「知の獲得と語りのあて先—Kazuo Ishiguro の Never Let Me Go におけるその手続き—」（2019 年 日本英語文化学会編『異文化の諸相』第 39 号）

⑤翻訳 W. イーザー『虚構と想像力』2007 年、法政大学出版局

【Outline (in English)】

【Course outline】 The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of modern literature theory and to review the modern society in the world based on Franco Moretti's »Distant Reading«, David Damrosch' » What is World Literature « and other works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of world-literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to do a close reading of the textbooks.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept of distant reading and the method and concept of world-literature studies and digital humanities.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the textbooks.
- express your own point of view clearly in discussion.

【 Learning activities outside of class】 : Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】 : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 30%、 an assignment and in-class contribution: 70%

PHL300LA

ドイツの思想A

2017 年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20 世紀前半という「危機」時代のドイツ語圏の哲学を、とりわけ実存哲学と批判理論に着目しながら、概観します。

20 世紀前半のドイツ語圏では、観念論（理想主義）への幻滅とともに、文明や学問が「危機」に陥っているという意識が強まりました。その危機意識に対応するように、一方ではヤスパースやハイデッガーらの「実存哲学」、また他方ではホルクハイマーやアドルノらの「批判理論」（あるいは「フランクフルト学派」）といった思想潮流が展開されました。授業においては、歴史的・社会的な文脈を踏まえつつ、様々な哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 20 世紀前半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いいたします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	そもそも「ドイツ哲学」とは？	「ドイツ哲学」の定義づけの困難と可能性
第 3 回	19 世紀のドイツ哲学 (1)	ドイツ観念論とその挫折
第 4 回	19 世紀のドイツ哲学 (2)	キルケゴールとニーチェ、マルクスの思想とその影響
第 5 回	20 世紀前半の思想的状況 (1)	時代の「危機」意識 学問の分化と専門化
第 6 回	20 世紀前半の思想的状況 (2)	現象学の成立と展開 西洋マルクス主義の系譜
第 7 回	実存哲学の生成と展開 (1)	ハイデッガー『存在と時間』(1927 年) の存在論
第 8 回	実存哲学の生成と展開 (2)	ヤスパース『時代の精神的状況』(1931 年) と「実存哲学」

第 9 回	実存哲学の生成と展開 (3)	ナチス政権下の哲学者たち 政治的決断主義
第 10 回	批判理論の生成と展開 (1)	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」(1937 年)
第 11 回	批判理論の生成と展開 (2)	ベンヤミン『歴史哲学テーゼ』(1940 年) と「進歩」への問い
第 12 回	批判理論の生成と展開 (3)	ホルクハイマー、アドルノ『啓蒙の弁証法』(1947 年) と近代的理性の自己省察
第 13 回	実存哲学と批判理論	アドルノ『本来性の隠語』(1963 年) におけるハイデッガーとの対決
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	春学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『哲学の歴史 第 9 巻 反哲学と世紀末【19-20 世紀】』中央公論新社
 ・『哲学の歴史 第 10 巻 危機の時代の哲学【20 世紀 I】』中央公論新社
 ・フッサール／ハイデッガー／ホルクハイマー『30 年代の危機と哲学』清水多吉／手川誠士郎（訳）、平凡社〔平凡社ライブラリー〕
 その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40%、学期末課題もしくは試験の評価 60%です。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
 ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介いたします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the first half of the 20th century (especially existential philosophy and Critical Theory).

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the first half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA

ドイツの思想 B

2017 年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、20 世紀後半のドイツ語圏の哲学を、歴史的・社会的諸問題との関連から概観します。

20 世紀中盤から後半にかけてのドイツ語圏の哲学は、幾つかの重要な実際的問題と対峙しなければなりません。ホロコーストを含む第三帝国の過去の「克服」、東西ドイツの分裂とその再統一、ヨーロッパへの統合と国際社会との関わり、そしてそれらに通底する「ドイツ」のアイデンティティをめぐる問い、といった諸問題です。授業においては、これらの歴史的・社会的諸問題に関する文脈を踏まえながら、哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 20 世紀後半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示 (必要に応じて配布) します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	戦後ドイツの知的状況	破局と復興 過去の忘却
第 3 回	哲学者たちと「過去の克服」(1)	ニュルンベルク裁判とヤスパースの戦争責任論
第 4 回	哲学者たちと「過去の克服」(2)	亡命知識人たちの帰還 権威主義的パーソナリティの分析
第 5 回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (1)	アウシュヴィッツ裁判 アーレント『エルサレムのアイヒマン』(1963 年)
第 6 回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (2)	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」の文化への問い 批判理論と 1968 年運動
第 7 回	歴史家論争とアイデンティティへの問い (1)	1980 年代の歴史修正主義と「歴史家論争」

第 8 回	歴史家論争とアイデンティティへの問い (2)	ハーバーマスと憲法パトリオティズム 「ドイツ」のアイデンティティへの問い
第 9 回	東西ドイツの再統一をめぐる (1)	東西ドイツの「壁」の崩壊 再統一プロセスの問題
第 10 回	東西ドイツの再統一をめぐる (2)	「ドイツ・マルク・ナショナリズム」をめぐる
第 11 回	ヨーロッパの中のドイツ (1)	ヨーロッパの中の「ドイツ」のアイデンティティへの問い
第 12 回	ヨーロッパの中のドイツ (2)	EU 統合と、ハーバーマスとデリダのヨーロッパ論
第 13 回	21 世紀のドイツ哲学の諸問題	「ポスト世俗の時代」における諸問題をめぐって
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	秋学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・三島憲一『戦後ドイツ その知的歴史』『現代ドイツ 統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
 - ・アーレント『エルサレムのアイヒマン 悪の陳腐さについての報告』大久保和郎 (訳)、みすず書房
 - ・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』三島憲一 (訳)、岩波書店〔岩波現代文庫〕
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点 (リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価) 40 %、学期末課題もしくは試験の評価 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
- ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the second half of the 20th century.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the second half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIT300LA

**カルチュラル・スタディーズで見
るドイツ語圏 A** 2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【グリム／ディズニーから読み解くドイツ文化とその越境】**

ディズニーがこれまでに製作してきた 60 本以上の長篇アニメ映画のうち、グリム童話などドイツにルーツをもつ物語を原作もしくは原案とする作品は少なくありません。これらの作品を観たことのあるみなさんは、ディズニー映画というフィルターを通して、間接的にドイツ文化と触れ合ってきたといってもよいでしょう。

この授業では、ドイツ語圏の児童文学を、それを原作とする映画と比較・対照します。テキストと映像を読み／観ながら、両者の差異を生み出す要因になったドイツ（とアメリカ）の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の児童文学作品を手掛かりに、テキストとその文化的文脈を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史・現代史に対する関心や理解を深める。

文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず、論及の対象となる文学作品や映画作品を紹介したあと、教員がその作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。

次に、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループ発表を行なってもらい、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？「カルチュラル・スタディーズ」とは？ など）
第 2 回	『グリム童話集』の歴史	成立過程／ドイツ・アメリカ・日本における受容史／グループ分け (1)
第 3 回	プリンセスの変容と社会の変化	ディズニーによる『グリム童話集』映画化の歴史を概観する／グループ分け (2)
第 4 回	『雪白姫』と『白雪姫』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 5 回	『雪白姫』と『白雪姫』(2)	【グループ発表 1】テキストと映画の比較

第 6 回	『灰かぶり』と『シンデレラ』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 7 回	『灰かぶり』と『シンデレラ』(2)	【グループ発表 2】テキストと映画の比較
第 8 回	『いばら姫』と『眠れる森の美女』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 9 回	『いばら姫』と『眠れる森の美女』(2)	【グループ発表 3】テキストと映画の比較
第 10 回	『蛙の王さま』と『プリンセスと魔法のキス』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 11 回	『蛙の王さま』と『プリンセスと魔法のキス』(2)	【グループ発表 4】テキストと映画の比較
第 12 回	『野ぢしゃ』と『塔の上のラプンツェル』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 13 回	『野ぢしゃ』と『塔の上のラプンツェル』(2)	【グループ発表 5】テキストと映画の比較
第 14 回	ディズニーとドイツ（まとめにかえて）	メディア間翻訳が映し出す文化的・社会的文脈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業であつかう文学作品については該当する箇所の日本語訳を配布する場合がありますので、事前に目を通しておいてください。

授業中に映画作品の抜粋を視聴する機会があるかもしれませんが、作品全体を観ることは難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用して、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。

なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返しながらか自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60%

学期末レポート：40%（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ発表やディスカッションの時間を設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。オフィスアワーについては個別に対応しますので、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

German Culture and its Crossing Borders as Read from Grimm/Disney

In this class, we will compare/contrast children's literature from German-speaking countries with the films based on them. While reading/watching the texts and films, we will also learn about the social, cultural, and historical contexts in Germany (and the U.S.) that contributed to the differences between the two.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIT300LA

**カルチュラル・スタディーズで見
るドイツ語圏 B** 2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【転生する〈人造人間〉——ホムンクルス、オリンピア、ゴーレム、プロテゼ】**

映画をはじめとするポップカルチャーのなかにはしばしば〈人造人間〉が登場しますが、その際、これらのモチーフには直接的・間接的にドイツ文化において過去に生み出されたイメージが大きく影を落としています。

この授業では、〈人造人間〉をいくつかのタイプに分類し、そのドイツ語圏文化における出現を跡づけたのち、それぞれのモチーフが現代の文化のなかになどどのようなかたちで〈転生〉を遂げているのかを考えていきます。〈転生〉後のイメージを変容させる要因になったドイツ（と日本やアメリカなど）の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の文学作品や映画の内容と文化的文脈を的確に理解し、その認識を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史・現代史に対する関心や理解を深める。

文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

第9回までの授業で、教員が論及の対象となる文学作品や映画作品を紹介し、その作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。

第10回以降は、それぞれのモチーフをあつかった作品（映画、アニメ、漫画などポップカルチャーを含む）をめぐって、受講生のみなさんにグループ発表を行なってもらい、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。

文学作品や映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？「カルチュラル・スタディーズ」とは？など）
第2回	導入：〈人造人間〉とは何か	〈人造人間〉を分類する
第3回	〈ホムンクルス〉：生命の創造という禁忌(1)	ゲーテ『ファウスト』、プロメーテウス
第4回	〈ホムンクルス〉：生命の創造という禁忌(2)	ソクーロフと手塚治虫の『ファウスト』

第5回	〈オリンピア〉：恋愛対象はアンドロイド(1)	ホフマン『砂男』、ピュグマリオン
第6回	〈オリンピア〉：恋愛対象はアンドロイド(2)	映画『メトロポリス』、『アイム・ユア・マン』
第7回	〈ゴーレム〉：〈人造人間〉の両義性(1)	映画『巨人ゴーレム』、マイリンク
第8回	〈ゴーレム〉：〈人造人間〉の両義性(2)	フランケンシュタイン、『大魔神』
第9回	〈プロテゼ〉：補綴からサイボーグへ？	ゲーテ『ゲッツ』、映画『芸術と手術』『M』
第10回	〈ホムンクルス〉の転生	【グループ発表1】現代の〈ホムンクルス〉：差異とその社会的・文化的要因
第11回	〈オリンピア〉の転生	【グループ発表2】現代の〈オリンピア〉：差異とその社会的・文化的要因
第12回	〈ゴーレム〉の転生	【グループ発表3】現代の〈ゴーレム〉：差異とその社会的・文化的要因
第13回	〈プロテゼ〉の転生	【グループ発表4】現代の〈プロテゼ〉：差異とその社会的・文化的要因
第14回	〈人造人間〉の系譜（まとめにかえて）	文化・メディアを超えた〈転生〉を〈読む〉こと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業であつかう文学作品については該当する箇所の日本語訳を配布する場合がありますので、事前に目を通してください。

授業中に映画作品の抜粋を視聴する機会があるかもしれませんが、作品全体を観ることは難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。

なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60%

学期末レポート：40%（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ発表やディスカッションの時間を設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。

春学期・秋学期をととした履修を推奨します。

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。オフィスアワーについては個別に対応しますので、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

Reincarnations of the "Artificial Human": Homunculus, Olympia, Golem, and the Prosthesis

In this class, we will trace the emergence of the "artificial man" in German-speaking cultures, and then consider how this motif has been "reincarnated" in contemporary culture. We will also learn about the social, cultural, and historical contexts in Germany (and Japan, the U.S., etc.) that have contributed to the transformation of the post-incarnation image.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

ARSk300LA

比較文化 A

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 異文化・自文化理解力を深めること。
- 固定化されたイメージ (ステレオタイプ) を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力 (メディア・リテラシー) を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	比較文化の方法と概念 (1)	「ハイカルチャー」に対して「生活世界 Lebenswelt」としての文化とは？
③	比較文化の方法と概念 (2)	ステレオタイプに対して集団主義 vs 個人主義など有意義な「文化的次元 Cultural Dimensions」とは？
④	テレビの料理番組の比較 (1)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑤	テレビの料理番組の比較 (2)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑥	テレビの料理番組の比較 (3)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑦	映画の比較 (1)	(フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
⑧	映画の比較 (2)	(フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
⑨	映画の比較 (3)	(フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
⑩	映画の比較 (4)	(フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。
⑪	Web の料理チャンネルの比較 (1)	Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。

- ⑫ Web の料理チャンネルの比較 (2) Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
- ⑬ Web の料理チャンネルの比較 (3) Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
- ⑭ まとめ、課題もしくは 春学期に学んだ内容を確認する。試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のために Hoppii 学習支援システムに UP された作品全体を観て比較する必要があります。

【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。】

【テキスト (教科書)】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：60 %

学期末試験 (課題)：40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器 (パソコン、プリンター) などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

定員は 30 人名程度です。受講希望者多数の場合には、第 1 回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席して下さい。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

- To deepen understanding of different cultures and own culture.
- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%

Final exam: 40%

ARSk300LA

比較文化 B

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリックの意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

【到達目標】

- 人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	アザラシ（1）	セルキーの神話などを調べてみる。
③	アザラシ（2）	課題、ディスカッション
④	豹（1）	詩における豹の比喩的な意味を探る。
⑤	豹（2）	課題、ディスカッション
⑥	狐（1）	童話におけるキツネの性格を比較する。
⑦	狐（2）	課題、ディスカッション
⑧	ロバと馬（1）	映画の中のロバと馬を比較する。
⑨	ロバと馬（2）	課題、ディスカッション
⑩	白鳥（1）	オペラとバレエを比較する。
⑪	白鳥（2）	課題、ディスカッション
⑫	虎（1）	白鳥と詩人について考える。
⑬	虎（2）	課題、ディスカッション
⑭	まとめ、課題しくは試験	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のために Hoppii 学習支援システムに UP された作品全体を観て比較する必要があります。

【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。】

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：60 %
学期末試験（課題）：40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

定員は 30 人名程度です。受講希望者多数の場合には、春学期の第 1 回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず春学期の第 1 回目の授業に出席してください。

【Outline (in English)】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

◦ To deepen understanding of different cultures and own culture.

- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%

Final exam: 40%

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 A

2017 年度以降入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今さら人にきけないドイツ芸術（再）入門

【到達目標】

ドイツの芸術を理解するために必要な基礎知識を整理し、時代背景とともに有名な作品を紹介します。どこかで聞いたことがあるけど、今さら人に訊けないような芸術家やその作品について学ぶことで、ドイツとその文化に対する理解を深めることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

絵画、音楽、建築の 3 分野を中心として、ドイツ芸術における巨匠や有名な作品を紹介し、鑑賞のポイントになる基本的な知識や、作品の作られた時代背景を解説します。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいですが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意します。授業では積極的な参加を要求します。

毎回の授業冒頭にリアクションペーパーのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツ芸術の特徴とは？
第 2 回	絵画編 1 中世の美術	ルネサンスって何だろう？ 取り上げる芸術家：デューラー
第 3 回	絵画編 2 風景画の世界	絵画に表現された自然と人間の関係について。取り上げる芸術家：C・D・フリードリヒほか
第 4 回	絵画編 3 風俗画の世界	絵画に浮かび上がる人々の日常の暮らしと変わりゆく世界。取り上げる芸術家：F・G・ヴァルトミュラーほか
第 5 回	絵画編 4 表現主義って何だろう？	絵画の革命はどのようにして始まったのか。取り上げる芸術家：「青い騎士」など
第 6 回	音楽編 1 キリスト教と音楽	切っても切れない関係にある宗教と音楽の関係について。取り上げる芸術家：バッハ
第 7 回	音楽編 2 音楽と宮廷社会	華やかな宮廷を盛り上げる音楽の数々。取り上げる芸術家：モーツァルト
第 8 回	音楽編 3 職業作曲家の誕生	音楽が儀式的伴奏や社交のためのものから鑑賞の対象になるまで。取り上げる芸術家：ベートーヴェン
第 9 回	音楽編 4 ドイツ・ロマン派の栄光	19 世紀のドイツ市民社会の発展と音楽の関係。取り上げる芸術家：シューマン、ブラームス

第 10 回	音楽編 5 後期ロマン主義、無調から十二音音楽へ	19 世紀末から 20 世紀初めの新しい音楽の世界。取り上げる芸術家：マーラー、シェーンベルク
第 11 回	建築編 1 教会建築にみる様式の発展	ロマネスク、ゴシック様式からバロック・ロココ様式まで
第 12 回	建築編 2 プランデンブルク門と新古典主義	ドイツ芸術におけるギリシア・ローマへの憧れについて。
第 13 回	建築編 3 ノイシュヴァンシュタイン城と歴史主義	「メルヘン王」ルートヴィヒ 2 世の道楽が観光資源になるまで。
第 14 回	建築編 4 ユーゲン・トシュティルから表現主義建築へ	19 世紀末から 20 世紀初めに出現した新しい建築の潮流

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (30%)、レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline (in English)】

Introductory course for the history of Art in Germany from the middle age to the 20th century. This course deals with distinguished art works in various fields such as painting, music and architecture.

Active participation is required during the class. Students are also required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 B

2017 年度以降入学者

辻 英史

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「芸術と政治」—近代ドイツにおける芸術と政治の関係

【到達目標】

芸術は政治と関係ない? —とんでもない! ドイツの歴史のなかで政治と芸術は深く関わってきた。歴史的事件や人物を題材にした作品は多く存在するし、芸術作品の誕生には、その時の政治体制や支配勢力が少なからず影響している。この授業では、近現代のドイツ芸術を題材として、政治的な状況や事件がどのような芸術作品を生み出してきたのか、また芸術作品のなかで歴史的な事件や人物はどのように扱われてきたのかを、とりわけ政治と芸術が密接に関わったナチ時代 (1933-45 年) を中心に、さまざまな事例から検証する。

中心となるのは、演説や選挙戦、党大会といった政治行為が芸術作品として演出される「政治の美学化」と、芸術家自身が政治に深く関わらざるを得なくなっていく「美学の政治化」という二つの現象である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

19 世紀から 20 世紀のドイツの歴史のなかから重要な局面を選び、それぞれについて関連する芸術家および芸術作品を紹介し、その両者の関係を分析する。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意する。授業中は積極的な参加が要求される。

毎回の授業冒頭にリアクションペーパーのフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツの歴史の大まかな流れを概観する。
第 2 回	ナショナリズムと芸術	ドイツ国民意識の覚醒に対して芸術の果たした役割について。
第 3 回	階級対立と芸術	工業化と都市化の結果、貧富の差が広がり、階級対立が強まった。このことを題材とする芸術作品を扱う。
第 4 回	第一次世界大戦と芸術	戦争を題材とする芸術作品を紹介し、戦争が芸術家にもたらした影響について論じる。
第 5 回	ユダヤ人と芸術	中東欧に居住するユダヤ人は、差別や迫害と共存の交錯する長い年月のなかで、みずから芸術を作り出したり、その題材になったりした。ユダヤ人と芸術の関係を考える。

第 6 回	大衆文化と芸術	第一次世界大戦後には、新しく出現した大衆に支持された新しい芸術運動の方向性が出現した。そのヴァイマル文化と呼ばれる運動を紹介する。
第 7 回	ナチズムと芸術	ナチ体制の確立と、芸術に対する干渉と支配の実態を明らかにする。
第 8 回	ナチズムのもとでの芸術家たち	沈黙、迎合、抵抗、亡命から利用まで、芸術家たちのナチ体制に対する態度を分析する。
第 9 回	第二次世界大戦と芸術	国民の戦意高揚と戦争への動員に芸術が果たした役割を分析する。
第 10 回	ホロコーストと芸術	ユダヤ人の大虐殺はどのようにおこなわれたのか。芸術家はそれに対しどのような態度を取ったのか。
第 11 回	復興・経済成長と芸術	悲惨な敗戦、そしてそれに続く戦後の復興と高度経済成長から生まれた芸術作品について。
第 12 回	「過去の克服」と芸術	ナチ時代の犯罪的行為への反省がドイツ社会に広まるにあたって、芸術はどのように貢献したのか。
第 13 回	「ベルリンの壁」の建設と芸術	冷戦期の東西ドイツの分断は、どのような芸術作品を生み出したのか。
第 14 回	ドイツ再統一と芸術	東欧の民主化とドイツ再統一に、芸術はどのように関与したのか。そして現代ドイツにおける芸術と政治の関係とは。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。

【参考書】

石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (10%)、リアクションペーパー (30%)、レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline (in English)】

This course deals with the relationship between politics and art in Germany from the beginning of the modern nation state to the post cold war period.

Active participation is required during the class. Students are also required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

LANd300LA

留学ドイツ語 A

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ドイツ語圏で学びたい・生活してみたい」と考えている方の準備と、滞在経験者のドイツ語の復習とブラッシュアップを目指すクラスです。夏期ウィーン大学短期語学研修 (グローバル教育センター主催) や、法政大学派遣留学 (協定校への派遣留学) や SA ドイツ (国際文化学部専門科目)、ドイツへのワーキングホリデー等、ドイツ語圏での留学や滞在を念頭に、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏での快適な滞在に最低限必要なドイツ語運用能力の獲得とコミュニケーションの心がまえを学びます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩 (週 2 回/2 セメスター程度学修済) の理解を徹底し、簡単なドイツ語でアウトプット (作文) ができるようにすることです。

第二の目標は、ドイツ語が「言語」だということ、そして「言語」が構築物だということを理解できる学習者になることです。文法はただのお飾りやテストのための決まりごとなどではなく、何かを表現するために備わった機能的なしくみです。「言いたいこと」のさまざまな場面を想定しながら、ドイツ語のしくみとそのリアリティを実感してください。

第三の目標は、「ドイツ語 (外国語) の学び方」を反省できる学習者になることです。「ドイツ (語圏) へ行ってみたい!」と思っているあなたに、外国語学習を通じて得た思考・感情の言語化能力、他者対応能力が身につけているなら、怖いものは何もありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル 1」の場合は対面授業で、「レベル 2」以上の場合はリアルタイム型オンライン授業 (Zoom) で行います。

・授業の履修者以外にも、「ドイツ語カフェ」参加者ほか、ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加を歓迎します。

・授業内容・方法変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。5 月以降、Google Classroom をツールとして使用します。

毎授業、導入で、公共の場にあるドイツ語の掲示文を読み解く作業をします (グループワーク)。次に例文とモデル会話の発音練習・会話練習を行った後、各種 Web サイトの入力や SNS での発信を想定したドイツ語での作文、短いテキストの読解を行います。

SNS アプリや各種ウェブサイトを使ったグループワーク、マルチメディア教材・資料を多用しつつ、活気ある授業と参加者のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ドイツ語で自己紹介にチャレンジ
2	乗り物に乗って：その 1	(話法の助動詞を使った表現・前置詞) まずは大学/学校へ行かないと!

3	乗り物に乗って：その 2	(möchte を活用する表現・前置詞) DB (Deutsche Bahn) アプリで切符を買ってみよう
4	時々は観光もしたいな：その 1	(公共空間で使える・必要な表現) 自分の住む街を、訪ねてきてくれた親や友だちに案内してあげたい!
5	時々は観光もしたいな：その 2	(イベントの予約やコンサートチケットの手配) ベルリンを朝も昼も夜も堪能するよ!
6	来たら食べて寝なくちゃね：その 1	(食べ物注文する時の表現) 食べ物の語彙・レストランやカフェでの注文と支払いの表現
7	来たら食べて寝なくちゃね：その 2	(予約やキャンセル、ホテルの中での表現) 宿泊先を予約してみよう、ホテルで使う表現
8	道に迷うかもしれないよね：その 1	(道先案内の表現) 道に迷ったら?! 市内交通をフル活用するために
9	道に迷うかもしれないよね：その 2	(今の状況と要望を伝える) タクシーに乗るには? 電車を乗り間違えちゃったら? 急遽お金/両替が必要になったら?
10	とりあえずお天気次第? : その 1	(天候の表現・屋内の活動に関する表現) 天気を説明する・屋内でできること?
11	とりあえずお天気次第? : その 2	(従属接続詞と副文) 「天気が悪いから」を言い訳にするために...?!
12	なんか調子悪いかも...でも大丈夫! : その 1	(身体の一部・体調の表現・再帰表現) 「具合が悪い」のいろいろ・街の薬局で買えるものは何?
13	なんか調子悪いかも...でも大丈夫! : その 2	(身体の一部・体調の表現・再帰表現)・病院にかかる・既往症を説明する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 ・授業ごと予習・復習の課題を出します。
 ・ドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。SNS のニュースフィードなどを使うのもいいと思います。

【テキスト (教科書)】

佐藤藤子ほか著『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen2 integriert)』(三修社、2007 年)

【参考書】

・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社、2003 年)
 ・清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』(白水社、2014 年)
 ・新野守弘・飯田道子・梅田紅子 (編著) 『知ってほしい国ドイツ』(高文研、2017 年)
 ・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』(ミネルヴァ書房、2015 年)
 その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加 (70%)、授業ごとの課題 (30%) を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典は必携です。スマートフォン用の辞書アプリ (有料のもの) でも構いません。
 ・スマートフォンないしタブレット・PC 類を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修者に限らず、適宜ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加・聴講を歓迎します。希望者は担当者法政 G メール shizuhaya@hosei.ac.jp までご連絡ください。

- ・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
- ・履修者には、その他 ILAC（市ヶ谷リベラルアーツ）開講の「ドイツ語コミュニケーション A/B」「ドイツ語コミュニケーション中級 A/B」「SDGs で学ぶドイツ語 A/B」や、国際文化学部専門科目「ドイツ語アプリケーション」等の履修を推奨します。
- ・受講者には「ドイツ語カフェ」への参加を推奨します。積極的に参加できる方や、運営に積極的に参加できる方については別途その点を評価します（全て「授業への積極的な参加」に含まれる）。
- ・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル1」以下の場合、GW 中ないし夏休み前の期間に都内でフィールドワークを実施します。詳細は初回授業時に説明します。

【Outline (in English)】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German over 3 Semester: Target groups are student who want to participate in short language course in Vienna (by Hosei University-Global Education Center), exchange program of Hosei University as well as Working Holiday experiences in any German speaking society. In the course, students try to get ability for basic, minimal skills for communication in German and combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
- ・Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
- ・Able to write texts of a certain length in German.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed preparation and review tasks.
- ・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
- ・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 70% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 30% of every class assignments.

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300LA

留学ドイツ語 B

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ドイツ語圏で学びたい・生活してみたい」と考えている方の準備と、滞在経験者のドイツ語の復習とブラッシュアップを目指すクラスです。夏期ウィーン大学短期語学研修 (グローバル教育センター主催) や、法政大学派遣留学 (協定校への派遣留学) や SA ドイツ (国際文化学部専門科目)、ドイツへのワーキングホリデー等、ドイツ語圏での留学や滞在を念頭に、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏での快適な滞在に最低限必要なドイツ語運用能力の獲得とコミュニケーションの心がまえを学びます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩 (週 2 回/3 セメスター程度学修済) の理解を徹底し、簡単なドイツ語でアウトプット (作文) ができるようにすることです。

第二の目標は、ドイツ語が「言語」だということ、そして「言語」が構築物だということを理解できる学習者になることです。文法はただのお飾りやテストのための決まりごとなどではなく、何かを表現するために備わった機能的なしくみです。「言いたいこと」のさまざまな場面を想定しながら、ドイツ語のしくみとそのリアリティを実感してください。

第三の目標は、「ドイツ語 (外国語) の学び方」を反省できる学習者になることです。「ドイツ (語圏) へ行ってみよう!」と思っているあなたに、外国語学習を通じて得た思考・感情の言語化能力、他者対応能力が身につけているなら、怖いものは何もありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル 1」の場合は対面授業で、「レベル 2」以上の場合はリアルタイムオンライン授業 (Zoom) で行います。

・授業の履修者以外にも、「ドイツ語カフェ」参加者ほか、ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加を歓迎します。

・授業内容・方法変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。5 月以降、Google Classroom をツールとして使用します。

毎授業、導入で、公共の場にあるドイツ語の掲示文を読み解く作業をします (グループワーク)。次に例文とモデル会話の発音練習・会話練習を行った後、各種 Web サイトの入力や SNS での発信を想定したドイツ語での作文、短いテキストの読解を行います。

SNS アプリや各種ウェブサイトを使ったグループワーク、マルチメディア教材・資料を多用しつつ、活気ある授業と参加者のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ドイツ語で自己紹介にチャレンジ
2	「友だちのお家に泊めてもらえる」ってなったら? : その 1	(身体の表現) 朝と夜寝る前にすること

3	「友だちのお家に泊めてもらえる」ってなったら? : その 2	(身体表現・再帰表現) 朝と夜寝る前にすること・「清潔」の概念
4	誕生日が大事! : その 1	(過去の表現・趣味の表現) 「家が社交の場」ということの意味
5	誕生日が大事! : その 2	(過去の表現・趣味の表現) あなたが好きなもの、興味のあることは? 私ならではの贈り物ってなんだろう?
6	見た目って大事?! : その 1	(形容詞の語彙・形容詞の付加語的用法) 今日は何を着ていこうか?
7	見た目って大事?! : その 2	(形容詞の語彙・形容詞の付加語的用法) ショッピングあるある
8	「噂話」「世間話」?! : その 1	(振る舞いの表現、形容詞の語彙) 「～さんってどんな人? 誰だっけ?」と聞かれた時にどう説明する?
9	「噂話」「世間話」?! : その 2	(振る舞いの表現、形容詞の語彙、過去の表現) あの時…さんと～へ行ったよ/～したよ」と言うために
10	「環境に配慮」は当たり前?! : その 1	(命令法、前置詞) 「ゴミの分別」と「ゴミの出し方」
11	「環境に配慮」は当たり前?! : その 2	(命令法、前置詞、um ~ zu... の練習) 日常生活の中の家事と掃除
12	「ペットは家族」のリアル : その 1	(禁止の表現・ペットに関する語彙) 犬や猫と一緒にできることって何?
13	「ペットは家族」のリアル : その 2	(禁止の表現・マナーに関する語彙) 公共施設でのマナーについて説明する
14	まとめ	学期末最終評価試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・授業ごと予習・復習の課題を出します。
- ・ドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。SNS のニューズフィードなどを使うのもいいと思います。

【テキスト (教科書)】

佐藤修子ほか著『スツェーネン 2 (Szenen 2 integriert)』(三修社、2007 年)

【参考書】

- ・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社、2003 年)
 - ・清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』(白水社、2014 年)
 - ・新野守弘・飯田道子・梅田紅子 (編著)『知ってほしい国ドイツ』(高文研、2017 年)
 - ・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』(ミネルヴァ書房、2015 年)
- その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加 (70 %) と、授業内のグループワークや授業後の課題 (30 %) を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・独和辞典は必携です。スマートフォン用の辞書アプリ (有料のもの) でも構いません。
- ・スマートフォンないしタブレット・PC 類を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修者に限らず、適宜ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加・聴講を歓迎します。希望者は担当者メール

shizuhaya@hosei.ac.jp

までご連絡ください。

- ・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

・履修者には、その他 ILAC（市ヶ谷リベラルアーツ）開講の「ドイツ語コミュニケーション A/B」「ドイツ語コミュニケーション中級 A/B」「SDGs で学ぶドイツ語 A/B」や、国際文化学部専門科目「ドイツ語アプリケーション」等の履修を推奨します。

・受講者には「ドイツ語カフェ」への参加を推奨します。積極的に参加できる方や、運営に積極的に参加できる方については別途その点を評価します（全て「授業への積極的な参加」に含められる）。

・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル1」以下の場合、フィールドワークとして、12月に都内で実施される「クリスマスマーケット」（ドイツ観光局）を訪問する予定です。

【Outline (in English)】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German over 3 Semester: Target groups are student who want to participate in short language course in Vienna (by Hosei University-Global Education Center) and its previous participants, who try to participate in exchange program of Hosei University as well as Working Holiday experiences in any German speaking society. In the course, students try to get ability for basic, minimal skills for communication in German and combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.

・Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.

・Able to write texts of a certain length in German.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.

・There are prescribed preparation and review tasks.

・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.

・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 70% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 30% of every class assignments.

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスボール ・大縄跳び
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践
7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践

8	バラスポーツ ・ポッチャ	・ポッチャの理論と実習
9	ニューススポーツ (室内競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボールの戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
 - 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスポール ・大縄跳び
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニュースポーツ理論と実践

6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践
7	ボールゴール型種目 ・バスケボール	・バスケボール理論と実践
8	パラスポーツ ・ポッチャ	・パラスポーツの理解を深める ・ポッチャの理論と実習
9	ニュースポーツ（室内 競技） ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 生涯スポーツの理解と実践

佐藤 優希

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) および生涯スポーツについて学ぶ。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。また、授業で取り組む「生涯スポーツ」とは何かについて学ぶ (講義)
2	運動の心理的効果	運動の心理的な効果について、心理的な尺度を用いて検証する。実技種目はバドミントンをを用いる (講義および実習)
3	運動の身体的効果	運動の身体的な効果について、運動生理学の観点から学ぶ。実技種目はバドミントンをを用いる (講義及び実習)
4	ニュースポーツの実践 (インディアカ)	生涯スポーツとしてインディアカが注目されている。インディアカのルールおよび歴史の理解と実践 (講義及び実習)

5	ニュースポーツの実践 (ユニホック)	生涯スポーツとしてユニホックが注目されている。ユニホックのルールおよび歴史の理解と実践 (講義及び実習)
6	ニュースポーツと地域活性	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める (講義)
7	運動学習の基礎理論	ヒトがどのように運動・スポーツ動作を習得するのか、運動学習の基礎理論を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる (講義および実習)
8	運動学習の方略 (注意の焦点)	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略として注意の焦点を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる (講義及び実習)
9	運動学習の方略 (フィードバック法)	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略としてフィードバック法を学ぶ。実技種目は卓球を用いる (講義及び実習)
10	食とメンタルヘルス	日々の食生活とメンタルヘルスの関係性を学ぶ (講義)
11	プレッシャーとスポーツ (実践)	スポーツの場面ではしばしば緊張する場面 (プレッシャーのかかる場面) でのプレーが求められる。フットサルを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する (講義及び実習)
12	プレッシャーとスポーツ (基礎理論)	「プレッシャーとスポーツ (実践)」での結果を踏まえて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ (講義及び実習)
13	健康とトレーニング	健康管理のためのトレーニングの原則や栄養摂取の仕方を学ぶ (講義)
14	総括、レポート	授業の総括およびレポートに取り組む (講義)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 生涯スポーツの理解と実践

佐藤 優希

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) および生涯スポーツについて学ぶ。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。また、授業で取り組む「生涯スポーツ」とは何かについて学ぶ (講義)
2	運動の心理的効果	運動の心理的な効果について、心理的な尺度を用いて検証する。実技種目はバドミントンをを用いる (講義および実習)
3	運動の身体的効果	運動の身体的な効果について、運動生理学の観点から学ぶ。実技種目はバドミントンをを用いる (講義及び実習)
4	ニュースポーツの実践 (インディアカ)	生涯スポーツとしてインディアカが注目されている。インディアカのルールおよび歴史の理解と実践 (講義及び実習)

5	ニュースポーツの実践 (ユニホック)	生涯スポーツとしてユニホックが注目されている。ユニホックのルールおよび歴史の理解と実践 (講義及び実習)
6	ニュースポーツと地域活性	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める (講義)
7	運動学習の基礎理論	ヒトがどのように運動・スポーツ動作を習得するのか、運動学習の基礎理論を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる (講義および実習)
8	運動学習の方略 (注意の焦点)	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略として注意の焦点を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる (講義及び実習)
9	運動学習の方略 (フィードバック法)	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略としてフィードバック法を学ぶ。実技種目は卓球を用いる (講義及び実習)
10	食とメンタルヘルス	日々の食生活とメンタルヘルスの関係性を学ぶ (講義)
11	プレッシャーとスポーツ (実践)	スポーツの場面ではしばしば緊張する場面 (プレッシャーのかかる場面) でのプレーが求められる。フットサルを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する (講義及び実習)
12	プレッシャーとスポーツ (基礎理論)	「プレッシャーとスポーツ (実践)」での結果を踏まえて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ (講義及び実習)
13	健康とトレーニング	健康管理のためのトレーニングの原則や栄養摂取の仕方を学ぶ (講義)
14	総括、レポート	授業の総括およびレポートに取り組む (講義)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年のテクノロジーの発達に伴い、スポーツサイエンスも多くの進化を遂げ、スポーツを効果的、効率的、かつ安全に実施する方法が数多く提起されてきている。この講義では、ゴール型、ネット型、対人型など様々な競技特性を持つスポーツを題材として最新のスポーツ科学について理解を深めるとともに、各競技の技術習得及び向上を目標とする。身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
- ⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑥ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技 : バドミントン①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール
3	実技 : バドミントン②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール

4	実技 : バスケットボール①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの基本的技術とルール
5	スポーツ科学とは?	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
6	運動と代謝	代謝とそのメカニズム
7	実技 : 卓球①	ストレッチ・体操 (フィットネス) 卓球の基本的技術とルール
8	実技 : 卓球②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
9	実技 : バスケットボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの応用的技術と戦術理解
10	実技 : バレーボール①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バレーボールの基本的技術とルール
11	実技 : バレーボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) バレーボールの応用的技術とルール
12	実技: その他の種目	ストレッチ・体操 (フィットネス) ドッチボール、フリスビー、ユニホッケーの基本技術とルール
13	サクセスフルエイジングの達成	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効果
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まることがある。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

本授業では、スポーツ競技の優れた技術をマスターすることを目的としていないため、初心者でもスポーツに親しめるよう授業の難易度を低く設定しています。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。

2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること

3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする

4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。

5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline (in English)】

【Course outline】 With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe. In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、「運動・栄養・休養」の 3 つの観点から自身や集団の健康について、現代の日本が直面する諸問題 (少子高齢社会、ライフスタイルの変革、生活習慣病など) や疾病原因を多角的に学ぶとともに、スポーツ科学に関する講義を通して得られた知識をもとに、自身の健康を維持するセルフコントロール法のために、エクササイズやメンタルトレーニングの実践を踏まえ健康の維持・増進方法を会得することを目標とする。

【到達目標】

- ① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種類のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技と講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技 : バドミントン①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール
3	実技 : バドミントン②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
4	実技 : フットサル①	実践的 W-up ストレッチ・体操 (フィットネス) フットサルの基本的技術とルール

5	健康とは?	WHO の健康の概念 JAMA 身体の健康を維持するしくみ
6	生活習慣病とスポーツ 医学	生活習慣病とは スポーツ医学とその応用
7	実技 : 卓球①	ストレッチ・体操 (フィットネス) 卓球の基本的技術とルール
8	実技 : 卓球②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
9	実技 : バasketボール①	ストレッチ・体操 (フィットネス) Basketボールの基本的技術と戦術
10	実技 : Basketボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) Basketボールの応用的技術と戦術
11	実技 : フットサル②	3vs3 実践的 W-up ストレッチ・体操 (フィットネス) フットサルの基本的技術とルール
12	実技 : ニュースポーツ	ストレッチ・体操 (フィットネス) ユニホック・インディアカの基本的技術とルール
13	骨格筋の構造と特性を活かしたコンディショニング	骨格筋の量・質の変化 トレーニング適応 コンディショニング
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まる。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。

2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。

3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。

4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること

5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人々が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術 (姿勢、基本ストライドなど) を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学 (考え方) を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation (瞑想) について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて用いて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (対面)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。

3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー (基本のポーズ) の意味を理解し実践する。
5	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー (基本のポーズ) と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。毎回の講義で使用するレジюме及び資料などについて必ず予習・復習をすること。レジюме及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治・ヨガ根本経典・平河出版社、1986
 佐保田鶴治・ヨガ根本経典 (続)・平河出版社、1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60 %
- 2) 期末レポート 20 %

3) 授業への参画状況 20 %

- ・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 - ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
- またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのがましい。

配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 50 分～18 時 30 分の 100 分を設ける。

形式は対面とオンライン (zoom) を併用する。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人々が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術 (姿勢、基本ストライドなど) を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学 (考え方) を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation (瞑想) について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力と健康 (講義および実習)	文部科学省新体力テストの意義や方法を説明する。 体力の概要について、行動体力、防衛体力について説明する。また健康に関わる要素について説明する。

3	身体運動と健康 (講義)	厚生労働省による資料を用いて、生活習慣病と身体活動との関係を明らかにし、運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりを理解する。
4	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー (基本のポーズ) の意味を理解し実践する。
5	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー (基本のポーズ) と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料などについて必ず予習・復習をすること。

レジュメ及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治, ヨーガ根本経典, 平河出版社, 1986

佐保田鶴治. ヨーガ根本経典（続）. 平河出版社, 1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 50 分～1 8 時 30 分の 100 分を設ける。

形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.

2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: バドミントン

佐藤 優希

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ (講義及び実習)
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ (講義及び実習)
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ (講義及び実習)
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ (講義及び実習)

6	バドミントンを知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ (講義)
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ (講義および実習)
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する (講義および実習)
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える (コンディショニング) ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ (講義)
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ (講義及び実習)
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ (講義および実習)
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ (講義および実習)
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ (講義及び実習)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う (講義および実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為 (携帯使用、居眠り、会話等) は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。

4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: バドミントン

佐藤 優希

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ (講義及び実習)
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ (講義及び実習)
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ (講義及び実習)
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ (講義及び実習)

6	バドミントンを知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ (講義)
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ (講義および実習)
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する (講義および実習)
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える (コンディショニング) ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ (講義)
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ (講義及び実習)
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ (講義および実習)
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ (講義および実習)
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ (講義及び実習)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う (講義および実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為 (携帯使用、居眠り、会話等) は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。

4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向 (歴史) やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、バレーボールのルールについて (講義)	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得 (実習&講義)	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得 (実習&講義)	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得 (実習&講義)	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方 (実習&講義)	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて (実習&講義)	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割 (実習&講義)	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術 (三段攻撃使用)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (三段攻撃を用いる) を立ててゲームを行う。
第 10 回	集団的技術 (レシーブのフォーメーション重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (レシーブのフォーメーション) を立ててゲームを行う。
第 11 回	集団的技術 (サーブ戦略重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (サーブ) を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術 (チームコミュニケーション重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (チームコミュニケーション) を立ててゲームを行う。

第 13 回 集団的技術 (総合)・ゲーム (実習&講義) チームごとに戦略 (総合的に) を立ててゲームを行う。

第 14 回 授業総括と筆記試験 授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 (60%) を主な基準として、筆記試験 (40%) を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目 (バレーボール) の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生 (法・文・営・国) ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

【Learning Objectives】

1. Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ (アウトドア) バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めることで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業 (スポーツ科学 B) は 2 年生以上を対象としており、スポーツ科学 A を受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、新規受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、新規の受講希望者には志望理由を記入してもらう。
第 2 回	ビーチバレーのルールについて (講義)	ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術の復習 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A で行った基本技術を復習する。
第 4 回	基本技術、集団技術の復習 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A で行った基本的技術や集団技術を復習する。
第 5 回	各技術の応用 (実習 & 講義)	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 6 回	集団的技術・基礎 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 7 回	集団的技術 (サーブ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (サーブ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術 (レセプション戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (レセプション) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	集団的技術 (トスアップ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (トスアップ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 10 回	集団的技術 (ディグ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (ディグ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術 (スパイク戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (スパイク) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	集団的技術 (ブロック戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (ブロック) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

- 第 13 回 集団的技術 (総合的)・ゲーム (実習 & 講義) チームごとに戦略 (総合的に) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
- 第 14 回 授業総括とレポート作成、提出 授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 (70%) を主な基準として、レポート (30%) を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目 (バレーボール) の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生 (法・文・営・国) ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

【Learning Objectives】

1. Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: トレーニングの理論と実践 I

中澤 史

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と実践方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する知識の幅を広げる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した基礎的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定 (講義)
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク (講義)
3	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る (講義)
4	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法 (講義)
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ (講義及び実習)
6	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係 (講義及び実習)
7	トレーニングと栄養	食事とサプリメント (講義及び実習)
8	無酸素運動	基礎的な無酸素運動の実践方法と効果について学ぶ (講義及び実習)

9	有酸素運動	基礎的な有酸素運動の実践方法と効果について学ぶ (講義及び実習)
10	体幹のトレーニング 1	腹部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
11	体幹のトレーニング 2	背部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
12	上肢のトレーニング 1	基礎的な上肢のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
13	下肢のトレーニング	基礎的な下肢のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成 (講義及び実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。

・授業への参画状況および各授業で取り組むリアクションペーパー等の提出物: 90 %

・最終授業時に課すレポート課題: 10 %

※原則として出席回数が授業実施回数の 2/3 (10 回出席) 以上に満たない場合は E 評価となります。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

新規の人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 3 階柔道場の予定です。
3. 継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. Students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn the basic theory and method of training.
2. You can devise and practice your own training program that will help you achieve your goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 90%
2. Report assignments imposed during the final class: 10%.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: トレーニングの理論と実践 II

中澤 史

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムを発展させる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した実践的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定 (講義)
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進 (講義)
3	スポーツとパーソナリティ	スポーツとパーソナリティの関係について学ぶ (講義)
4	ソーシャルサポート	ソーシャルサポートについて学ぶ (講義)
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ (講義及び実習)
6	トレーニングプログラムの設定	トレーニングプログラムの再設定 (講義及び実習)
7	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
8	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)

9	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
10	体幹のトレーニング	体幹のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成 (講義及び実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

・授業への参画状況および各授業で取り組むリアクションペーパー等の提出物 90 %

・最終授業時に課すレポート課題 10 %

※原則として出席回数が授業実施回数の 2/3 (10 回出席) 以上を満たさない場合は E 評価となります。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

1. 新規的人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
2. 継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましいです。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成には継続的なトレーニングの実施が不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。そのためスポーツ科学 B の履修者は、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance improvement, body makeup, dieting, and maintaining and improving their health, and develop their own training programs. In addition, students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn practical training theories and methods.
2. Can devise and practice effective and practical training programs that contribute to the achievement of each individual's goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 90%
2. Report assignments imposed during the final class: 10%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に付ける。
- ④就業力 (信頼関係構築や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず 2 年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第 1 回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。春学期スポーツ科学 A は基本的な内容を学習する。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、毎回の授業においてリアクションペーパーを提出する。次回の授業初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実施
3	講義及び実技 (ソフトバレーボール)	ウォーミングアップの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
4	講義及び実技 (バスケットボール)	チームワークについての講義及びバスケットボールの実践
5	講義及び実技 (卓球)	体力についての講義及びソフトバレーボールの実践
6	講義及び実技 (筋力トレーニング)	筋力トレーニングの基本についての講義及び筋力トレーニングの実践
7	講義及び実技 (バドミントン)	コミュニケーションの重要性についての講義及びバドミントンの実践
8	講義及び実技 (フライングディスク)	リーダーシップについての講義及びフライングディスクの実践

9	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
10	講義「健康のための運動」	健康のための運動 (特に有酸素運動) についての講義
11	講義及び実技 (フットサル)	エネルギー (栄養・水分) の補給の重要性についての講義及びフットサルの実践
12	講義及び実技 (バスケットボール)	健康と休養 (睡眠) の重要性についての講義及びバスケットボールの実践 レポート課題の提示
13	講義及び実技 (ストレッチング及びバランス運動)	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
14	授業の総括及	講義及び実技授業の総括熱中症対策について レポート提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況 60%
 - ②課題・レポート 40% の配分として総合評価する。
- この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 卒業後の実社会において、活躍する上で重要であると考えられる、他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
4. 就業力 (信頼関係や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業 1 回目のガイダンス時に決定する。

秋学期のスポーツ科学 B は春学期のスポーツ科学 A と比べ、レベルアップさせた内容となります。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成される。毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業の初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。

授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義 及び体力測定の実施
3	講義及び実技 (ソフトバレーボール)	ウォーミングアップの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
4	講義及び実技 (バスケットボール)	チームワークの重要性についての講義及びバスケットボールの実践
5	講義及び実技 (卓球)	体力についての講義及び卓球の実践
6	講義及び実技 (筋力トレーニング)	筋力トレーニングの基本理論についての講義及び筋力トレーニングの実践
7	講義及び実技 (バドミントン)	コミュニケーションの重要性についての講義及びバドミントンの実践
8	講義及び実技 (フライングディスク)	リーダーシップについての講義及びフライングディスクの実践

9	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
10	講義「健康のための運動」	健康のための運動 (特に有酸素運動) についての講義
11	講義及び実技 (フットサル)	エネルギー (栄養・水分) 補給の重要性についての講義及びフットサルの実践
12	講義及び実技 (バスケットボール)	健康と休養 (睡眠) の重要性についての講義及びバスケットボールの実践
13	講義及び実技 (ストレッチング及びバランス運動)	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
14	授業の総括	講義及び実技授業の総括 レポート提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。
教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 2 単位

定員制

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、現在、わが国で立案・実行されているスポーツ政策およびその背景にある法・計画、組織、財源を学びます。こうしたスポーツ政策全体に対する理解を深めた上で、学生自身がわが国のスポーツに関する課題を設定できる能力の獲得を目指します。また、秋学期の教養ゼミⅡ（データ分析を通じたスポーツ政策提言）では、教養ゼミⅠでの学修を踏まえ、実際に政策提言ロールプレイを行う予定です。政策提言に向けて必要な知識・能力（例、社会調査法の理解・実践など）を身につけていきます。

【到達目標】

- (1) 現在わが国で進められているスポーツ政策全体を理解している
- (2) スポーツ政策の立案・実行に関わる法や計画、組織、財源を理解している
- (3) 上記理解のもと、スポーツ政策やわが国のスポーツに関わる問題意識・課題を学生自身が設定できる
- (4) 政策提言に必要な社会調査法の基礎を理解し、実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施しますが、感染症流行状況に応じて変更される場合は事前にアナウンスします。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※(1)(2)は授業回によって入れ替わることがあります。

- (1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループでのワークによる成果物の発表とそのフィードバックなど
- (2) 講義（リアクションペーパーの記述）
- (3) 個人またはグループでのワーク
各回のリアクションペーパーの内容（各学生のコメント・疑問点等）は次回授業の冒頭にて紹介・解説します。同様に、各回の授業時間内のワークを通じて提出された成果物についても次回授業にて全体に共有し、次のワークに向けて解説・アドバイスをを行います。各回に設定されているワークの時間は、教員が具体的な作業を指示する場合がありますが、授業回が進むにつれて学生自身で自由に使えるようにします。ワークの時間を、①予習を通じて調べてきた内容の報告やディスカッションに使うのか、②情報検索等の作業時間に充てるのかは個人またはグループの自由とします。ただし、ワークの時間では②（個人々で行える作業の時間）をなるべく少なくして、①のような建設的な時間に充てた方が無駄がありません。よって、学生は予習をしっかりと行った上で授業に臨むようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびスポーツ政策に関わる法・計画	①ガイダンス ②講義（スポーツに関わる法・計画） ③ワーク（今後のワークで扱うテーマに関するアンケート）

第 2 回	スポーツ政策に関わる財源	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツに関わる財源） ③グループメンバー発表、ワーク（テーマの決定）
第 3 回	スポーツ政策に関わる組織	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツ政策に関わる組織） ③ワーク（扱うテーマに関連したスポーツ政策の歴史、組織、財源等のまとめ）
第 4 回	子どものスポーツ政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（子どものスポーツ政策） ③ワーク（グループ内での自由ワーク、扱うテーマに関する現状のまとめ）
第 5 回	成人のスポーツ政策・健康政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（成人のスポーツ政策・健康政策） ③ワーク（グループ内での自由ワーク）
第 6 回	エリートスポーツ政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（エリートスポーツ政策） ③ワーク（グループ内での自由ワーク、扱うテーマに関する課題のまとめ）
第 7 回	スポーツを通じた地域・経済活性化	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツを通じた地域・経済活性化） ③ワーク（過去のワークのまとめ、発表資料の作成とブラッシュアップ）
第 8 回	発表	各グループが過去のワークをもとにまとめた「スポーツ政策に関する現状と課題」について発表
第 9 回	定量調査を体験しよう (1) データの準備	①前回の発表の解説 ②講義（社会調査の概要、定量・定性調査のプロセス、定量データの準備） ③ワーク（データ入力とクリーニング、加工）
第 10 回	定量調査を体験しよう (2) 仮説検定	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（仮説検定の流れ、統計解析の種類） ③ワーク（基礎的な統計解析を体験する）
第 11 回	定量調査を体験しよう (3) 結果の記述	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（結果の書き方） ③ワーク（仮説に基づいた統計解析、結果の記述）
第 12 回	定性調査を体験しよう (1) インタビュー	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（定性調査・インタビューの種類、インタビューの注意点） ③ワーク（質問項目の検討、インタビューの実践、文字起こし）
第 13 回	定性調査を体験しよう (2) コーディング	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（分析プロセス、コーディング方法） ③ワーク（コーディング）
第 14 回	定性調査を体験しよう (3) 概念の作成	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（概念の作成方法とストーリー化） ③ワーク（概念の作成とストーリー化）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ 4 時間です。<予習>

- (1) 次回講義内容に関連したテーマについて、参考書等を事前に読んでおく
- (2) 個人またはグループワークを通じて設定された、次回授業に向けた作業（情報収集など）を進めておく

<復習>

(1) 各回の講義やワークに関する復習を通じ、疑問点等をまとめておく（次回授業にて確認・解説）

その他、予習・復習以外にもスポーツに関わる時事ニュースに普段から触れるようにしてください。その際、疑問点や自身の意見を考えながらニュースを見聞きするように意識してください。

【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】

菊幸一, 齋藤健司, 真山達志, & 横山勝彦. (2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3500 円+税, ISBN : 978-4792380670

笹川スポーツ財団 (編). (2020). スポーツ白書 2020~2030 年のスポーツのすがた～. 日経印刷, 3800 円+税, ISBN : 978-4915944741

【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した 4 項目について、以下の基準をもとに評価します。

(1) 各回のワーク… 70%

各回のワーク（個人・グループ）を通じた成果物について、毎回 100 点満点で採点します。

(2) 各回のワークを取りまとめた成果発表… 30%

第 8 回にて行われる発表について、100 点満点で採点します。

(1) の合計点を 70%, (2) を 30% の比率に直し、その合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より着任したためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上で PC を毎回必ず持参してください。

また、社会調査の一部プロセスを体験するため、二次分析や模擬インタビューを行います。二次分析の際はマウスがあると操作しやすいですが、必須ではありません。模擬インタビューでは録音機材が必要となります（スマホ・PC 等の利用可）。準備が必要な物に関しては、授業前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

本授業では「学生自身が主体となってスポーツ政策を学ぶこと」「学生間で質問・アドバイス・ディスカッションをしながら学びを深めていくこと」を主眼としています。よって教員による講義は必要最低限の内容となり、学生自身のワークがメインとなります。自らの興味関心に基づき学びを深めようとする積極性だけでなく、他学生の学びに対しても協力的な姿勢を求めます。

【Outline (in English)】

■ Course outline

This course introduces the sports policies that are currently made and implemented in Japan, as well as the laws, plans, organizations, and finances behind these policies. The aim of this course is to deepen students' understanding of sports policy as a whole and to help them acquire the ability to set issue themselves. The course also enhances the development of students' knowledge and abilities required for policy proposal (e.g., understanding and practice of social research methods, etc.).

■ Learning Objectives

(1) At the end of the course, students are expected to understand the overall sports policies currently being implemented in Japan.

(2) Students are also expected to understand the laws, plans, organizations, and finances behind the policies.

(3) Based on the above understanding, students are expected to set problems and issues by themselves related to sport and the policies in Japan.

■ Learning activities outside of classroom

Your study time will be more than four hours for a class.

Before each class meeting, students will be expected to have read reference books on topics related to the next lecture. Students will be also expected to have proceeded with individual or group work (e.g. information gathering) for the next class.

After each class meeting, students will be expected to have reviewed each lecture and work, and summarize questions, etc. In addition to preparation and review, students are encouraged to be in contact with current news related to sports.

■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Work in each session: 70%, Mid-term presentation: 30%

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、原則として教養ゼミⅠ（わが国のスポーツ政策の現在地と課題）の単位取得者のみが履修することができます。

教養ゼミⅠ（わが国のスポーツ政策の現在地と課題）を通じて理解したわが国のスポーツ政策の全体像、および学生自身の興味関心に応じたテーマに関する現状と課題を踏まえ、実際に政策提言ロールプレイを行います。政策提言を通じ、社会的に必要なエビデンスに基づく政策立案・実行の重要性を理解するとともに、論理的思考力の獲得を目指します。

【到達目標】

- (1) わが国のスポーツ政策の全体像および特定テーマのスポーツ政策に関する現状と課題を理解した上で、社会的重要度の高い問題意識・課題を設定することができる
- (2) 上記の課題解決に向けた仮説を設定し、仮説検証に向けた社会調査とその解析を学生自身でデザインできる
- (3) 上記のプロセスを通じて明らかとなった結果・考察を踏まえ、スポーツ政策やスポーツに関連する課題の解決に向けて提言できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施しますが、感染症流行状況に応じて変更される場合は事前にアナウンスします。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※(1)(2)は授業回によって入れ替わることがあります。

- (1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループでのワークによる成果物の発表とそのフィードバックなど
- (2) 講義（リアクションペーパーの記述）
- (3) 個人またはグループでのワーク

各回のリアクションペーパーの内容（各学生のコメント・疑問点等）は次回授業の冒頭にて紹介・解説します。同様に、各回の授業時間内のワークを通じて提出された成果物についても次回授業にて全体に共有し、次のワークに向けて解説・アドバイスをを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識・課題・仮説の設定 (1) 課題	①ガイダンス ②講義（政策提言とは、問題と課題の違い、先行研究の調べ方とまとめ方） ③ワーク（課題挙げと先行研究調べ）
第 2 回	問題意識・課題・仮説の設定 (2) リサーチクエスト	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（課題選定のポイント、リサーチクエストとは） ③ワーク（課題の選定、リサーチクエスト挙げ）

第 3 回	問題意識・課題・仮説の設定 (3) 仮説	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（仮説とは、仮説の立て方やポイント） ③ワーク（リサーチクエストに基づく仮説挙げ）
第 4 回	調査・分析方法の決定 (1) 調査	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（調査フィールドや二次データの検索方法） ③ワーク（調査方法・対象の決定、調査フィールド・二次データの検索） ※以降の調査・分析(1)-(4)の内容は、各グループの進捗により異なる可能性あり
第 5 回	調査・分析に向けた準備 (2) 調査	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（調査依頼、調査実施に向けた準備） ③ワーク（調査実施に向けた準備） ④調査実施に向けた事前チェックとフィードバック
第 6 回	調査・分析 (3) 調査	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（調査実施など）
第 7 回	調査・分析 データ整理 (4) データ	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（調査の続き、データ整理）
第 8 回	結果の作成 データ分析 (1) データ	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（結果と考察の違い、結果の書き方） ③ワーク（データ分析）
第 9 回	結果の作成 図表の作成 (2) 図表	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（図表作成による分析結果の確定）
第 10 回	考察・提言 (1) 考察	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（考察の書き方） ③ワーク（考察の執筆）
第 11 回	考察・提言 (2) 提言	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（提言作成のポイント） ③ワーク（結果と考察を踏まえた提言の作成）
第 12 回	考察・提言 (3) まとめ	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（政策提言の評価基準、わかりやすい資料作成のポイント） ③ワーク（過去のワークのまとめ、発表資料作成）
第 13 回	発表	①ルール説明 ②政策提言の発表・質疑応答・評価
第 14 回	総評・まとめ	①政策提言の結果発表 ②総評 ③学生間における政策提言を通じた学びの共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ 4 時間です。

<予習>

(1) 次回講義内容に関連したテーマについて、参考書等を事前に読んでおく

(2) 個人またはグループワークを通じて設定された、次回授業に向けた作業（情報収集など）を進めておく

<復習>

(1) 各回の講義やワークに関する復習を通じ、疑問点等をまとめておいてください（次回授業にて確認・解説）

その他、予習・復習以外にもスポーツに関する時事ニュースに普段から触れるようにしてください。その際、疑問点や自身の意見を考えながらニュースを見聞きするように意識してください。

【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】

菊幸一、齋藤健司、真山達志、& 横山勝彦。(2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3500 円+税. ISBN : 978-4792380670

笹川スポーツ財団(編). (2020). スポーツ白書 2020～2030年のスポーツのすがた～. 日経印刷, 3800 円+税, ISBN : 978-4915944741

【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した 3 項目について、以下の基準をもとに評価します。

(1) 各回のワーク… 70%

各回のワーク(個人・グループ)を通じた成果物について、毎回 100 点満点で採点します。

(2) 各回のワークを取りまとめた成果発表… 30%

第 13 回にて行われる発表について、100 点満点で採点します。

(1) の合計点を 70%、(2) を 30%の比率に直し、その合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より着任したためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上で PC を毎回必ず持参してください。政策提言に向けた調査・分析の過程で、準備が必要な物が出てきた場合は授業前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

本授業では「学生自身が主体となってスポーツ政策を学ぶこと」「学生間で質問・アドバイス・ディスカッションをしながら学びを深めていくこと」を主眼としています。よって教員による講義は必要最低限の内容となり、学生自身のワークがメインとなります。自らの興味関心に基づき学びを深めようとする積極性だけでなく、他学生の学びに対しても協力的な姿勢を求めます。

【Outline (in English)】

■ Course outline

Based on the overall sport policies in Japan, the current situation and issues related to themes of your interest, students will engage in sport policy proposals. Through policy proposals, the course helps students understand the importance of socially needed and evidence-based policy making and implementation, as well as acquire the ability of logical thinking.

■ Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) To be able to set up socially important problems and issues based on an understanding of the overall sport policy in Japan and the current status and issues related to sport policy on specific themes.

(2) To be able to formulate hypotheses for solving the above issues, and to design social research and their analyses by yourself in order to test the hypotheses.

(3) Based on the results and discussions revealed through the above process, be able to make proposals for the solution of sport policy and related issues.

■ Learning activities outside of classroom

Your study time will be more than four hours for a class.

Before each class meeting, students will be expected to have read reference books on topics related to the next lecture. Students will be also expected to have proceeded with individual or group work (e.g. information gathering) for the next class.

After each class meeting, students will be expected to have reviewed each lecture and work, and summarize questions, etc. In addition to preparation and review, students are encouraged to be in contact with current news related to sport.

■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Work in each session: 70%, Term-end presentation: 30%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせ実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ	・ニュースポーツ理論と実践
	・インディアカ	
	・ソフトバレー	
	・バレーボール	
6	ネットラケット種目	・シングルス/ダブルス理論と実践
	・バドミントン	

7	ボールゴール型種目	・バスケットボール理論と実践
	・バスケットボール	
8	バラスポーツ	・ボッチャの理論と実習
	・ボッチャ	
9	ニュースポーツ (室内競技)	・ユニホック理論と実践
	・ユニホック	
10	ネット種目	・バレーボール理論と実践
	・バレーボール	
11	ボールゴール型種目	・フットサル理論と実践
	・フットサル	
12	ネットラケット種目	・シングルスゲーム理論と実践
	・卓球シングルス	
13	ネットラケット種目	・ダブルスゲーム理論と実践
	・卓球ダブルス	
14	ボールゴール型種目	・フットサル/バスケットボール理論と実践
	・フットサル	
	・バスケットボール	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

日本の中学・高等学校における体育授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ	・ニュースポーツ理論と実践
	・インディアカ	
	・ソフトバレー	
	・バレーボール	
6	ネットラケット種目	・シングルス/ダブルス理論と実践
	・バドミントン	

7	ボールゴール型種目	・バスケットボール理論と実践
	・バスケットボール	
8	バラスポーツ	・ボッチャの理論と実習
	・ボッチャ	
9	ニュースポーツ (室内競技)	・ユニホック理論と実践
	・ユニホック	
10	ネット種目	・バレーボール理論と実践
	・バレーボール	
11	ボールゴール型種目	・フットサル理論と実践
	・フットサル	
12	ネットラケット種目	・シングルスゲーム理論と実践
	・卓球シングルス	
13	ネットラケット種目	・ダブルスゲーム理論と実践
	・卓球ダブルス	
14	ボールゴール型種目	・フットサル/バスケットボール理論と実践
	・フットサル	
	・バスケットボール	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

本授業は、「スポーツ科学 A」と同じような授業内容・授業展開であるが、参加人数により実施種目、内容は適宜変更対応し授業運営するので、連続履修該当者には、積極的な参加により円滑な授業運営に協力していただきたい。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. To acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

林 容市

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

定員制 (20 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では「生理学的変化 (特に体脂肪・体組成を対象) に貢献する諸要因の理解」, 「健康関連指標 (特に体脂肪・体組成) の測定と評価」, 「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理的および心理的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。

その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第 2 回	身体活動によって変化する生理的要因 1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第 3 回	身体活動によって変化する生理的要因 2	身体組成 (体脂肪量・骨格筋) について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第 4 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 1	身体組成のうち、特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する (演習)
第 5 回	身体活動によって変化する生理的要因 3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第 6 回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因 (食事) について学ぶ

第 7 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する (プレゼンテーション)
第 8 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて、グループで改善・修正案を検討する (演習)
第 9 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて、仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する (演習)
第 10 回	身体活動によって変化する生理的要因 4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第 11 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ (演習)
第 12 回	身体活動によって変化する生理的要因 5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第 13 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ (演習)
第 14 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少や身体組成 (骨格筋の増減など) に向けた身体活動案を提案する (プレゼンテーション)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践 (田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006)

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度 (授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価) : 80%, 2) 各回のプレゼンテーションの内容: 20%, の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、多くの授業を対面で実施できましたが、履修者が少なく、当初計画していた種々の演習の実施が困難な状況でした。測定等は時間をかけて実施できた一方、履修学生の皆さんには、予定していたディスカッションの機会を十分に提供できませんでした。次年度の授業も、履修者次第とはなりますが、自らの身体に関する様々な指標を厳密に測定・評価し、自らの身体や健康に関連する情報を適切に取捨選択できる能力を身につけてもらえるよう授業を展開する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者を最大 20 名とします。第 1 回目の授業時において履修希望者が 20 名を超えた場合には、履修人数の制限を行います。そのため、第 1 回目の授業には必ず出席してください。体調不良等どうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

林 容市

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

定員制 (20 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康や QoL の本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。また、文章の執筆、図表の作成、量的・質的分析について発展的な手法を学び、最終的に授業内で調べた内容についてレポートとしてまとめます。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
- ・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスをレポート・論文として報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義、受講者間のディスカッション、探求テーマに対しての情報の集約や量的な取りまとめと考察等から構成されます。授業目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。そのため、授業後半においては、受講者自身が定めた探求テーマに基づいて情報を取りまとめて検討し、最終的な結果を文章として提出を求めます。

なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第 2 回	様々な対象における健康の考え方 1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第 3 回	様々な対象における健康の考え方 2	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状态を学ぶ
第 4 回	様々な対象における健康の考え方 3	健康行動 (運動実践・食事改善) を発生・継続させるための心理的要因を各自で調べ、グループで討論する (演習)
第 5 回	健康づくりに関する探求テーマの検討	探求するテーマを検討し、個人またはグループ単位でその詳細を検討する (演習)
第 6 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 1	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報の「表現・表記方法」を学ぶ
第 7 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 2	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を「測定」する手法を学ぶ

第 8 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 3	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を量的に「分析・評価」する手法を学ぶ
第 9 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 4	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果に関する種々の情報を集約して分析する手法を学ぶ
第 10 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 1	探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する (演習)
第 11 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 2	前回の論議に基づいて、探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する (演習)
第 12 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 3	探求テーマについて、関連する情報をまとめ、一定の結論を導くために論議する (演習)
第 13 回	探求テーマに関する情報の集約 1	探求テーマについて調べた情報を、適切な方法を用いて分析し、レポートを作成する。
第 14 回	探求テーマに関する情報の集約 2	探求テーマについて調べた情報を、適切な方法を用いて分析し、結果を報告する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、第 11 ~ 13 回においては、各自の探求テーマに沿って文献等の検索や取りまとめた結果を用いた論議を行いますので、これらの回では求められた情報やデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践 (田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006)

【成績評価の方法と基準】

各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを 100 点満点で評価した上で合計し、それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。
評価得点 = 【すべての課題の「得点」の総和】 / 【すべての課題で「獲得可能な最高得点」(課題数 × 100)】 × 100

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は履修者が非常に少なく、予定していた演習の活動、履修者間でのディスカッションがほほできない状況でした。そのため、シラバスとは内容を変更して授業を行いました。履修者の皆さんの期待に沿えなかった部分が多々あったと感じています。このような状況を踏まえて、次年度は内容を少し変更していますが、受講生の皆さんの様々な能力の発達に寄与できるような授業をしていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備してください。

【その他の重要事項】

本授業は、担当教員が同じ教養ゼミⅠの単位を取得していることを履修の条件とします。ただし、第 1 回目の授業において、履修希望者が定員 (20 名) を下回っている場合には、担当教員との面談により教養ゼミⅠの単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Construct the content of physical activity appropriately according to the purpose.
2. Provide advice on physical activity practices tailored to the target population.
3. Report evidence on physical activity using appropriate analytical methods and expressions.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In sessions 11 to 13, we will search for literature according to the theme of each student's inquiry and discuss the results of these searches. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The evaluation uses the following formula to evaluate in each session learning subjects, with a maximum of 100 points.

Evaluation score = [Sum of all scores for all subjects] / [Highest score possible for all subjects (number of tasks x 100)] x 100

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義において「コンディショニング」および「コンディショニング」を理解することが目標である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上、傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】

「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解できる。コンディショニングの要素となる身体的因子、環境的因子、心理的因子について、説明できる。

コンディショニングの評価の必要性及び評価の方法について説明できる。トレーニング計画とコンディショニングについて理解し、ピリオダイゼーションの理論や背景について、説明でき、自身のトレーニング計画を立案できる。

競技力向上のためのコンディショニングの具体的な方法について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する。 コンディショニングとコンディショニングについて説明する。 コンディショニングの必要性について説明する。 体格・体組成計の測定を行う。
2	コンディショニングの要素	コンディショニングの要素である、身体的因子、環境的因子、心理的因子に関する講義を行う。
3	ホメオスタシス（恒常性）	人間に備わっているホメオスタシスについて説明する。
4	外傷・傷害とその対策	スポーツにおける怪我（外傷および障害）について、説明し、その原因を対策について説明する。
5	スポーツ傷害の治癒過程	炎症の役割について説明し、損傷細胞の修復メカニズムについて説明する。

6	スポーツ外傷の応急処置	現場における応急処置（RICE 処置）について説明する。特に冷却療法（アイシング）の効果を説明し、実際にアイシングを試してみる。
7	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニングの実際	コーディネーショントレーニング、スタビリティトレーニングについて、その方法を学び実践する。
8	ストレッチングとコンディショニング	ストレッチングの種類や方法について説明し、実習を行う。
9	スポーツマッサージとコンディショニング	マッサージの歴史や生理学的効果を学習するとともに、学生同士実践する。 セルフマッサージの手法を説明し学生自身で実践する。
10	鍼・灸療法とコンディショニング	スポーツ選手が比較的多く利用する、鍼灸について、治効理論を説明し、実際の場面を実演する。
11	ヨガとコンディショニング	ヨガの歴史や哲学について説明し、アスリートのコンディショニングにおける役割（効果）について講義を行う。
12	睡眠とコンディショニング	睡眠が果たすコンディショニングの役割について、その効果やメカニズムについて講義を行う。
13	休養とリラクゼーション	心身の休養やリラクゼーションがコンディショニング調整に果たす役割を説明する。
14	総括	これまでの内容を振り返るとともに、全授業に関する質問を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料などについて必ず予習・復習をすること。

レジュメ及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードし持参する。

【参考書】

1. 日本スポーツ協会編, 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 (予防とコンディショニング)
2. 人体の不思議, 日経サイエンス社
3. 佐保田鶴治, ヨーガ根本経典, 平河出版社
4. リチャード・ミラー, iRest Yoga Nidra

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組み課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 3/4 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの具体的な例を挙げ、理論と実技を交えながら講義を行う。

それにより、理解がより深まると考えられる。

また実技のポイントは繰り返し言葉にできるように心がける。

提出された課題の内容について、授業の最初にフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。

配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 50 分～18 時 30 分の 100 分を設ける。

形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, students are expected to understand states of “condition” and learn the purposes, elements, evaluation methods of conditioning. Being in the good condition leads athletes to the better performance, resulting in the better competitive outcomes. This lecture guides student athletes to learn the basic conditioning program and competition preparation program and helps them acquire the ability to practice such programs.

【Learning Objectives】

Understand the many different types of conditioning.

To be able to explain the physical, environmental, and psychological factors that constitute conditioning.

To be able to explain the necessity of condition assessment and methods of assessment.

Understand training plans and conditioning, and be able to explain the theory and background of periodization, and formulate their own training plans.

Understand and be able to practice specific methods of conditioning to improve athletic performance.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.

2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 3/4 of the class, the grade will be “D” or “E”.

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語 A 2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

定員制 (40 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験 (仏検) 4 級~5 級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも (フランス共和国を含めた) 現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1~10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字 11~20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方

8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進度の調整
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞 (aller, venir, vouloir)
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ! (改訂二版)』、駿河台出版社、2023 年。

(*自分で入手する場合、2023 年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。)

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点 (ミニ課題など): 30 %

②期末テスト: 70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会 (特に会話と筆記) を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験 (仏検) 4 級～5 級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも (フランス共和国を含めた) 現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・ 命令形 ・ 時の表現 人・ものを描写する ・ IR 動詞 (つづき) ・ 形容詞 ・ 動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・ 数量表現 ・ 名詞 + à + 不定詞 ・ 動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気と言う ・ 目的補語人称代名詞 ・ 非人称構文 ・ 動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気と言う ・ 数字 21～69 ・ 動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞 ・ 日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・ 日常の活動を表す表現 (つづき)
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 直説法単純未来 ・ 形容詞・副詞の比較級

8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 形容詞・副詞の最上級 ・ 特殊な優等比較級・優等最上級 ・ 指示代名詞
9	中間まとめ	・ これまでの学習事項を総復習 ・ 進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・ 数字 70～100 ・ 直説法複合過去 ・ 目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・ 代名動詞を含む複合過去 ・ 中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う (2)、否定する ・ 直説法半過去 ・ 直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う (2)、否定する ・ 直接法大過去 ・ 中性代名詞 y と le ・ 様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ! (改訂二版)』、駿河台出版社、2023 年。

(*自分で入手する場合、2023 年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。)

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・ 平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点 (ミニ課題など) : 30 %

②期末テスト : 70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会 (特に会話・筆記) を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化への反発をそのなりたちにおいて含むポピュリズムが、世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしています。この教養ゼミ I 「人物と映像からみる『ポピュリズム』」は、学生の皆さんの参加を中心に組み立てられており、海外の文化や政治・経済に詳しくない人も、大学卒業後いわゆる社会人となるにあたり、必要な学びを体験することができます。この授業のテーマを紹介する動画 (約 4 秒) をご覧ください https://youtube.com/shorts/fB_oZQbM84c

【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになるでしょう:

- 1) 21 世紀の私たちの社会にどのような民主主義文化がふさわしいかという考え (シティズンシップ) を身につけるための第一歩を踏み出している。
- 2) ポピュリズムという言葉の意味合いは、国や歴史時代により異なるが、こうした異なる意味合いに関する基本的な洞察を持っている。
- 3) 学生の皆さんが非常に興味を持っている今の文化的トピックを、現代の社会問題に関連づける方法を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミ I 「人物と映像からみる『ポピュリズム』」は基本的に「対面」です。ただし、学生の皆さんの個別の事情や状況により、Zoom を使った参加を積極的に認めています。

(イ) 毎回、教員から授業内容の説明があり、これに対し、学生から質問や意見を出す時間帯があります。

(ウ) 【希望者のみ】ひとりひとりの参加者が今関心をもっていることについて、話題提供した場合、加点をいたします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	教員からの話題提供 (マイケル・ヤング『メリトクラシー』をめぐって)	学生はとくに事前準備の必要なし → 授業内で学生が発言
3	ポピュリズムとは何か①	教員による説明 (ドーナツ型の中心がからっぽなイデオロギーとしてのポピュリズム) → 授業内で学生が発言
4	ポピュリズムとは何か②	教員による説明 (反エスタブリッシュメントの主張と「ハートランド」) → 授業内で学生が発言
5	世界のポピュリズム①	教員による説明 (ロシアと南北アメリカにおけるポピュリスト政治家たち) → 授業内で学生が発言

6	世界のポピュリズム②	教員による説明 (ヨーロッパ、オセアニア、東南アジア、アフリカ、中東におけるポピュリスト政治家たち) → 授業内で学生が発言
7	ポピュリズムと動員①	教員による説明 (ペルーの A・フジモリ、合衆国のティーバーティー運動) → 授業内で学生が発言
8	ポピュリズムと動員②	教員による説明 (シャットシュナイダー『半主権人民』における政変の役割の強調と、一部のポピュリズム政治家が好む「即席政党」) → 授業内で学生が発言
9	ポピュリズムの指導者①	教員による説明 (マッチョさを強調しがちな男性ポピュリスト政治家に対し、女性らしさを庶民性と結びつけようとする女性ポピュリスト政治家) → 授業内で学生が発言
10	ポピュリズムの指導者②	教員による説明 (ボリビアの E・モラレスにおける先住民と庶民性の結びつけ) → 授業内で学生が発言
11	ポピュリズムとデモクラシー①	教員による説明 (どのような局面で、ポピュリズムは民主化を促すか) → 授業内で学生が発言
12	ポピュリズムとデモクラシー②	教員による説明 (どのような局面で、ポピュリズムは民主制の崩壊をもたらすか) → 授業内で学生が発言
13	原因と対応	教員による説明 (有権者は何を求めてポピュリスト政治家に投票するのか) → 授業内で学生が発言
14	まとめ	映像作品をめぐって ※詳細は【その他の重要事項】に記載されているリンク先をご覧ください。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(ア) 【授業計画 / Schedule】のなかで毎回触れる内容、とくに提供された文字資料を落ち着いて読んだり、リストに掲載された映像素材を視聴したりするなどして、ふりかえりを行う。

(イ) 【希望者のみ】指定する LMS (Google Classroom か学習支援システム) に、関心のある事柄にかんする投稿を行う。

(ウ) この授業の準備や復習に必要な時間は、上記 (ア) (イ) などの作業に必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト (教科書)】

ほぼ毎回資料を配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

ゼミでお話をするさいの基本図書として、次の本を挙げておきます。カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔 & 高山裕二訳、白水社、2018 年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への参加 (平常点) 30%
2. 授業中における発言や質問 30%
3. 【希望者のみ】授業外の準備を伴う話題提供 40%
4. 授業運営への貢献 (教員が間違っていた場合の学生による指摘など) ※ 1 から 3 の評価項目の枠外の形で、全体の 100% のなかで 10% 程度の得点を、貢献があった都度ごとに加算していきます。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそう敬遠したくなるという方もいるようです。・この教養ゼミ I は、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談も OK です。
- ・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://docs.google.com/document/d/13Iw8ChJ11-Y8vLf5zieegSwS0-1aBOua3c33BHgYQzY/edit?usp=sharing>

【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue: "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

[Learning Objectives]

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

[Learning activities outside of classroom]

- (a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
- (b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
- (c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

[Grading Criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Class participation 30%
2. In-class comments and questions 30%
3. [If you wish] Presentation of a topic involving preparation outside of class 40%
4. Contribution to class management (e.g., pointing out mistakes made by the instructor) *About 10% of the total points will be added for each contribution outside the framework of the evaluation items 1 to 3, out of 100% of the total.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の社会では、モノやお金だけでなく、人も多く移動しており、国境を越えるこうした動きが、世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしています。この教養ゼミⅡ「人物と映像からみる『移民社会』」は、学生の皆さんの参加を中心に組み立てられており、海外の文化や政治・経済に詳しくない人も、大学卒業後いわゆる社会人となるにあたり、必要な学びを体験することができます。この授業のテーマを紹介する動画 (約 5 秒) をご覧ください <https://youtube.com/shorts/Pxcuapv0j4>

【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになるでしょう:

- 1) 人口 1700 万人強のオランダが、なぜ、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
- 2) 欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、さまざまな宗派をめぐる公的な位置づけのあり方 (政教分離) や、経済、とくに雇用面におけるジョブ型社会の流動化 (福祉国家の変容) といった要素を、考慮に入れることができる。
- 3) 学生の皆さんが非常に興味を持っている今の文化的トピックを、現代の社会問題に関連づける方法を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミⅡ「人物と映像からみる『移民社会』」は基本的に「対面」です。ただし、学生の皆さんの個別の事情や状況により、Zoom を使った参加を積極的に認めています。

(イ) 毎回、教員から授業内容の説明があり、これに対し、学生から質問や意見を出す時間帯があります。

(ウ) 【希望者のみ】ひとりひとりの参加者が今関心をもっていることについて、話題提供した場合、加点をいたします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	教員からの話題提供 (ル・ボン『群衆心理』をめぐって)	学生はとくに事前準備の必要なし → 授業内で学生が発言
3	オランダにおける「保守主義型福祉国家」と、複数の宗派が並び立つ「列柱社会」	教員による説明 (移民社会の議論に入る前に、近現代のオランダの成り立ちにかんする基本情報をお示しする) → 授業内で学生が発言
4	宗派ごとに組織された団体の大きな役割と、「保守主義型福祉国家」の行き詰まり	教員による説明 (第二次世界大戦後に成立した、政府・経営者団体・労働組合の協調体制であるネオ・コーポラティズムが話の軸となる) → 授業内で学生が発言

5	福祉国家改革の始まるパートタイム社会化するオランダ	教員による説明 (就業不能者に対する施策が充実していたがゆえに就業率が低かった「非就労の罫」から話がスタート) → 授業内で学生が発言
6	ポスト近代社会の到来とオランダモデル	教員による説明 (就労のパートタイム化と性別の役割分担をめぐるオランダの論争) → 授業内で学生が発言
7	移民批判も辞さない「リベラルなポピュリスト」フォルタインの登場	教員による説明 (パートタイム労働の正規化と並んで進んだオランダの移民社会化) → 授業内で学生が発言
8	フォルタイン党の躍進とフォルタイン殺害	教員による説明 (既成の政治家・政党の批判により躍進した「政治家企業家」フォルタインと、その暗殺にたいするオランダの人びとの驚きや怒り) → 授業内で学生が発言
9	中間ふりかえり	映像作品をめぐって ※詳細は【その他の重要事項】に記載されているリンク先をご覧ください。
10	ファン・ゴッホ殺害事件	教員による説明 (ソマリア生まれでオランダに難民として受け入れられ議員となった女性の事績を併せて紹介) → 授業内で学生が発言
11	ウィルデルス自由党の躍進	教員による説明 (2005 年、ヨーロッパ憲法条約の批准反対がオランダの国民投票で大差で勝利) → 授業内で学生が発言
12	福祉国家改革と移民	教員による説明 (就労しなければならぬ社会における、移民の「義務」の強調) → 授業内で学生が発言
13	脱工業社会における言語・文化とシティズンシップ	教員による説明 (もっぱら肉体労働を移民に求めていたかつての産業社会なら、言語や文化の上での同化は、労働の副次的な要素とみなされえたが、サービス産業を中心とする現代の先進国では、当該地域における多数派の言語や文化、習慣、価値観を理解しない労働者は「コミュニケーション能力」を欠くとみなされる? → 授業内で学生が発言
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(ア) 【授業計画 / Schedule】のなかで毎回触れる内容、とくに提供された文字資料を落ち着いて読んだり、リストに掲載された映像素材を視聴したりするなどして、ふりかえりを行う。

(イ) 【希望者のみ】指定する LMS (Google Classroom) か学習支援システム) に、関心のある事柄にかんする投稿を行う。

(ウ) この授業の準備や復習に必要な時間は、上記 (ア) (イ) などの作業に必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト (教科書)】

ほぼ毎回資料を配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

ゼミでお話をするさいの基本図書として、次の本を挙げておきます。水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019 年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への参加 (平常点) 30%
2. 授業中における発言や質問 30%
3. 【希望者のみ】授業外の準備を伴う話題提供 40%

4. 授業運営への貢献（教員が間違っていた場合の学生による指摘など）※ 1 から 3 の評価項目の枠外の形で、全体の 100%のなかで 10%程度の得点を、貢献があった都度ごとに加算していきます。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談も OK です。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】

https://docs.google.com/document/d/1ANH7d-6TYnhuiaehI3bji1OxTK7AOLdg7H_VEDsdlQE/edit?usp=sharing

【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
- 2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
- 3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Class participation 30%
2. In-class comments and questions 30%
3. [If you wish] Presentation of a topic involving preparation outside of class 40%
4. Contribution to class management (e.g., pointing out mistakes made by the instructor) *About 10% of the total points will be added for each contribution outside the framework of the evaluation items 1 to 3, out of 100% of the total.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 2 単位

定員制

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の主な目的は、「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、日本語（と英語や他の言語）で歴史文書を読み、分析する方法について学び、使用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的的文章を読み解き、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、生徒同士そして生徒と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における、日本に関する最初の史料

3	第 1 次グローバル化における日本 (1)	世界の分割と日本
4	第 1 次グローバル化における日本 (2)	日本の「発見」
5	十字架、マスケット銃と「カステラ」(1)	マスケット伝来
6	十字架、マスケット銃と「カステラ」(2)	日本におけるキリスト教
7	十字架、マスケット銃と「カステラ」(3)	ラテン語、ポルトガル語、日本語
8	学生による発表①	史料の紹介と分析
9	学生による発表②	史料の紹介と分析
10	学生による発表③	史料の紹介と分析
11	学生による発表④	史料の紹介と分析
12	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑥	史料の紹介と分析
14	まとめ	前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。

大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト等 (授業内): 25%
- ・宿題、「予習シート」(自宅): 20%
- ・発表 (史料の紹介と説明) : 35%
- ・出席点: 20%

※ 欠席 1 回につき、「出席点」が 10% 下がる。3 回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく 20 分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景 (言語レベル等)、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European / American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European / American relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう変わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、日本語（と英語や他の言語）で歴史文書を読み、分析する方法について学び、使用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的文章を読解し、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本（文化）はどう変わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、生徒同士そして生徒と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	「鎖国」とグローバル化(1)	日本の「閉鎖」
3	「鎖国」とグローバル化(2)	使節団
4	「鎖国」とグローバル化(3)	「蘭学」と西洋の科学と技術の伝来
5	「鎖国」とグローバル化(4)	漂流人と放浪者
6	「鎖国」とグローバル化(5)	「十字架、鯨と大砲」
7	第2次グローバル化における日本(1)	日本帝国主義の曙
8	第2次グローバル化における日本(2)	大規模な移民
9	学生による発表①	史料の紹介と分析
10	学生による発表②	史料の紹介と分析
11	学生による発表③	史料の紹介と分析
12	学生による発表④	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
14	まとめ	後期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト等(授業内):25%
- ・宿題、「予習シート」(自宅):20%
- ・発表(史料の紹介と説明)：35%
- ・出席点:20%

※欠席 1 回につき、「出席点」が 10%下がる。3 回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく 20 分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景（言語レベル等）、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European / American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European / American relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) A 2017年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は A1 レベルに達している学生 (つまり 2, 3 セメスターの学習経験) を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。

尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法 ("immersion")」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身に付けたり、日常会話で使える言葉覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1 レベルの学生達が完全な A2 レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準 2 級・2 級) や Study Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE A2 は、ライティングと文法の体系的な復習を含め、オーラルコミュニケーションに重点を置いています。どんな学生でも自信を持って上達できるプログレッシブな教科書です。また、付属の課題や練習問題等により、授業外の自習も可能となっています。

尚、内容は非常にバラエティに富んでおり、世界中を旅しながらフランス語圏の多くの文化的側面を発見することができます。

この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので、そのつもりで下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Unité 1 L1	Faire connaissance
2	Unité 1 L2	Mes meilleurs amis
3	Unité 1 L3	Sorties entre amis
4	Unité 1 L4	Une situation imprévue
5	Unité 2 L1	1,2,3; prêts?
6	Unité 2 L2	Partez!
7	Unité 2 L3	D'autres quotidiens
8	Unité 2 L4	Respectez les règles
9	Unités 1 et 2	Bilan et évaluation
10	Unité 3 L1	Que s'est-il passé?
11	Unité 3 L2	Tout change avec le temps
12	Unité 3 L3	C'est leur histoire
13	Unité 3 L4	C'était terrible!

14 Unité 3

Bilan et évaluation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身に付くものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は必須。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ODYSSÉE, Niveau A2 ; A. Bredelet, B. Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International

ISBN : 978-2-09-035572-7

【参考書】

仏和・和仏辞書 (本でも、電子辞書でも、アプリでも) を持参することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題、(小) テスト、ミニ発表等: 約 40 %
- ・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約 20 %
- ・作文: 約 20 %
- ・出席点: 約 20%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり、遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語 A1 レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about "francophonie" will also be strengthened.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

- ・Homework, (short) tests and presentations: app.40 %
- ・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
- ・Essays: app.20 %
- ・Attendance: app.20%。

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) B 2017年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 2 単位

定員制 (20 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は A1 レベルに達している学生 (つまり 2, 3 セメスターの学習経験) を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。

尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法 ("immersion")」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身に付けたり、日常会話で使える言葉覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1 レベルの学生達が完全な A2 レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準 2 級・2 級) や Study Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE A2 は、ライティングと文法の体系的な復習を含め、オーラルコミュニケーションに重点を置いています。どんな学生でも自信を持って上達できるプログレッシブな教科書です。また、付属の課題や練習問題等により、授業外の自習も可能となっています。

尚、内容は非常にバラエティに富んでおり、世界中を旅しながらフランス語圏の多くの文化的側面を発見することができます。

この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので、そのつもりでいて下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Unité 4 L1	Quel caractère!
2	Unité 4 L2	Qui suis-je?
3	Unité 4 L3	C'est ma vie!
4	Unité 4 L4	Réussir un entretien
5	Unité 5 L1	Tendance wax
6	Unité 5 L2	Des vêtements bien chauds
7	Unité 5 L3	Tout s'achète en un clic!
8	Unité 5 L4	Dépenser sans compter?
9	Unités 4 et 5	Bilan et évaluation
10	Unité 6 L1	Des projets?
11	Unité 6 L2	On ira voir le match?
12	Unité 6 L3	On part en week-end!
13	Unité 6 L4	Tout va bien?

14 Unité 6

Bilan et évaluation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられないものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身に付くものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は必須。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ODYSSÉE, Niveau A2 ; A. Bredelet, B. Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International

ISBN : 978-2-09-035572-7

【参考書】

仏和・和仏辞書 (本でも、電子辞書でも、アプリでも) を持参することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

・宿題、(小) テスト、ミニ発表等: 約 40 %

・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約 20 %

・作文: 約 20 %

・出席点: 約 20%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり、遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語 A1 レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about "francophonie" will also be strengthened.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, (short) tests and presentations: app.40 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %

・Essays: app.20 %

・Attendance: app.20%。

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A 2017 年度以降入学者**木部 敬**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、ся 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）

第 13 回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第 14 回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウイナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021 年、2000 円＋税。

辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。

東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）20 %、期末試験 80 %。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 B 2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的な言語であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントをコンパクトな教材を用いて順次学んでいきます。文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2、名詞、形容詞	単語の発音、名詞の性、形容詞の性変化
第 3 回	所有代名詞	名詞の複数形、所有代名詞の性・数変化、形容詞の性・数変化
第 4 回	「～する」	人称代名詞、動詞の現在形 (人称変化)
第 5 回	「(何々) を」	名詞の対格
第 6 回	「～しろ」	動詞の命令形
第 7 回	「(どこどこ) へ行く」	移動の動詞 (定動詞/不定動詞)
第 8 回	「(何々、誰々) の」、 「(何々) を持っている」	名詞の生格、所有の表現
第 9 回	「～するだろう」	動詞の未来形 (人称変化)
第 10 回	「(どこどこ) で」	名詞の前置格
第 11 回	「～した」、「(誰々) を」	動詞の過去形 (性・数変化)、活動体を表す名詞の対格
第 12 回	「(何々、誰々) へ」、 「(何々、誰々) と」	名詞の与格、名詞の造格
第 13 回	「～する/～しおえる」	動詞の体 (完了体/完了体)
第 14 回	期末試験、まとめと解説	文法問題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト (教科書)】

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート (改訂版)』白水社、2005 年。
辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。
東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門 (改訂版)』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

宿題 20%、期末試験 80%。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です (例えば、名詞の性が分からないと、名詞の複数形が分からない。名詞の性と数が分からないと、名詞と形容詞の結合が分からない、また動詞の過去形も分からない、さらには名詞の格も分からない、等々)。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 2017 年度以降入学者
A

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 A2 (基本レベル) の受験勉強に役に立ちます。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストの読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「ロシア語の学習」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
2	「学校と大学」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
3	「大学と大学生」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
4	「留学生たち」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
5	「寮の住まい」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
6	「部屋」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
7	「一日の流れ」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
8	「週のスケジュール」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
9	「休暇の過ごし方」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
10	「好きなこと」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
11	移動の表現	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
12	「図書館に行く」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
13	復習	聴解、文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、出席および宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の基準を明確にします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末 (PC やタブレットなど) が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続きロシア語の解読と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (T P K I) A2 レベルの受験勉強にも役立ちます。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳 (露和・和露) ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解読し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	お食事	テキストの読解、会話練習
2	カフェやレストランにて	テキストの読解、会話練習
3	手紙を書く	テキストの読解、会話練習
4	郵便局にて	テキストの読解、会話練習
5	プレゼントの文化	テキストの読解、会話練習
6	お買い物	テキストの読解、会話練習
7	招待する	テキストの読解、会話練習
8	病気と健康	テキストの読解、会話練習
9	病院にて	テキストの読解、会話練習
10	街の見学に行く	テキストの読解、会話練習
11	旅行に行く	テキストの読解、会話練習
12	空港にて	テキストの読解、会話練習
13	復習	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新出単語の学習はオンラインでできるサイトを紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時及び学習支援システムにて授業のプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50 %、出席、宿題、授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲を明確にします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末 (PC やタブレットなど) が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

実用ロシア語A

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 1 (T P K И-1、B1) を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 T P K И A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介、名前、挨拶	関係代名詞の用法。会話練習、リスニング
2	初回場面のトーク	意見を述べる。会話練習・リスニング
3	友好について	性格、家族メンバー、比較表現。会話練習、リスニング
4	人の外見	比較表現、形容詞の与格、慣用句。会話練習、リスニング
5	何を着る	衣類、最上級、形容詞の格変化復習。会話練習、リスニング
6	人の体	年齢や外見の話、比較、ч е м - т е м 構文。会話練習、リスニング
7	結婚パーティ	単語復習、関節発話、慣用句。会話練習、リスニング
8	薬局にて	症状の話、診察の表現、薬の購入。会話練習、リスニング
9	健康の維持	再帰動詞、慣用句。会話練習、リスニング
10	スポーツ	会話練習、リスニング
11	身近な人々について	人のことについて言える表現の復習、会話練習、リスニング
12	友人へのメール	メールの書き方、構成。会話練習、作文
13	総合復習	1~12 の復習
14	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時及び学習支援システムにて毎回授業プリントを配布します。

【参考書】

「大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト」沼野恭子他 (著) 東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。Hoppii 学習支援システムにアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更できます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

定員制 (20 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、動画鑑賞やリスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (T P K И) B1 の合格を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 T P K И A2-B1 の受験に向けて準備ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由で提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行先のホテル	ホテルの種類や特徴について話す。リスニング練習、会話練習
2	ホテルの受付	予約する、ホテルスタッフと話す。リスニング練習、会話練習
3	有名なホテル	接頭辞の移動動詞。リスニング練習、会話練習
4	住まいについて	住まいの種類や特徴。リスニング練習、会話練習
5	部屋について	場所の前置詞、与格の復習。リスニング練習、会話練習
6	引越しパーティ	慣用句。リスニング練習、会話練習
7	食べ物	料理、食べ物。リスニング練習、会話練習
8	食生活	生格、造格の復習。リスニング練習、会話練習
9	スーパーの買い物	数字と複数生格。リスニング練習、会話練習
10	ファストフード店	不定代名詞。リスニング練習、会話練習
11	料理を作る	レシピ、程度表現。リスニング練習、会話練習
12	レストラン	お食事エチケット、慣用句。リスニング練習、会話練習
13	総合復習	1~12 の復習

14 期末試験

筆記試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時及び学習支援システムにて毎回授業プリントを配布します。

【参考書】

「大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト」沼野恭子他 (著) 東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。Hoppii 学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更できます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria / Policy)

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

ロシア語講読 A

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その 1）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習（その 2）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その 3）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読（その 1）回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読（その 2）ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴァ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読（その 3）ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する 19 世紀科学」
7	テキスト講読（その 4）おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読（その 5）文学、芸術	短文「美（『カラマーゾフの兄弟』より）」、「映画芸術」
9	テキスト講読（その 6）文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読（その 7）歴史	短文「アレクサンドル 1 世」、「ニコライ 2 世」
11	テキスト講読（その 8）文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読（その 9）文学	短文「トルストイ」
13	テキスト講読（その 10）文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading A.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA

ロシア語講読 B

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。

様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読 (その1) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人 (第 1 節)」
2	テキスト講読 (その2) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人 (第 2 節)」
3	テキスト講読 (その3) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人 (第 3 節)」
4	テキスト講読 (その4) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第 1 節)」
5	テキスト講読 (その5) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第 2 節)」
6	テキスト講読 (その6) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第 3 節)」
7	テキスト講読 (その7) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第 4 節)」
8	テキスト講読 (その8) 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者 (第 1 節)」
9	テキスト講読 (その9) 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者 (第 2 節)」
10	テキスト講読 (その10) 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者 (第 3 節)」

11	テキスト講読 (その11) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』 (第 1 節)」
12	テキスト講読 (その12) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』 (第 2 節)」
13	テキスト講読 (その13) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』 (第 3 節)」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (訳文提出など) 40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳 (翻訳) を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading B.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA

時事ロシア語 A

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ウクライナ侵攻を受け、ロシア社会にも注目が集まっている。ロシアではなぜプーチン大統領が支持されてきたのか。ウクライナや西側についてどのような認識を持っているのか。そして、今般の侵攻はどのように受け止められているのか。これらの問いに答えるためのほぼ唯一のアプローチといってもよいのが世論調査である。本授業では、ロシアの各種世論調査を題材とし、ロシア社会の実態について考える。なお、世論調査理解の核となる質問文と回答の読解は比較的容易なので、長文や複雑な文章の読解に慣れている必要はない。場合によっては日本語や英語の文献も併用する。ロシア語を読む練習をしたい学生だけでなく、ロシア社会について考えてみたい学生の受講を歓迎する。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアの政治・社会・文化等について自分なりの分析をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は毎回対面形式で行う。まずは政治、国際関係、社会・経済、文化に関わる世論調査についてのロシア語文章を全員で講読する予定である。その後、自分が興味を持つテーマに関わる世論調査のデータを発掘し、簡単な内容紹介と考察を発表してもらう。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。また、要望に応じて訳文や報告資料の添削も実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ロシアにおける世論調査についてのレクチャー
第 2 回	政権の支持率	世論調査結果の講読
第 3 回	ウクライナ侵攻	世論調査結果の講読
第 4 回	世界各国の好感度	世論調査結果の講読
第 5 回	抗議運動	世論調査結果の講読
第 6 回	家族・ジェンダー	世論調査結果の講読
第 7 回	歴史観	世論調査結果の講読
第 8 回	報道の受け止め	世論調査結果の講読
第 9 回	景気・経済	世論調査結果の講読
第 10 回	生活習慣	世論調査結果の講読
第 11 回	考察①	受講者による世論調査結果の紹介・考察と討論
第 12 回	考察②	受講者による世論調査結果の紹介・考察と討論
第 13 回	考察③	受講者による世論調査結果の紹介・考察と討論
第 14 回	学期のまとめ	半期の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講者は事前に文章を読み、わからない単語の意味や文法事項を確認してから授業に参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への参加度、課題の取り組み) (100%)

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマや授業内容は受講者の人数や関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will examine the actual state of Russian society through a reading of the results of various public opinion polls. In this class, students are expected to read mainly Russian texts, but Japanese and English literature will also be included depending on the students' Russian language ability.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the relevant part of the textbook before class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on class contribution and the quality of assignments.

LANr300LA

時事ロシア語 B

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ侵攻という事態を受け、ロシアの政治・社会に改めて注目が集まっている。プーチン大統領の下で作られた政治体制は果たしてどのような特徴を持っているのか。そこにはどのような問題があり、なぜ侵攻という事態に至ったのか。そして、ロシアはこれからどこへ向かうのだろうか。本授業では、こうした問題を考えるための手がかりとして、ロシアの各種政治・社会評論を読み、考察する。なお、本授業ではロシア語で書かれた文章の講読を主とするが、受講者の理解度に応じて日本語や英語の文献も併用する。ロシア語を読む練習をしたい学生だけでなく、ロシア社会について考えてみたい学生の受講を歓迎する。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアの政治・社会・文化等について自分なりの分析をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は毎回対面形式で行う。近年のロシアの政治や社会に関する各種の評論を、その場で意味を取りながら読解する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。また、要望に応じて訳文や報告資料の添削も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明
第 2 回	プーチン体制①	文章の講読および討論
第 3 回	プーチン体制②	文章の講読および討論
第 4 回	ロシアの歴史と政治①	文章の講読および討論
第 5 回	ロシアの歴史と政治②	文章の講読および討論
第 6 回	ロシア社会の特徴①	文章の講読および討論
第 7 回	ロシア社会の特徴②	文章の講読および討論
第 8 回	ロシアのナショナリズム①	文章の講読および討論
第 9 回	ロシアのナショナリズム②	文章の講読および討論
第 10 回	ウクライナ侵攻①	文章の講読および討論
第 11 回	ウクライナ侵攻②	文章の講読および討論
第 12 回	ロシアの今後①	文章の講読および討論
第 13 回	ロシアの今後②	文章の講読および討論
第 14 回	学期のまとめ	半期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に文章を読み、わからない単語の意味や文法事項を確認してから授業に参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者のロシア語レベルに応じた文献を選定する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will read various essays on Russian politics and society. In this class, students are expected to read mainly Russian texts, but depending on the students' Russian language ability, Japanese and English texts will also be included.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the relevant part of the textbook before class, and prepare Japanese translations by checking the meanings of words and grammatical matters. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on class contribution and the quality of assignments.

LANe300LA

第三外国語としての中国語 A 2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1 年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語 B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のイーラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」「発音 3」	「発音の基本」ピンインの「発音 3」
3	「発音 3」「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第 7 課」「第 8 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第 9 課」「第 10 課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」「第 12 課」	「補語」「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」「第 14 課」	「動詞述語文 2」「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」「第 16 課」	「動詞述語文 4」「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」「第 18 課」	「動詞述語文 6」「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」「第 20 課」	「完了態」「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかりと身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点：50 %

②期末試験：50 %

※ e 宿題への取り組みは別途評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 B 2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1 年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語 A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」「第 22 課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」「第 24 課」	「形容詞述語文」
4	「第 25 課」「第 26 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」1
5	「第 27 課」「第 28 課」	「名詞述語文」2
6	「第 29 課」「第 30 課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第 31 課」「第 32 課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第 33 課」「第 34 課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第 35 課」「第 36 課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第 37 課」「第 38 課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第 39 課」「第 40 課」	「把構文」「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	まとめ	「第 21 課から第 40 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点：50 %

②期末試験：50 %

※ e 宿題への取り組みは別途評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

また毎回発表した内容の訂正版の音声を LINE などを受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第 2 回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第 3 回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第 4 回	述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第 5 回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第 6 回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第 7 回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第 8 回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第 9 回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞について勉強する レストランでの会話を発表する
第 10 回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第 11 回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第 12 回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第 13 回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第 14 回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60%）と発表（40%）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should talk by accurate pronunciation.

We should talk daily conversation well.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

また発表した内容の訂正版の音声を LINE などを受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第 2 回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第 3 回	比較文と連動文 会話（1）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第 4 回	構文分析 授業内発表（1）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第 5 回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第 6 回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第 7 回	複合方向補語の派生的 用法 会話（2）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第 8 回	結果補語 授業内発表（2）	文法を確認したのち、会話を発表する
第 9 回	可能補語 会話（3）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第 10 回	使役と受身 授業内発表（3）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第 11 回	処置と倒置 ヒアリング（1）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第 12 回	複文一 ヒアリング（2）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第 13 回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第 14 回	まとめ	口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績（60%）と発表（40%）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 A

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 慣用句・略語・背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳 1 同形語 難訳単語・四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳 2 中訳スキル リプロセシングとパラフレーズ 1	L 1 の逐次通訳演習 L 2 東京案内 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳 2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳 3 役職名、敬称、ビジネスシーンの通訳心得	L 2 の逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳 3 文章記号と表記ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳

8	通訳 3 数字、固有名詞、リサーチ	L 3 の逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳 3 通訳の選択 補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳 4 通訳 短期記憶強化 リプロセシングとパラフレーズ 2	L 5 の逐次通訳演習 L 6 日本事情 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳 4 時事翻訳 1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ）
12	通訳 5 既習単元の逐次通訳演習	L 6 の逐次通訳演習 L 1～6 の復習
13	翻訳 5 時事翻訳 2	最新時事関連の応用翻訳（経済関連テーマ）
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』大修館書店

【参考書】

特に指定しないが、授業時間内に参考となる web サイト等は指定することができる。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の回答状況 10 %

課題提出状況 20 %

期末テスト 70 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳課題の難易度は高いが、事前に解説があったので、なんとか取り組むことができた。

中国語の読解力がついた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to help students acquire Chinese translation and interpretation skills, and to improve their overall ability to use and communicate in Chinese and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and revision time for this subject is two hours each.

For translation, assignments specified by the teacher are to be submitted on time.

Interpreting requires input of key words and phrases, and review and revision of audio material.

【Grading Criteria /Policy】

Responses during class time 10%

Submission of assignments 20%

Final examination 70%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション(復唱)を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 日中の制度等の違いを 踏まえて通訳する 他	L 8 教育
3	翻訳 1	時事翻訳 1
4	通訳 2 分訳 パブリック・スピーキング	L 8 の逐次通訳演習 L 9 友好都市交流
5	翻訳 2	時事翻訳 2
6	通訳 3 外来語	L 9 の逐次通訳演習 L 10 ファッション
7	翻訳 3	時事翻訳 3
8	通訳 4 固有名詞・作品タイトル 接続詞処理	L 10 の逐次通訳演習 L 11 日本のポップカルチャー
9	翻訳 4	時事翻訳 4
10	通訳 5 IT 関連用語 数字	L 11 の逐次通訳演習 L 12 中国の IT 市場
11	翻訳 5	時事翻訳 5

12	通訳 6 既習単元の逐次通訳演習	L 12 の逐次通訳演習 L 8~12 逐次通訳演習
13	翻訳 6	時事翻訳 6
14	通訳 翻訳 総復習 到達度チェック	既習内容の総まとめと確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション(復唱)と復習が必須。

【テキスト (教科書)】

翻訳: プリント教材

通訳: 『日中・中日通訳トレーニングブック』大修館書店

【参考書】

特に指定しないが、授業時間内に、参考となる web サイト等を指定することはある。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の回答 10 %

課題提出状況 20 %

期末テスト 70 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳課題の難易度は高いが、事前に解説があったので、なんとか取り組むことができた。

通訳スキルの習得が非常に参考になった。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to help students acquire Chinese translation and interpretation skills, and to improve their overall ability to use and communicate in Chinese and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and revision time for this subject is two hours each.

For translation, assignments specified by the teacher are to be submitted on time.

Interpreting requires input of key words and phrases, and review and revision of audio material.

【Grading Criteria /Policy】

Responses during class time 10%

Submission of assignments 20%

Final examination 70%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 C

2017 年度以降入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、HSK3 級～5 級 (中国語中級～準上級) のレベルの習得を目標とするクラスです。前期は HSK3 級～4 級レベル (中国語検定試験 3 級) における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
- 2、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回 3、4 個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK 試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。HSK に関する説明
第 2 回	中国語重要文型の復習 (その 1)	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第 3 回	中国語重要文型の復習 (その 2)	各種の疑問文、主述述語文
第 4 回	動作の状態の表し方 (その 1)	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第 5 回	動作の状態の表し方 (その 2)	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”
第 6 回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第 7 回	重要な前置詞 (介詞、その 1)	“在”“从”“到”“離”
第 8 回	これまでの復習	総合復習 (1)、中間テスト
第 9 回	重要な前置詞 (介詞、その 2)	“往”“朝”“向”“对于”“对”“通過”“按照”“关于” など
第 10 回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第 11 回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方
第 12 回	特殊構文 (その 1)	存在を表す構文、連動文
第 13 回	特殊構文 (その 2)	存現文、比較構文、
第 14 回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500 円 (同学社)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (課題) 40% + 中間テスト (30%) + 期末テスト (30%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 D

2017 年度以降入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初級を修了した学習者を対象に、**HSK3 級～5 級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期では**HSK 4 級～5 級レベル**（中国語検定試験 3～2 級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に付ける。
- 2、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回 3、4 個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、**HSK 試験**や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第 2 回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第 3 回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第 4 回	特殊構文（その 1）	使役文と受け身文
第 5 回	特殊構文（その 2）	“是……的”構文
第 6 回	特殊構文（その 3）	“把”構文
第 7 回	特殊構文（その 4）	その他の特殊構文“有”を伴う構文、“一点儿…都”など
第 8 回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第 9 回	中国語の補語（その 1）	結果補語と方向補語
第 10 回	中国語の補語（その 2）	可能補語、数量補語
第 11 回	中国語の補語（その 3）	数量補語、様態補語
第 12 回	中国語の複文（その 1）	並列関係、累加関係、選択関係
第 13 回	中国語の複文（その 2）	因果関係、逆接関係、仮定関係、条件表現など
第 14 回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500 円（同学社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40% + 中間テスト（30%）+ 期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate~advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate~advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA

中国語講読 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。春学期は HSK 3、4 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 3、4 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題①	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題②	HSK 3、4 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題③	HSK 3、4 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題④	HSK 3、4 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑨	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑩	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑪	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同人社）

そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 50%

②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PC で受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

中国語講読 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。秋学期は HSK 4、5 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 4、5 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題①	HSK 4、5 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題②	HSK 4、5 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題③	HSK 4、5 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題④	HSK 4、5 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑨	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑩	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑪	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 4、5 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 50%

②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PC で受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

資格中国語中級A

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分 (41-50) 及び第二部分 (51-55) の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分 (56-60) 及び第三部分 (61-70) の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題 (71-80) の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を出しなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 3. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 3.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 3.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・ Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA

資格中国語中級B

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4 級リスニング対策①	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4 級リスニング対策②	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK4 級リスニング対策③	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4 級リスニング対策④	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4 級リスニング対策⑤	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4 級リスニング対策⑥	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4 級リスニング対策⑦	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4 級リスニング対策⑧	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4 級リスニング対策⑨	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (41-45) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4 級読解対策	HSK4 級読解問題 (46-85) の解説
12	HSK4 級作文対策	HSK4 級作文問題 (86-100) の解説
13	HSK4 級模擬試験と解説	HSK4 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 4. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 4.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 4.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA

資格中国語上級A

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、言葉の使い分け、翻訳する力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを配布し、事前に用意してもらい、授業中みなさんが用意した課題をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。そして作文の書き方も指導します。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	レベルチェック HSK 合格の基準 HSK 5・6 級に到達する概要
第 2 回	HSK5 級の練習	「的」の使い方のまとめ
第 3 回	HSK5 級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第 4 回	作文の基礎	作文の練習（400 字） 練習問題など
第 5 回	HSK5 級の練習 翻訳	作文の問題点など 結果補語など
第 6 回	HSK5 級の練習 翻訳	比較の表現 逆接の表現など
第 7 回	HSK5 級の練習 翻訳	二重目的語 動詞述語文のまとめ
第 8 回	HSK5 級の練習	目的語になる動詞句と主述句など 作文の練習（400 字）
第 9 回	HSK5 級の練習 翻訳	作文の問題点など 練習問題
第 10 回	HSK5 級の練習 翻訳	連用修飾語 前置詞など
第 11 回	HSK5 級の練習 翻訳	主語になる動詞句 慣用形など
第 12 回	HSK5 級の練習	絵を見て作文練習（400 字）
第 13 回	HSK5 級の練習 翻訳	作文の問題点 翻訳の練習
第 14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のプリントをちゃんと準備すること。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

読解力、翻訳力、作文力を高めると同時に発音指導も続けます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc300LA

資格中国語上級B

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、作文能力、翻訳能力を高めて、HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳と作文の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。提出された課題をチェックして返却します。問題点を個人個人に説明する他に、次の授業の時に全員にも説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2 回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3 回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4 回	作文など	作文練習（400 字）
5 回	作文など	作文指導など
6 回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7 回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8 回	作文など	作文練習（400 字）
9 回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10 回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11 回	HSK 6 級	HSK 6 級の練習
12 回	HSK 6 級	HSK 6 級の練習
13 回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14 回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に文法を学習する資料や課題などを出します。その用意された課題を授業中確認しながら説明します。

本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント添付。

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

読解力と翻訳力を高めると共に発音も指導する方法を続けてやります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

ARSe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「担仔麵に小籠包、臭豆腐、茶葉蛋、豆花…。台湾を代表する現代詩人が民間に根づいた食べものを題目に冠し、その味わいを綴る六十篇」（みすず書房 HP より抜粋）を収める焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021 年。原書『味道福爾摩莎』）をテキストとし、内容を味わいながら台湾の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら中国語の世界にも慣れ親しむ予定です。
※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】

- ・映像資料の鑑賞・中国語文献の確認作業を通して、中国語の世界に慣れ親しむ。
- ・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。
- ・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを食し、授業で得た知見を経験として身につける。
- ・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021 年）をテキストとし、項目ごとに担当者を決める。担当者は内容の整理、調査結果をまとめてプレゼンし、それをもとに参加者はディスカッションを行います。なお、進度によってはシラバス記載のすべての項目を完了できない場合もあります。
調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について—「台湾珈琲（台湾コーヒー）」篇を例に
2	『味の台湾』から読み解く食文化①	「担仔麵（エビと肉とそばろ入り汁麵）」篇に関する調査と発表
3	『味の台湾』から読み解く食文化②	「肉臊飯（豚角切り肉の煮込みぶっかけ飯）」篇に関する調査と発表
4	『味の台湾』から読み解く食文化③	「米粉湯（米めん入りスープ）」篇に関する調査と発表
5	『味の台湾』から読み解く食文化④	「芒果牛奶冰（マンゴーミルクかき氷）」篇に関する調査と発表
6	『味の台湾』から読み解く食文化⑤	「蚵仔煎（カキのオムレット）」篇に関する調査と発表
7	『味の台湾』から読み解く食文化⑥	「小籠包（スープ入り小肉饅頭）」篇に関する調査と発表
8	『味の台湾』から読み解く食文化⑦	「川味紅焼牛肉麵（四川風牛肉煮込み汁麵）」篇に関する調査と発表
9	『味の台湾』から読み解く食文化⑧	「永和豆浆（永和豆乳）」篇に関する調査と発表

- | | | |
|----|------------------|-----------------------------------|
| 10 | 『味の台湾』から読み解く食文化⑨ | 「仏跳牆（さまざまな乾物と肉類の蒸しスープ）」篇に関する調査と発表 |
| 11 | 『味の台湾』から読み解く食文化⑩ | 「刈包（豚肉の醤油煮こみをはさんだ蒸しパン）」篇に関する調査と発表 |
| 12 | 『味の台湾』から読み解く食文化⑪ | 「豆花（おぼろ豆腐）」篇に関する調査と発表 |
| 13 | 春学期のまとめ① | 『味の台湾』から読み解く食文化①～⑤のふりかえり |
| 14 | 春学期のまとめ② | 『味の台湾』から読み解く食文化⑥～⑩のふりかえり |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021 年）

【参考書】

焦桐『味道福爾摩莎』（二魚文化事業有限公司、2015 年）など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：50%
- ・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの回は PC 等から参加できる環境を整えてください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Presentation 50%.

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 2 単位

定員制

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映画『恋する惑星』(王家衛監督、1994 年製作)、『変臉 この權に手をそえて』(呉天明監督、1996 年製作)、『黄色い大地』(陳凱歌監督、1984 年製作)、『芙蓉鎮』(謝晋監督、1987 年製作)、『四川のうた』(賈樟柯監督、2008 年製作)、『在りし日の歌』(王小帥監督、2019 年製作)、をとりあげ、女性、恋愛、芸能、風土、都市、農村、家族、労働、政治社会といった多角的な視点から、中国語圏の文化を捉えなおします。

※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】

- ・中国語圏の映画を実際に観て、関連する知識を得る。
- ・多角的な視点から女性、恋愛、芸能、風土、都市、農村、家族、労働、政治社会について理解を深める。
- ・基本的な歴史の知識を得る。
- ・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

2 回に一度映画を鑑賞し、教員による講義を行います。それをもとに参加者はそれぞれの視点からその映画について考えたこと、感じたことをまとめてプレゼンし、ディスカッションをおこないます。進度によってはすべての作品を扱うことができない場合もあります。フィードバックは授業内に適宜おこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業のすすめ方について
2	若者たちの群像劇—返還前の香港から①	『恋する惑星』(原題『重慶森林』)に関する講義・映画鑑賞
3	若者たちの群像劇—返還前の香港から②	『恋する惑星』(原題『重慶森林』)について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
4	川劇 (四川を代表する地方劇) の変面の老芸人と少女の物語—1920 年代の中国を舞台に①	『変臉 この權に手をそえて』(原題『変臉』)に関する講義・映画鑑賞
5	川劇 (四川を代表する地方劇) の変面の老芸人と少女の物語—1920 年代の中国を舞台に②	『変臉 この權に手をそえて』(原題『変臉』)について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
6	民謡収集にきた八路军の文芸工作員と農村の少女の物語—1939 年の中国を舞台に①	『黄色い大地』(原題『黄土地』)に関する講義・映画鑑賞

7	民謡収集にきた八路军の文芸工作員と農村の少女の物語—1939 年の中国を舞台に②	『黄色い大地』(原題『黄土地』)について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
8	文化大革命の時代を生き抜いた女性の物語①	『芙蓉鎮』(原題『芙蓉鎮』)に関する講義・映画鑑賞
9	文化大革命の時代を生き抜いた女性の物語②	『芙蓉鎮』(原題『芙蓉鎮』)について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
10	閉鎖される巨大国营工場を舞台に労働者たちの歴史と人生の物語①	『四川のうた』(原題『二十四城記』)に関する講義・映画鑑賞
11	閉鎖される巨大国营工場を舞台に労働者たちの歴史と人生の物語②	『四川のうた』(原題『二十四城記』)について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
12	一人っ子政策を背景とした夫婦の物語—1980 年代から 2000 年代の中国を舞台に①	『在りし日の歌』(原題『地久天长』)に関する講義・映画鑑賞
13	一人っ子政策を背景とした夫婦の物語—1980 年代から 2000 年代の中国を舞台に②	『在りし日の歌』(原題『地久天长』)について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
14	まとめ	秋学期のふりかえり

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

藤井省三『中国映画 百年を描く、百年を読む』(岩波書店、2002 年)
西澤治彦『中国映画の文化人類学』(風響社、1999 年)
応雄『中国映画のみかた』(大修館書店、2010 年) など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点: 50 %
- ・プレゼンテーション: 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規テーマにつきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Presentation 50%.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 A 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 第0課 イントロダクション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	第1課 スペイン語で友だちになろう	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0~10、スペイン語圏の名前
3	第2課 慣用句を便利に使おう	名詞の性数、職業、冠詞、指示詞
4	第3課 感動を伝えよう	主格人称代名詞、動詞 ser、国籍、数詞 11~20
5	第3課 感動を伝えよう	疑問文と否定文、形容詞、感嘆文
6	小テスト 第4課 いろいろな動詞を使おう	規則動詞、疑問詞 1、数詞 21~30
7	第4課 いろいろな動詞を使おう	所有詞、親族名称、アメリカ合衆国とメキシコ
8	第5課 お願いしたり、指示を理解しよう	動詞 estar、直接目的語と間接目的語、数詞 31~100、
9	第5課 お願いしたり、指示を理解しよう	tú と usted への肯定命令、グアテマラ
10	第6課 どこにいるか、何があるか確認しよう	動詞 estar, hay、位置関係を表す 語句
11	第6課 どこにいるか、何があるか確認しよう	疑問詞 2、コスタリカ
12	第7課 しなければいけない、するつもり	1 人称単数不規則動詞、天候表現
13	第7課 しなければいけない、するつもり	動詞 tener, ir、キューバ

14 期末試験、ふりかえり 春学期の学習事項に関する試験と
ふりかえり

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

柳田玲奈/吉野達也『ラテアメ! スペイン語—ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023 年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
高橋寛二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんドリル! スペイン語文法目別』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、小テスト (10%)、期末試験 (40%) から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているため、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.
The goals are to pronounce Spanish correctly, express your daily life in Spanish and apprehend Spanish-speaking world.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process;
in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

定員制 (40 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

現在と過去の動詞の時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第8課 許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	語幹母音変化動詞
2	第8課 許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	不規則動詞、頻度の表現
3	第9課 好きなものを伝えよう	目的格人称代名詞
4	第9課 好きなものを伝えよう	前置詞格人尿代名詞、動詞 gustar
5	第10課 日常生活について話そう	再帰動詞
6	第10課 日常生活について話そう	時刻、曜日、コロンビア
7	小テスト 第11課 今していることや、これまでの経験を話そう	現在分詞、過去分詞
8	第11課 今していることや、これまでの経験を話そう	現在完了、不定語・否定語
9	第12課 過去の出来事を伝えよう	点過去規則動詞
10	第12課 過去の出来事を伝えよう	比較、ペルー
11	第13課 過去の出来事を伝えよう	点過去不規則動詞
12	第13課 主語のない文を使おう	無人称表現、muy と mucho
13	第14課 昔のことを	線過去、アルゼンチン語等

14 期末試験、ふりかえり 秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

柳田玲奈/吉野達也『ラテアメ! スペイン語—ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
高橋寛二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんどリル! スペイン語文法項目別』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、小テスト (10%)、期末試験 (40%) から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているので、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和英辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners. The goals are to master basic daily Spanish conversation, reading and composition and apprehend Spanish-speaking world. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA

スペイン語上級 A

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

SA スペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化の理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭にて行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

当番学生は、授業で扱う読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに教材を徹底的に読みこみ、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他の学生の発表の際の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA

スペイン語上級B

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 2 単位

定員制 (40 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2) 程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を指名して解答を要求する。教師はそれについてアドバイスやコメントを行なう。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員による授業。 テーマに関するディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他の学生の発表の際の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級 A 2017 年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期はオンラインでの開講となる。授業開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

【到達目標】

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に仲間同士で10個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

本授業には課題がない。期末には「日本の結婚式」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。期末のレポートを添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	スペインの結婚式の開催時刻の習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインの結婚式会場	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインの結婚式の披露宴の招待客	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインの結婚式の披露宴の席順	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインの結婚式の披露宴のダンス（前半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの結婚式の披露宴のダンス（後半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの結婚式の二次会のはじまり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの結婚式の二次会の終わり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

9	スペインの結婚式の祝儀の渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの結婚式の祝いプレゼントの渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの結婚式のトリック儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの結婚式の非宗教儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインの恋人たち	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	春学期の総復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りする PDF の新しい語彙を覚えることと Break Out Room で使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので、授業に臨む前に今一度目を通していただくが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではありません → 60 %
2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業が良かったので、今年も同じテーマの PP を使う。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【Outline (in English)】

The spring semester will be offered online. By the first day of classes, specific instructions on how to teach online will be presented in the learning support system.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practising and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Grading Criteria:

1. Marks based on responses to pointers in class and marks based on the student's attitude and active participation in the class. This is not a mark for attendance → 60%.
2. Mark based on the final report of the term → 40%.

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practise answering the 10 questions in the Break Out Room. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中 2017 年度以降入学者級 B

瓜谷 アウロラ

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期はオンラインでの開講となる。授業開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

【到達目標】

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

ZOOM でリアルタイムで行う。

Break Out Room を使って、決まった質問の練習から始める。その後復習をしてから、リスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習で新しい文章の理解を深めていく。最後に日本語からスペイン語への翻訳トレーニングもやる。

本授業には課題がない。期末には「日本のクリスマスと新年の祝賀」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。期末のレポートを添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	スペインのクリスマス 宝くじの習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインのクリスマス シーズンの始まり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインのクリスマス イブの過ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインのクリスマス の飾り付け	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインのクリスマス プレゼント	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの大晦日の過 ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの大晦日の年 越しぶどうの起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの大晦日の年 越しぶどうの食べ方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

9	スペインの元旦について	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの元旦の習慣 の起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの東方の三賢 人のパレード	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの 1 月 6 日 の祝日	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインのクリスマス 休暇	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	秋学期の総合復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りする PDF の新しい語彙を覚えることと Break Out Room で使う 10 個の質問の答えを言えるように練習しておくことです。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通していただくことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。

出席点ではありません → 60 %

2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業が良かったので、今年も同じテーマの PP を使う。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【Outline (in English)】

The fall semester will be offered online. By the first day of classes, specific instructions on how to teach online will be presented in the learning support system.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practising and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Grading Criteria:

1. Marks based on responses to pointers in class and marks based on the student's attitude and active participation in the class. This is not a mark for attendance → 60%.

2. Mark based on the final report of the term → 40%.

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practise answering the 10 questions in the Break Out Room. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

ARSa300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペイン（およびスペイン国家形成以前のイベリア半島）の歴史をテーマとし、春学期は前近代（古代～近世）の通史を軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、ディスカッションと学期末レポートにおいて正確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の授業の最後に、次の回で扱うテキストの範囲と、調べたりコメントを準備したりしてきてほしいテーマについて指示する。次の回の授業では、調べた内容やコメントを受講生に発表してもらい、それらに応じる形で教員が講義を行うとともに、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン（イベリア）古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン（イベリア）中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17 世紀のスペイン史について学ぶ。
12	絶対王政と啓蒙	18 世紀のスペイン史について学ぶ。

- 13 スペインの世界遺産 世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。
- 14 春学期のまとめ スペイン（イベリア）前近代史を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読み、指示された課題に取り組んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題への取り組みとディスカッションへの参加の度合い：60 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。

・スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading and discussion.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria / Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (60%), and term-end report (40%).

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペインの歴史をテーマとし、秋学期は近現代の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、ディスカッションと学期末レポートにおいて正確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

各回の授業の最後に、次の回で扱うテキストの範囲と、調べたりコメントを準備したりしてきてほしいテーマについて指示する。次の回の授業では、調べた内容やコメントを受講生に発表してもらい、それらに応じる形で教員が講義を行うとともに、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	旧体制の揺動	18 世紀末から 19 世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19 世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19 世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベラ独裁	20 世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20 世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州国家体制	現行制度でもあるスペインの自治州国家体制について学ぶ。
13	スペインの憲法	歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。

14 秋学期のまとめ

歴史的理解をもとに、現在のスペインにおける諸問題を検討する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読み、指示された課題に取り組んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は授業内で適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題への取り組みとディスカッションへの参加の度合い: 60%、学期末レポート: 40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。

・スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading and discussion.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (60%), and term-end report (40%).

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 語彙	教科書第 1 課の語彙確認
3	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 表現	教科書第 1 課の表現確認
4	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 文法	教科書第 1 課の文法復習
5	「私のビスケット」(Mis galletas) : 語彙	教科書第 2 課の語彙確認
6	「私のビスケット」(Mis galletas) : 表現	教科書第 2 課の表現確認
7	「私のビスケット」(Mis galletas) : 文法	教科書第 2 課の文法復習
8	中間テスト 「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 3 課の語彙確認
9	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 表現	教科書第 3 課の表現確認

10	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 文法	教科書第 3 課の文法復習
11	「最後の仕事」(El último trabajo) : 語彙	教科書第 4 課の語彙確認
12	「最後の仕事」(El último trabajo) : 表現	教科書第 4 課の表現確認
13	「最後の仕事」(El último trabajo) : 文法	教科書第 4 課の文法復習
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書各課の予習 (未知の単語を辞書で調べることなど) や宿題 (教科書の練習問題) に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ: スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish

- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)

- Mid-term exam (30%)

- Term-end exam (40%)

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧な復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha): 語彙	教科書第 5 課の語彙確認
3	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha): 表現	教科書第 5 課の表現確認
4	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha): 文法	教科書第 5 課の文法復習
5	「腸詰め」(La morcilla): 語彙	教科書第 6 課の語彙確認
6	「腸詰め」(La morcilla): 表現	教科書第 6 課の表現確認
7	「腸詰め」(La morcilla): 文法	教科書第 6 課の文法復習
8	中間テスト 「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha): 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 7 課の語彙確認
9	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha): 表現	教科書第 7 課の表現確認
10	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha): 文法	教科書第 7 課の文法復習
11	「ラビ」(El rabino): 語彙	教科書第 8 課の語彙確認

12 「ラビ」(El rabino): 教科書第 8 課の表現確認

13 「ラビ」(El rabino): 教科書第 8 課の文法復習

14 試験・まとめと解説 今学期の期末テストを実施
まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書各課の予習 (未知の単語を辞書で調べることなど) や宿題 (教科書の練習問題) に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ: スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish

- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)

- Mid-term exam (30%)

- Term-end exam (40%)

